IBM WebSphere Commerce Analyzer

インストールおよび構成ガイド

バージョン 5.5

IBM WebSphere Commerce Analyzer

インストールおよび構成ガイド

バージョン 5.5

ご注意！

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、 109 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書の内容は、新版で特に指定のない限り、IBM WebSphere Commerce Analyzer バージョン 5.5 以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

http://www.ibm.com/jp/manuals/ の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原　典： IBM WebSphere Commerce Analyzer
Installation and Configuration Guide
Version 5.5

発　行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担　当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2003.9

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財) 日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2000, 2003. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2003

目次

図 v

表 vii

本書について ix
本書の規則. ix
変更の要約. ix
関連情報. x
サポート Web サイト xi
ライセンス情報 xii
インストールおよび構成チェックリスト. xii

第 1 章 WebSphere Commerce Analyzer とは 1
WCA の対象ユーザー 2
WCA と WebSphere Commerce の関係. 2

第 2 章 WCA をインストールする前に . . 5
WebSphere Commerce Analyzer の以前のバージョンとの共存 5
WCA サーバーに必要なハードウェア 5
WCA サーバーに必要なソフトウェアのセットアップ 6
WCA とともにインストールされるソフトウェア . . 6
WCA のインストールおよび構成時に必要な情報 . . 6

第 3 章 WCA のインストール前に WebSphere Commerce サーバーに対して必要な更新 9
WebSphere Commerce サーバーの要件 9
カテゴリー・レポート用のカタログ構造 10

第 4 章 WCA のインストール 13

第 5 章 WCA 構成前の確認事項 19
構成前のチェックリスト 19
使用するデータ・ストレージの決定 21
データベース管理ストレージ 21
システム管理ストレージ 21
高速ロードまたはカスタム・ロードの選択 21
複製オプション 23
iSeries 上に複製を構成する前に. 23
+ Oracle に必要な追加セットアップ 24

第 6 章 WCA の構成. 27
構成マネージャーの開始 27
構成マネージャーの使用 28
構成マネージャーのショートカット・キー . . . 28
構成ステップの完了 29
WCA データベースの構成 29
データ・ソースへの接続 29
データマートの作成 31
複製の構成 34
データ・マイニング環境とスケジュールの構成 . 36
DB2 ウェアハウス・センター・コントロール・データベースの構成 38
ウェアハウス・ステップのプロモートの準備 . . 40
実働モードへのウェアハウス・ステップのプロモート. 41
WCA ビジネス・オプションの構成 43
構成パスの選択 43
ストアおよび言語の選択 45
カタログの選択 46
参照およびファイナンシャル期間のロード . . . 47
ビジネス・オプション設定の確認 49
マイニング・モデルの選択 50
オーダー状況値の割り当て 51
オーダー状況プロパティーの選択 52
RFM で合計されるオーダーの選択 54
オーダーとクーポン、イニシアチブ、およびメタフォーの関連付け 56
メンバー属性の選択 58
中止されたオーダーのプロパティーの選択 . . . 59
RFQ プロパティーの定義. 61
契約状況の定義 62
パラメーターの操作 64
構成マネージャーのヘルプおよびログの表示 . . . 66
構成の変更 66
構成マネージャーの再実行 66
パラメーター・マネージャーの開始 66
パラメーター・マネージャーの使用 67

第 7 章 WebSphere Commerce サーバー上でのキャプチャー・プログラムのセットアップ 69
キャプチャーの実行 69
キャプチャーを開始する前に必要な作業. . . . 69
キャプチャー・プログラムの開始 70
キャプチャー・プログラムの停止 71
iSeries プラットフォームでのキャプチャーの実行 71

第 8 章 構成後 73
複製と抽出の実行 74
複製と抽出のスケジューリング. 74
最新のテーブル統計の保持 75
手動による RUNSTATS コマンドの実行. . . . 76
サンプリング・レートの削減 76

第 9 章 WCA の除去. 77
WCA のアンインストール後の作業 78
キャプチャー・プログラムの停止 78

© Copyright IBM Corp. 2000, 2003

付録 A. デフォルト・パラメーター . . . 81
WCA データマート・パラメーター 81
WCA ウェアハウス・センター - コントロール・データベース・パラメーター 82

付録 B. 構成タスクの詳細 83
DMS テーブル・サイズの拡張 83
ウェアハウス・センター - コントロール・データベースの初期化 83
DB2 データウェアハウス・センターへのログイン 84
ウェアハウス・ソースおよびターゲット中の情報の更新 85
WebSphere Commerce テーブルのスキーマ名の変更 86
複製ステップでの情報の更新 86

付録 C. 構成エラー・メッセージ 89
WebSphere Commerce データベース・アクセスの構成エラー・メッセージ 89
WebSphere Commerce Analyzer データマートの作成エラー・メッセージ 89
ソース・データベースの複製セットアップ・エラー・メッセージ 90
マイニングのスケジュール・エラー・メッセージ . . 92
DB2 ウェアハウス・センター - コントロール・データベースの構成エラー・メッセージ 93
ステップのプロモート・エラー・メッセージ . . . 93
オンライン・ストア、およびレポート用の言語と通貨の選択エラー・メッセージ 95
カタログの選択エラー・メッセージ 95
共通構成エラー・メッセージ 96

付録 D. トラブルシューティング 97
インストール時の問題 97
ウェアハウス構成時の問題 97
複製ステップのプロモート時の問題 97
テーブルのパスワードの変更 98
複製に関する問題 98
抽出時の問題 99
1 次キー・エラー 99
FACT_INTEREST テーブルにデータが挿入されない 99
テーブル・スペース・サイズの要件のトラブルシューティング 99
抽出時のエラーのトラブルシューティング . . . 100
最初の複製と抽出の後の問題 100
データマートの操作 101
既存の WCA テーブルの変更 101
複製および抽出時の問題からの回復 101
データベースのスペースが不足した 102
WCA DB2 トランザクション・ログがいっぱいになった 102
ネットワーク障害が発生した 102
Microsoft Windows の障害が発生し、システムまたは DB2 が再始動された 102
ASNCAP プログラムが停止した 103
最初の複製および抽出でステップが失敗した . . 103
最初の複製および抽出の後でステップが失敗した 103
その他の問題 104
レポート内の DBCS または MBCS 文字が壊れている 104
WebSphere Commerce Analyzer によって設定された環境変数 105
ニックネーム作成時の問題 105
WCA システムのロケールの検出 106
WebSphere Commerce システムで予想される言語の検出 107

特記事項 109
商標 110

用語集 113

索引 117

図

1. WebSphere Commerce のコンポーネントと WCA のコンポーネント 3
2. 「IBM DB2 Universal Database Enterprise Server Edition バージョン 8.1 インスタンス所有者情報 (IBM DB2 Universal Database Enterprise Server Edition Version 8.1 Instance Owner Information)」ウィンドウ 15
3. 「IBM WebSphere Commerce Analyzer 構成マネージャー」ウィンドウ 27
4. 「WebSphere Commerce データベース・アクセスの構成」ウィンドウ 30
5. 「WebSphere Commerce Analyzer データマートの作成」ウィンドウ. 32
6. 「初期 DMS 値の変更 (Modify Initial DMS Values)」ウィンドウ. 33
7. 「ソース・データベースの複製セットアップ」ウィンドウ. 35
8. 「マイニングのスケジュール」ウィンドウ 37
9. 「DB2 ウェアハウス・センター - コントロール・データベースの構成」ウィンドウ. . . . 39
+ 10. 「プロモート・ステップの準備」ウィンドウ 41
11. 「ステップのプロモート」ウィンドウ. . . . 42
12. 「ビジネス・オプション構成パス」ウィンドウ 44
13. 「オンライン・ストア、およびレポート用の言語と通貨の選択」ウィンドウ. 45
14. 「カタログの選択」ウィンドウ 47
15. 「参照およびファイナンシャル期間のロード」ウィンドウ. 48
16. 「ビジネス・オプション設定の確認」ウィンドウ. 49
17. 「マイニング・モデルの選択」ウィンドウ 50
18. 「オーダー状況マッピングの構成」ウィンドウ 51
19. 「オーダー状況属性の選択」ウィンドウ 53
20. 「RFM で合計されるオーダーの選択」ウィンドウ 55
21. 「オーダーとクーポン/イニシアチブ/メタフォーとの間の関連の定義」ウィンドウ 57
22. 「メンバー属性の選択」ウィンドウ 59
23. 「中止されたオーダーのプロパティーの選択」ウィンドウ. 60
24. 「見積要求 (RFQ) のプロパティーの選択」ウィンドウ 62
25. 「契約プロパティーの選択」ウィンドウ 63
26. 「WCA パラメーターの保守」ウィンドウ 65
27. 「IBM WebSphere Commerce Analyzer パラメーター・マネージャー」ウィンドウ 67
28. パラメーター・マネージャーの構成設定 68

© Copyright IBM Corp. 2000, 2003

表

1. 構成マネージャーのショートカット・キー 28
2. デフォルトの WCA/WebSphere Commerce オーダー状況値 51
3. WCA データマート構成パラメーター値 81
4. ウェアハウス・センター - コントロール・データベース構成パラメーター値 82

© Copyright IBM Corp. 2000, 2003

本書について

本書には、IBM® WebSphere® Commerce Analyzer バージョン 5.5 (WebSphere Commerce Analyzer または WCA とも呼ばれる) のインストールと構成に関する情報が記載されています。また、インストールと構成を行った後、次の作業を行う場合も本書を参照してください。

- 構成後に必要な作業
- WCA のアンインストール

本書の規則

本書では、以下の強調表示規則を使用します。

Bold (太字体) は、フィールド名、ボタン名、またはメニュー選択などのグラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) やコマンドを示します。

`Monospace (モノスペース体)` は、例、入力するテキスト、または画面に表示されるテキストを示します。

Italic (イタリック体) は、新規用語、資料名、CD ラベル、または実際の値で置き換える必要がある可変情報を示します。

変更の要約

本書の最新版は、 WebSphere Commerce Web サイトの Technical Library ページから、PDF ファイルの形で入手できます。

- Business Edition:

  `http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/wc_be/lit-tech-general.html`
- Professional Edition:

  `http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/wc_pe/lit-tech-general.html`
- WebSphere Commerce - Express:

  `http://www.ibm.com/software/commerce/express/`

本書の最後の版以降に加えられた更新箇所を、余白の改訂文字で示します。本書では、改訂文字に関する以下の規則を使用しています。

- 「+」(プラス) 文字は、本書の現行の改訂版で加えられた更新情報を示しています。

最後の段階で製品に加えられた変更については、現行の製品の README ファイルを参照してください。これは WebSphere Commerce Web サイトでもご覧になれます。

© Copyright IBM Corp. 2000, 2003

関連情報

「WCA インストールおよび構成ガイド」は、 *IBM WebSphere Commerce Analyzer* 版 CD の *locale* ディレクトリーに格納されています。インストール後には、インストールしたロケールのブックを、WCA サーバーの %IWDA_DIR%¥doc¥*locale* ディレクトリーからも参照できます。英語版のブックは %IWDA_DIR%¥doc¥en_US ディレクトリーにインストールされます。

- *locale* はコンピューターのロケールです。たとえば、米国英語の場合、ロケールは en_US です。
- %IWDA_DIR% は、WCA のインストール先 Windows® ディレクトリーを表す環境変数です。デフォルトでは、このディレクトリーは C:¥Program Files¥IBM¥WCA です。

次の表は、WCA で提供される資料と、その説明およびファイル名を示しています。

注: CD から入手可能なのは、「*IBM WebSphere Commerce Analyzer バージョン 5.5 インストールおよび構成ガイド*」と README ファイルだけです。「*IBM WebSphere Commerce Analyzer バージョン 5.5 テクニカル・リファレンス*」と「*IBM WebSphere Commerce Analyzer バージョン 5.5 データマート・リファレンス・ガイド*」は、以下の WebSphere Commerce Web サイトから入手可能です。

- Business Edition:

  `http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/wc_be/lit-tech-general.html`

- Professional Edition:

  `http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/wc_pe/lit-tech-general.html`

- WebSphere Commerce - Express:

  `http://www.ibm.com/software/commerce/express/`

「*IBM WebSphere Commerce Analyzer バージョン 5.5 インストールおよび構成ガイド*」と README ファイルも Web サイトから入手可能です。

資料名	説明	PDF ファイル名
IBM WebSphere Commerce Analyzer バージョン 5.5 インストールおよび構成ガイド	WCA サーバーのインストールと構成に必要な情報が、トラブルシューティング情報とともに記載されています。	install.pdf

資料名	説明	PDF ファイル名
IBM WebSphere Commerce Analyzer バージョン 5.5 テクニカル・リファレンス	以下のトピックに関する情報が記載されています。 • WCA サーバーの保守 • パフォーマンスの向上 • Professional Business IBM DB2® Intelligent Miner™ for Data の使用法 • 以下についてのシステム管理者向けの情報 – 顧客シナリオ – データベース・スキーマの拡張 (ビジネス・レポートへの追加。WCA データマートにフィールドを追加。多くの場合、レポートを追加) – ビジネス・レポートへの追加、レポートの追加、または WCA で提供されるスキーマの変更によるデータベース・スキーマのカスタマイズ	techref.pdf
IBM WebSphere Commerce Analyzer バージョン 5.5 データマート・リファレンス・ガイド	WCA データマート・テーブルおよびビューに関する情報が含まれます。	datamrt.pdf
README ファイル	WCA に関するリリース直前の情報が記載されています。	README.txt

PDF ファイルは、Adobe Acrobat Reader を使用して表示できます。 Adobe Acrobat Reader の詳細については、www.adobe.com にアクセスしてください。

WebSphere Commerce の詳細については、以下の資料を参照してください。

- 「*IBM WebSphere Commerce クイック・スタート*」
- 「*IBM WebSphere Commerce インストール・ガイド*」
- 「*IBM WebSphere Commerce 基本*」

サポート Web サイト

WebSphere Commerce FixPaks については、下記 WebSphere Commerce Web サイトをチェックしてください。 WCA に対する更新はすべて、WebSphere Commerce FixPaks に含まれています。

- www.ibm.com/software/commerce/support/

WCA 5.5 とともに機能する製品に関するサポート情報については、以下の Web サイトを参照してください。

IBM DB2 Universal Database™ Enterprise Server Edition

www.ibm.com/software/data/db2/udb/support.html

Professional Business **IBM DB2 Intelligent Miner for Data**

www.ibm.com/software/data/iminer/fordata/support.html

ライセンス情報

インストール後、さまざまな言語で書かれた、WCA の使用条件が %IWDA_DIR%¥license¥*language*.txt ファイル (*language* はライセンスの言語) にあります。

選択した言語で記載された使用条件を、テキスト・エディターを使用して表示または印刷することができます。

インストールおよび構成チェックリスト

以下に示すのは、WCA のインストールおよび構成に関するハイレベルなチェックリストです。このチェックリストでは、さらに詳細な情報を記載した本書の参照先セクションを示しています。

__ 1. WCA サーバーが満たすべきハードウェア要件を確認する。 5 ページの『WCA サーバーに必要なハードウェア』を参照してください。

__ 2. WCA サーバーが満たすべきソフトウェア要件を確認する。 6 ページの『WCA サーバーに必要なソフトウェアのセットアップ』を参照してください。

__ 3. インストールおよび構成の際に必要な情報を収集する。 6 ページの『WCA のインストールおよび構成時に必要な情報』を参照してください。

__ 4. WebSphere Commerce サーバーが満たすべきすべての要件を確認する。 9 ページの『第 3 章 WCA のインストール前に WebSphere Commerce サーバーに対して必要な更新』を参照してください。

__ 5. WebSphere Commerce サーバーが Oracle データベースを使用する場合は、Information Integrator をセットアップする。 24 ページの『Oracle に必要な追加セットアップ』を参照してください。

__ 6. WCA をインストールする。 13 ページの『第 4 章 WCA のインストール』を参照してください。

__ 7. 構成前アクティビティーを実行する。 19 ページの『構成前のチェックリスト』を参照してください。

__ 8. WCA を構成する。 27 ページの『第 6 章 WCA の構成』を参照してください。

__ 9. WebSphere Commerce サーバーに必要な更新を実行する。 69 ページの『第 7 章 WebSphere Commerce サーバー上でのキャプチャー・プログラムのセットアップ』を参照してください。

__ 10. 構成後アクティビティーを実行する。 73 ページの『第 8 章 構成後』を参照してください。

第 1 章 WebSphere Commerce Analyzer とは

IBM WebSphere Commerce Analyzer バージョン 5.5 (WCA とも呼ばれる) は、オプションでインストール可能な WebSphere Commerce のフィーチャーです。WebSphere Commerce は、オンライン・ストアを作成して保守するためのツールを備えています。 WCA は、ストアでのマーケティング・アクティビティーとマーチャンダイジング・アクティビティーを扱う情報を提供します。この情報を使用して、ストアの成功に役立てることができます。

WCA は、ストアに関するビジネス・レポートの生成に必要な情報を含むデータマートを作成および保守します。データマートは WCA サーバー上に作成される IBM DB2 リレーショナル・データベースです。データマートには、WebSphere Commerce トランザクション・データベース・サーバーから抽出され、有効なレポート作成のために再編成されたデータが入っています。 IBM DB2 は、データベース管理に必要なツールを備えています。

ビジネス・マネージャーは、WebSphere Commerce と共にインストールされるブラウザー・ベースの WebSphere Commerce Accelerator からビジネス・レポートにアクセスします。

+ ビジネス・マネージャーは、サード・パーティーのレポート・ツールを使用して、
+ 直接、データマートに照会することもできます。この機能をサポートする複数のレ
+ ポート統合キットを、次の URL からオンラインで入手できます。
+ `http://gwareview.software.ibm.com/software/genservers/commerce/wca/integkits`

注: ビジネス・マネージャーは、マーケティング・マネージャー、マーチャンダイジング・マネージャー、またはセールス・マネージャーになることができます。

WCA をインストールして複製および抽出プロセスを初めて実行した後、WebSphere Commerce データベースから WCA データマートへの新しいデータの複製および抽出が定期的に実行されるようにスケジュールできます。たとえば、深夜 12 時過ぎなど、管理対象ストアのアクティビティーが少ない時間に、これらのプロセスを実行するようにスケジュールすることができます。

WCA は複数のストアに関する情報を提供できます。 WCA データマートは複数の言語をサポートします。

WCA とともにパッケージされているソフトウェアは以下のとおりです。

- IBM DB2 Universal Database Enterprise Server Edition バージョン 8.1
- Professional Business IBM DB2 Intelligent Miner for Data バージョン 8.1

© Copyright IBM Corp. 2000, 2003

WCA の対象ユーザー

WCA は 3 種類のユーザーを対象としています。本書では、これらのユーザーを、システム管理者、ビジネス・アナリスト、ビジネス・マネージャーと呼びます。ビジネスによっては、3 人以上でこれらの役割を分担しているため、それぞれ肩書きが異なる場合があります。

システム管理者は、WCA をインストール、構成し、作動可能な状態に保ちます。システム管理者は、以下の作業も行います。

- DB2 および DB2 ウェアハウス・センターの管理
- ビジネス・レポート生成のスケジュール
- WCA サーバーに関するバックアップなどの保守アクティビティーの実行
- 起こり得る問題の診断および解決

ビジネス・アナリストはデータ分析とデータ・マイニングの知識を持っています。WCA の場合、ビジネス・アナリストは、システム管理者と協力して以下のことを実行します。

- Professional Business Intelligent Miner for Data のデータ・マイニングの機能を使用します。
- ビジネス・レポートをカスタマイズする方法を決定します。

ビジネス・マネージャーは、業務上の観点からストアの運営にかかわります。ビジネス・マネージャーはマーケティング戦略をたて、ストアの成功を追跡します。ストアがターゲットとする顧客のタイプを決定し、プロモーション・イベントとそれに関連した広告を立案します。

WCA と WebSphere Commerce の関係

次の図は、WebSphere Commerce のコンポーネントと WCA のコンポーネントとの関係を示します。

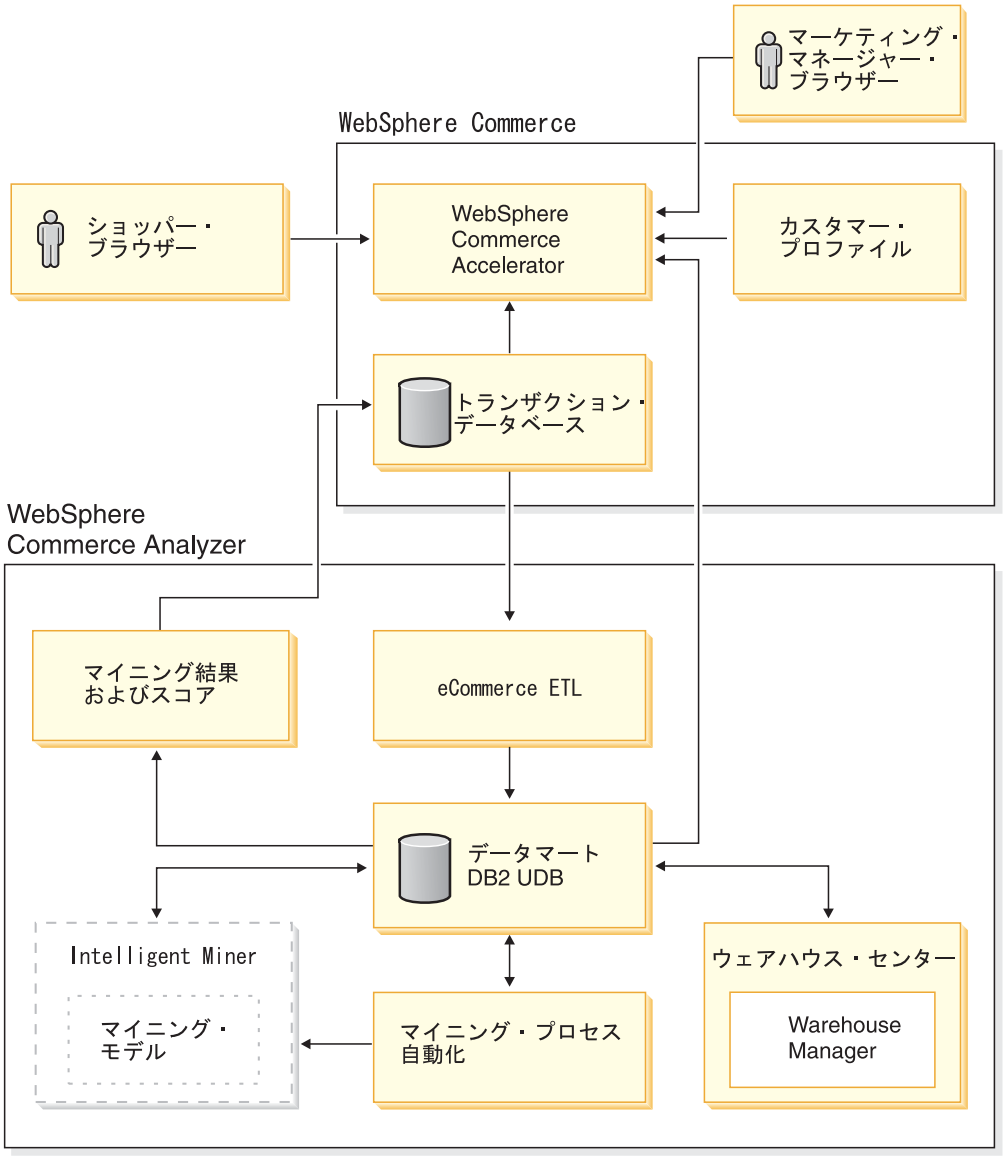

図 1. WebSphere Commerce のコンポーネントと WCA のコンポーネント

ショッパーは Web ブラウザーを使用して、WebSphere Commerce で作成されたストアで買い物をします。ショッピング・セッションでは、ショッパーは商品をブラウズし、表示された広告を眺め、商品を購入することもあります。WebSphere Commerce によって、各セッションで表示された商品と広告および購入されたアイテムについての詳細データが収集されます。この顧客セッション・データは、WebSphere Commerce トランザクション・データベース・サーバーに保管されます。

WCA は、顧客セッション・データならびに商品データとプロモーション・データを WebSphere Commerce トランザクション・データベース・サーバーから複製し、WCA サーバーの一時テーブルに入れます。これを複製と言います。次に、WCA はレポート作成に使用できるテーブルにデータを変換し、WCA データマートに保管します。これを抽出といいます。初期複製では、既存のすべてのデータが WebSphere Commerce データベース・サーバーから取得されます。以後は、新規データだけが取得されます。

Professional Business IBM DB2 Intelligent Miner for Data は、WCA データマートのデータをマイニングします。 Intelligent Miner for Data は、データ・マイニングに関連した特定のビジネス上の問題に回答を与える上で役に立つパターンをデータの中から見つけ出し、結果を WCA データマートに保管します。データマート内のこれらの結果は、データ・マイニングに関連したビジネス・レポートの作成に使用できます。

ビジネス・レポートは、ビジネス要件に適合するようにカスタマイズできます。ビジネス・レポートのカスタマイズ方法については、「*IBM WebSphere Commerce Analyzer バージョン 5.5 テクニカル・リファレンス*」を参照してください。

WebSphere Commerce と共に提供されるレポート・ツールキットであるレポート・フレームワークは、WCA データマート内のデータからビジネス・レポートを作成します。他のレポート・アプリケーションを組み込んでビジネス・レポートを生成することもできます。

サード・パーティーのレポート・ツール用に、複数のレポート統合キットが開発されています。このような統合キットには、データマートと連動する、事前定義されたレポートが組み込まれています。統合キットをダウンロードするには、次の URL を参照してください。

`http://gwareview.software.ibm.com/software/genservers/commerce/wca/integkits`

第 2 章 WCA をインストールする前に

パフォーマンスを向上させるには、他の作業を実行しないマシン上に WCA サーバーをインストールしてください。 WCA サーバーを WebSphere Commerce サーバーのいずれかにインストールしないでください。

WCA サーバーをインストールする前に、次の情報を使用してインストールの計画を立ててください。

WebSphere Commerce Analyzer の以前のバージョンとの共存

WCA 5.5 は、IBM WebSphere Commerce Analyzer バージョン 5.4 (WCA Entry とも呼ばれる) の拡張バージョンです。 WCA 5.5 は、WCA Entry よりもさらに強力で柔軟性があります。 WCA Entry がすでにインストールされている場合は、WCA 5.5 を別のコンピューターにインストールし、同じ WebSphere Commerce データベースを使用して同じストアについてレポートを作成しながら、WCA 5.5 を試してみることもできます。

WCA サーバーに必要なハードウェア

WCA サーバーには次のハードウェアが必要です。

Pentium® III (733 MHz 以上) IBM 互換パーソナル・コンピューター。コンピューターには、以下が備わっている必要があります。

- 最低 1 GB のランダム・アクセス・メモリー (RAM)。
- 次のディスク・スペース要件を満たしていること。
  - プログラム・ファイルのインストール・ドライブに最低 2 GB の空きスペース。
  - WCA データベースを作成するドライブに、データベースとデータ用に最低 1 GB の空きディスク・スペース。お使いのシステムによっては、それ以上のディスク・スペースが必要な場合もあります。データ・ストレージ要件の決定については、「*IBM WebSphere Commerce Analyzer バージョン 5.5 テクニカル・リファレンス*」を参照してください。
  - システム・ドライブに最低 100 MB の空きディスク・スペース。また、TEMP 環境変数がシステム・ドライブ以外のドライブを指している場合は、このドライブに最低 100 MB の空きディスク・スペース。
- CD-ROM ドライブ。
- 少なくとも 256 色の表示ができるグラフィックス対応モニター。
- Transmission Control Protocol/Internet Protocol (TCP/IP) がサポートされるローカル・エリア・ネットワーク (LAN) アダプター。

© Copyright IBM Corp. 2000, 2003

WCA サーバーに必要なソフトウェアのセットアップ

WCA をインストールするためのコンピューターを準備するには、以下のことを行います。

__ 1. WCA をインストールするコンピューター上に、 Windows 2000 Professional または Windows 2000 Server (Service Pack 4) をインストールします。

__ 2. 2 人の Windows 管理者ユーザーを作成します。一方の管理者はデータマートの所有者を所有し、もう一方は WCA コントロール・データベースを所有します。

注: WCA の構成時に「高速ロード」オプション (推奨) を使用する場合は、21 ページの『高速ロードまたはカスタム・ロードの選択』を参照してください。

WCA とともにインストールされるソフトウェア

お使いのコンピューターに IBM DB2 Universal Database Enterprise Server Edition バージョン 8.1 がインストールされていない場合、WCA をインストールすると、それらのソフトウェアも一緒にインストールされます。

Express お使いのコンピューターに IBM DB2 Universal Database Express Edition バージョン 8.1 がインストールされていない場合、WCA をインストールすると、このソフトウェアも一緒にインストールされます。

Professional Business WCA は、IBM DB2 Intelligent Miner for Data バージョン 8.1 のインストールもサポートします。

WCA のインストールおよび構成時に必要な情報

WCA をインストールする前に、インストールおよび構成中に提供しなければならない次の情報を収集します。

すでに定義されている WebSphere Commerce 情報

- WebSphere Commerce トランザクション・データベース・サーバーのホスト名
- WebSphere Commerce サーバー・データベースのデータベース名および別名
- WebSphere Commerce データベースのスキーマ名
- ビジネス・レポートを作成したいストアのストア ID
- レポート作成用カタログ ID
- レポート作成用通貨
- WebSphere Commerce サーバー・データベースへのアクセスに使用するユーザー ID およびパスワード

インストール時および構成時に定義する必要がある WCA 情報

- WCA、および必要な場合には DB2 と Professional Business IBM DB2 Intelligent Miner for Data バージョン 8.1 がインストールされるロケーション。
- WCA サーバー上の WebSphere Commerce データベースの名前
- WCA データマートおよび DB2 ウェアハウス・センター・コントロール・データベースの名前
- WCA データマートおよび DB2 ウェアハウス・センター・コントロール・データベースのユーザー ID およびパスワード
- WCA データマートを作成するロケーション
- DB2 ウェアハウス・センター・コントロール・データベースを作成するロケーション

第 3 章 WCA のインストール前に WebSphere Commerce サーバーに対して必要な更新

この章のそれぞれの節で、WebSphere Commerce サーバーに必要な更新を行う方法について説明します。これらの更新作業はすべて WCA のインストール前に完了してください。

WebSphere Commerce サーバーの要件

WCA は、WebSphere Commerce 5.5 を使用して作成されたストアについてレポートを作成します。 WCA サーバーは、以下のソフトウェアを実行している WebSphere Commerce トランザクション・データベース・サーバーに接続することができます。

- Microsoft® Windows 2000
- OS/400® V5R2M0 バージョン 5 リリース 2 モディフィケーション 0

重要

上記のソフトウェアには最新の PTF が必要です。リストが WebSphere Commerce Web サイトに掲載されています。以下の URL を参照してください。

http://www-3.ibm.com/software/genservers/commerce/wcbe/support/

- IBM AIX® バージョン 5.1
- Sun Microsystems, Inc の Solaris 2.8 MTCE 7

WCA は、WebSphere Commerce データベース・サーバー上の以下のタイプのデータベースからデータを抽出できます。

- IBM DB2 Universal Database Enterprise Server Edition バージョン 8.1 またはそれ以上。
- Express IBM DB2 Universal Database Express Edition バージョン 8.1。
- Oracle 9i。複製には、 IBM DB2 Information Integrator バージョン 8.1 も必要になります。

  注: Oracle は iSeries™ ではサポートされません。
- IBM DB2 Universal Database for iSeries V5R2MO。

次の要件を満たしていること。

- リモート Open Database Connectivity (ODBC) をサポートするように WebSphere Commerce トランザクション・データベース・サーバーを構成する必要があります。

© Copyright IBM Corp. 2000, 2003

- ユーザー・トラフィック (ショッピング) が発生する前に、WebSphere Commerce 構成マネージャーを使用して **UserTrafficEventListener**、**CampaignRecommendationListener**、および **CampaignRecommendationStatisticsListener** の各コンポーネントを使用可能にしておく必要があります。これらのコンポーネントを使用可能にするための情報については、「*IBM WebSphere Commerce インストール・ガイド*」および WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプを参照してください。
- WebSphere Commerce サーバー上で Oracle データベースを使用する場合は、IBM DB2 Information Integrator バージョン 8.1 をインストールして、 Oracle データベース内のデータの抽出を可能にする必要があります。
- WCA は、ストア内およびストア間の受注の売上高を比較するために通貨の変換を行います。 WebSphere Commerce データベースの CURCONVERT テーブルには、WCA が通貨の変換を実行できるようにする情報が格納されます。このテーブルにデータが挿入されていない場合、WCA 構成の「ストアの選択 (Select Store)」ステップはうまく処理されません。 WCA のインストール前に、DB2 コントロール・センターを使用し、正しい通貨変換を行って WebSphere Commerce CURCONVERT テーブルにデータを取り込んでください。

  また、ストアでサポートされているそれぞれの通貨ごとに、その通貨からストアのデフォルト通貨への変換が行われる必要があります。ストアのデフォルト通貨ごとに、レポートに使用されるレポート作成用通貨への変換も行われる必要があります。レポート作成用通貨は、WCA の構成時に選択します。このような通貨変換を行わないで WCA の構成を完了することはできません。 WCA の抽出は、これらの変換を行わないと正しく機能できないからです。通貨変換機能の作成方法については、WebSphere Commerce の資料を参照してください。
- WebSphere Commerce Configuration Manager を使用して、WCA の統合を可能にします。 WebSphere Commerce Configuration Manager を使った WCA の構成の説明は、「*IBM WebSphere Commerce 追加ソフトウェア・ガイド*」を参照してください。チェックするには、WebSphere Commerce Configuration Manager で WebSphere Commerce *instance_name* を選び、次に WebSphere Commerce Accelerator を選択してください。 WebSphere Commerce Analyzer がインストールされているかどうかを示す、該当するラジオ・ボタンを選択してください。
- ツリーとして編成されている WebSphere Commerce カタログが少なくとも 1 つはあることを確認してください。手順については、『カテゴリー・レポート用のカタログ構造』を参照してください。

カテゴリー・レポート用のカタログ構造

カテゴリーに関して正確なレポートを得るには、カテゴリーと製品をツリーとして表すカタログが必要です。この場合、カテゴリーとサブカテゴリー間の関係が 1 対多になり、サブカテゴリーと製品間の関係も同じく 1 対多になるようにします。このような編成のカタログを使用することで、WCA は製品に基づいてメトリックを計算し、各メトリックを単一のカテゴリーに関連付けることができます。このようなカタログを使用しないと、ビジネス・レポートで生成される結果は不正確なものになることがあります。たとえば、売上が複数のカテゴリーで計上されてしまう場合があります。

たとえば、ツリー状に編成されていない既存のカタログに、次のようなアイテムが含まれているとします。

```
Catalog: Winter Catalog
     Category:  Men's clothing
          Item:  IBM sweatshirt with hood

     Category:  Women's clothing
          Item:  IBM sweatshirt with hood
```

「フード付き IBM スウェット・シャツ (IBM sweatshirt with hood)」というアイテムは、「紳士衣料 (Men’s clothing)」と「婦人衣料 (Women’s clothing)」の 2 つのカテゴリーに含まれています。したがって、このカタログはツリー状に編成されておらず、WCA によるビジネス・レポートの生成時には正しく使用されません。「フード付き IBM スウェット・シャツ (IBM sweatshirt with hood)」アイテムの売上は両方のカテゴリーで計上されてしまいます。

ツリー状に編成されたカタログを作成するには、カテゴリーや製品を次のように編成します。

```
Catalog: Analysis of Winter Catalog
     Category:  Sweatshirts
          Item:  IBM sweatshirt with hood
```

第 4 章 WCA のインストール

WCA のインストール・プログラムは、WCA サーバーをインストールします。これにより、まだインストールされていない場合は IBM DB2 Universal Database Enterprise Server Edition バージョン 8.1 もインストールされます。 Express WCA は、IBM DB2 Universal Database Express Edition バージョン 8.1 のインストールもサポートします。

Professional Business WCA は、IBM DB2 Intelligent Miner for Data バージョン 8.1 のインストールもサポートします。

WCA をインストールするには、この章の手順に従ってください。 WCA を使用してビジネス・レポートを表示するには、インストール後に、 xii ページの『インストールおよび構成チェックリスト』にあるタスクを実行する必要があります。

注:

1. すでに WCA 5.5 がインストールされており、それを再インストールする場合には、既存のコピーをアンインストールしてください。 WCA のアンインストールについては、 77 ページの『第 9 章 WCA の除去』を参照してください。
2. 前提条件ソフトウェアのその他のバージョンが残っている場合は、インストールをキャンセルして古いバージョンをアップグレードまたはアンインストールする必要があります。その後、インストールを再開できます。

WCA をインストールするには、次のステップを実行してください。

1. 実行中のプログラムをすべて終了します。
2. Windows の管理者としてログインしていることを確認します。
3. *WebSphere Commerce Analyzer v5.5* の CD を挿入します。
4. *WebSphere Commerce Analyzer v5.5* CD のルート・ディレクトリーから、**setup.exe** を実行します。「ソフトウェアのご使用条件 (Software License Agreement)」ウィンドウが開きます。
5. ライセンスを検討し、「**使用条件の条項に同意します (I accept the terms in this license agreement)**」をクリックして使用条件を受諾し、「**次へ**」をクリックします。
6. 「IBM WebSphere Commerce Analyzer のセットアップ (Setup for IBM WebSphere Commerce Analyzer)」ウィンドウの情報を読み、「**次へ**」をクリックします。

注: インストール中に表示されるウィンドウは、コンピューターに何がインストールされているかによって異なります。前提条件ソフトウェアのうちのいくつか、またはすべてが、すでにインストールされている場合は、以下の手順で説明するウィンドウの一部が表示されない場合があります。すべての前提条件ソフトウェアがインストール済みの場合、 11 (16 ページ) に進んでください。インストール済みでない場合は、次のステップに進んでください。

© Copyright IBM Corp. 2000, 2003

7. いずれかの前提条件ソフトウェアがインストールされていない場合は、「前提条件製品のインストールの検査 (Verify Installation of Prerequisite Product)」ウィンドウが開きます。インストールする必要のあるソフトウェアがリストされています。 (Professional Business Intelligent Miner がまだインストールされていない場合は、これをインストールすることもできます。 Intelligent Miner for Data をインストールする場合、「**IBM DB2 Intelligent Miner for Data バージョン 8.1**」チェック・ボックスが選択されていることを確認してください。) 「**次へ**」をクリックします。
8. インストールしようとしている各プログラムのインストール・ソフトウェアのロケーションを指示するための、一連のウィンドウが開きます。「**インストール・メディアのロケーションの選択 (Select location of install media)**」フィールドにインストール・ソフトウェアのロケーションを入力し、「**次へ**」をクリックします。

   注: 「参照 (Browse)」ウィンドウで CD のドライブ名を選択できない場合は、「**インストール・メディアのロケーションの選択 (Select location of install media)**」フィールドにパス名を入力します。
9. ソフトウェアのデフォルト・ロケーションを示す一連のウィンドウが開きます。デフォルトのフォルダーを受け入れるか、または「**参照 (Browse)**」をクリックして、前提条件ソフトウェアをインストールしたいフォルダーを指定します。「**次へ**」をクリックします。
10. 「IBM DB2 Universal Database Enterprise Server Edition バージョン 8.1 インスタンス所有者情報 (IBM DB2 Universal Database Enterprise Server Edition Version 8.1 Instance Owner Information)」または「Express IBM DB2 Universal Database Express Edition バージョン 8.1 インスタンス所有者情報 (DB2 Universal Database Express Edition, Version 8.1 Instance Owner Information)」ウィンドウ (15 ページの図 2) が開いた場合は、以下のフィールドに入力を行います。

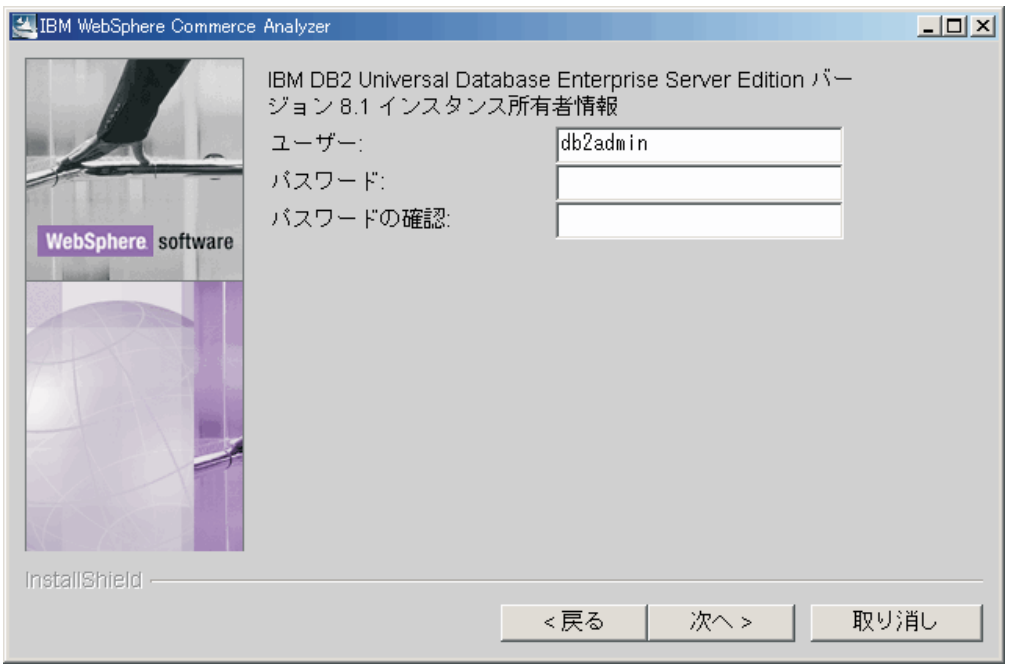

図 2. 「IBM DB2 Universal Database Enterprise Server Edition バージョン 8.1 インスタンス所有者情報 (IBM DB2 Universal Database Enterprise Server Edition Version 8.1 Instance Owner Information)」ウィンドウ

a. 「**ユーザー (User)**」フィールドと「**パスワード (Password)**」フィールドに DB2 ユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。以下の制限があることを考慮してください。
   - ユーザー名とパスワードには、任意の文字を使うことができる。
   - ユーザー名は 20 文字より長くすることはできない。
   - パスワードは 14 文字より長くすることはできない。
   - ユーザー名は、大文字、小文字、またはそれらの混合にかかわらず、USERS、ADMINS、GUESTS、PUBLIC、LOCAL のいずれも使用してはならない。
   - ユーザー名は、大文字、小文字、またはそれらの混合にかかわらず、IBM、SQL、SYS のいずれかで始まるものであってはならない。
   - ユーザー名は Windows サービス名またはコンピューターのホスト名と同じであってはならない。
   - ユーザー名は、ローカル・コンピューターで定義され、ローカル管理者のグループに属していなければならない。
   - ユーザー名は**オペレーティング・システムの一部として動作する**拡張ユーザー権限を持っていなければならない。

     注: ユーザー名が正しいアクセスを持つように、未定義のユーザー名を指定してください。これにより、正しいアクセス権限を持つユーザー名が作成されます。
   - ユーザー名がすでに定義されている Windows ログオン・ユーザー名である場合は、パスワードはそのユーザー名のパスワードでなければならない。パスワードもまた、その他すべての要件に合致していなければなりま

せん。特に文字セットの制限に合致していない場合は、 Windows ユーザー名のパスワードを変更する必要があります。

b. 「**パスワードの確認 (Verify Password)**」フィールドに DB2 ユーザー・パスワードを再入力します。

c. 「**次へ**」をクリックします。

11. 「WCA インストール・ディレクトリー (WCA installation directory)」ウィンドウで、デフォルト・フォルダーを受け入れるか、または「**参照**」をクリックして、WCA のインストール先とするフォルダーを指定します。デフォルトは C:¥Program Files¥IBM¥WCA です。

    「**次へ**」をクリックします。「データ・ディレクトリーの設定 (Set Data Directory)」ウィンドウが開きます。

    注: 「データ・ディレクトリーの設定 (Set Data Directory)」では、構成ロギング情報を取り込みます。ディスク・スペースの制約があるのでない限り、このディレクトリーは WCA のインストール・ディレクトリーと同じにしておくべきです。

12. 「**ディレクトリー名 (Directory Name)**」フィールドに、データを保管するパスを入力します。デフォルトは C:¥Program Files¥IBM¥WCA です。

    「**次へ**」をクリックします。「スタート・メニュー項目名の設定 (Set name for Start Menu item)」ウィンドウが開きます。

13. Windows の「スタート」メニューに入れる語句を入力します。「**次へ**」をクリックします。

    - 前提条件ソフトウェアをインストールする場合には、「前提条件製品のインストールの検査 (Verify Installation of Prerequisite Products)」ウィンドウが開きます。ステップ 14 に進んでください。
    - 前提条件ソフトウェアをインストールしていない場合には、WCA インストール・ディレクトリーとプログラム・サイズを示すウィンドウが開きます。ステップ 15 に進んでください。

14. ウィンドウ内の情報を確認します。すべての情報が正しければ、「**次へ**」をクリックします。それぞれの前提条件ソフトウェア製品のインストールが開始されます。各製品のインストール時に、インストールが成功したかどうかを示すメッセージ・ウィンドウが開きます。「**次へ**」をクリックして、次の製品のインストールを開始します。最後の前提条件ソフトウェア製品のインストールが終わると、WCA インストール・ディレクトリーとプログラム・サイズを示すウィンドウが開きます。

15. ウィンドウの内容が正しければ、「**次へ**」をクリックします。インストール・プログラムがファイルをコピーしているときは、進行インディケーターが表示されます。

16. インストールが完了すると、WCA のインストールが成功したかどうかを示すメッセージが表示されます。「**次へ**」をクリックします。ダウンロードおよびインストールしなければならない FixPak に関する情報を、次の Web ページで調べる必要があることを示すメッセージ・ウィンドウが表示されます。

    www.ibm.com/software/commerce/support/

    「**OK**」をクリックしてメッセージ・ウィンドウを閉じます。 README ファイルが表示されます。

17. 情報を読むか、または印刷して、「**次へ**」をクリックします。最後のインストール・ウィンドウが開きます。
18. コンピューターを即時に再起動するには、「**はい、直ちにコンピューターを再起動します (Yes, I want to restart my computer now)**」をクリックします。コンピューターをすぐには再起動しない場合は、「**いいえ、後でコンピューターを再起動します (No, I will restart my computer later)**」をクリックしてください。ただし、コンピューターを再起動してからでないと WCA の構成はできません。また、WCA と一緒にインストールされた製品を使用することもできません。

    注: Professional Business Intelligent Miner for Data をインストールした場合は、コンピューターを再始動します。
19. 「**完了 (Finish)**」をクリックします。
20. 400 WebSphere Commerce データベースをホスティングするのが iSeries マシンの場合は、DB2 Connect™ と対応するフィックスパックをインストールする必要があります。インストールする場合は、次のようにします。
    a. DB2 8.1 Express の上に DB2 Connect 8.1 Personal Edition をインストールします。
    b. DB2 フィックスパック 2 (update.exe) を、次の URL からダウンロードします。ftp://ftp.software.ibm.com/ps/products/db2/fixes/english-us/db2winIA32v8/fixpak/FP2_WR21318/
    c. データウェアハウスを含む標準インストールを選択して、 DB2 フィックスパック 2 をインストールします。
    d. 19 ページの『構成前のチェックリスト』の説明に従って、DB2 の WCA 用パッチをインストールします。

第 5 章 WCA 構成前の確認事項

インストール後、WebSphere Commerce Analyzer 構成マネージャーは WCA サーバー上にデータベースを作成し、WCA サーバーと WebSphere Commerce トランザクション・データベース・サーバーとの通信を可能にするパラメーターを設定します。構成マネージャーを使用して WCA サーバーの構成を変更することもできます。構成マネージャーは、初めて実行されるときに以下のデータベースを作成します。

DB2 ウェアハウス・センター - コントロール・データベース
このデータベースには、WCA で使用する処理に関する情報が含まれています。

WCA データマート
このデータベースには、ビジネス・レポートを作成するストアに関する情報が含まれています。

構成前のチェックリスト

構成を始める前に、以下を確認してください。

__ 1. 構成時の抽出スクリプトの構成に「高速ロード」オプション (推奨) と「カスタム・ロード」オプションのどちらを使用するか決定済みであること。詳しくは、21 ページの『高速ロードまたはカスタム・ロードの選択』を参照してください。

__ 2. ユーザーのビジネスの会計カレンダー要件を調べてください。

__ 3. WebSphere Commerce データベースで使用されている参照キーを調べてください。 WebSphere Commerce 参照から WCA によって使用される参照へのマッピングの説明については、「*IBM WebSphere Commerce Analyzer テクニカル・リファレンス*」の『参照テキストの保守』を参照してください。

__ 4. 必ず以下の通貨変換が存在すること。
- ストアについてのレポートが必要なとき、ストアでサポートされているそれぞれの通貨ごとに、その通貨からデフォルト通貨への変換が行われる必要があります。
- レポートを作成しようとしているストアによってサポートされるそれぞれの通貨について、その通貨から WebSphere Commerce がレポートする通貨への変換が必要です。

__ 5. WebSphere Commerce データベース・サーバーが開始されていることを確認します。

__ 6. WebSphere Commerce データベース・サーバーがどのオペレーティング・システム上で稼動しているかを知っている必要があります。

__ 7. 複製テーブル・スペースを置くために使用できる、WebSphere Commerce データベース・サーバー上の使用可能なパスを知っている必要があります。これには、以下のことが含まれます。
- このパスでの適切な許可を確認する
- このパスでの十分なスペースを確認する

© Copyright IBM Corp. 2000, 2003

__ 8. DB2 Warehouse XTServer プログラムがポート番号 11004 を使用していることを検査します。

__ 9. WebSphere Commerce Analyzer をインストールした後で、DB2 のパッチを手動でインストールします。 WebSphere Commerce Analyzer をインストールしてから、これを構成するまでの間に、次のパッチをインストールしなければなりません。

- iwh2serv.exe
- db2_vw.jar
- db2XTrigger.jar

パッチをインストールするには、次のようにします。

a. すべての DB2 サービスを停止します。

b. 各パッチによって、既存ファイルが置き換えられます。したがって、こうしたファイルのバックアップ・コピーを作成する必要があります。ファイルは次のディレクトリーにあります。

- iwh2serv.exe は ¥SQLLIB¥bin
- db2_vw.jar は ¥SQLLIB¥tools
- db2XTrigger.jar は ¥SQLLIB¥tools

c. WCA インストール CD のディレクトリー ¥db2patches から、ステップ 2) に挙げたディレクトリーへ、パッチをコピーします。

d. すべての DB2 サービスを再始動します。

e. WebSphere Commerce Analyzer を構成する前に、追加のシステム・クラスパス・エントリーを追加します。次のようにします。

- **「コントロール パネル」** -> **「システム」** -> **「詳細」** -> **「環境変数」** -> **「システム環境変数」**の順に開き、CLASSPATH を編集します。
- 次のものを追加します。
  - drive:¥SQLLIB¥tools¥db2vwcom.jar

注: DB2 のドライブとディレクトリーはユーザーが定義するため、c:¥SQLLIB でない可能性もあります。

__ 10. 400 WebSphere Commerce データベースをホスティングするのが iSeries マシンの場合は、次のようにします。

a. DB2 Connect とフィックスパック 2 がインストールされていることを確認します。詳しくは、 13 ページの『第 4 章 WCA のインストール』 を参照してください。

b. 次のファイルをインストールします。

- db2replctr.jar
- db2replapis.jar

パッチをインストールするには、次のようにします。

1) すべての DB2 サービスを停止します。

2) 各パッチによって、既存ファイルが置き換えられます。したがって、こうしたファイルのバックアップ・コピーを作成する必要があります。ファイルは次のディレクトリーにあります。

+ • ¥SQLLIB¥tools

+ 3) WCA インストール CD のディレクトリー ¥db2patches から、ステップ 2) に挙げたディレクトリーへ、パッチをコピーします。

+ 4) すべての DB2 サービスを再始動します。

+ **注:** DB2 のドライブとディレクトリーはユーザーが定義するため、c:¥SQLLIB でない可能性もあります。

+

使用するデータ・ストレージの決定

DB2 は、テーブル・スペースを作成するときに、2 つのデータ・ストレージのタイプの 1 つを使用します。データベース管理ストレージ (DMS) とシステム管理ストレージ (SMS) があります。 WCA の構成中に、どちらのタイプのデータ・ストレージを使用するか選択します。デフォルトは DMS です。以下には、どちらのタイプのデータ・ストレージを使用するかを決めるために役立つ、 DMS と SMS の相違の概要についての情報が記載されています。

データベース管理ストレージ

DMS を使用する場合は、データベース管理者がテーブル・スペースを管理します。テーブル・スペースのサイズの指定とスペースの割り振りは、テーブルの作成時に行います。データを連続的に保管できるため、テーブルの中のデータの更新、削除、または読み取りが行われるとき、パフォーマンスが改善されます。

システム管理ストレージ

SMS を使用すると、オペレーティング・システムがテーブル・スペースを管理します。テーブル・スペースはハード・ディスクのサイズにより制限されます。データは、テーブル・スペースのディレクトリー・コンテナー (ファイル・システム内のディレクトリー名) の下のハードディスクにランダムに保管されます。このタイプのデータ・ストレージを使用する場合、管理者による保守作業は比較的少なくてすみますが、パフォーマンスのための最適化は行われません。その結果、テーブルの中のデータの更新、削除、または読み取りが行われるとき、パフォーマンスが著しく低下することがあります。さらに、現行コンテナー (ハード・ディスク) のサイズを超えて SMS コンテナーのサイズを拡張する場合は、リダイレクトされた復元を使用する必要があります。

高速ロードまたはカスタム・ロードの選択

抽出スクリプトは、後に ETL フェーズで使用されるもので、その中にはアクセスとデータマートのパラメーターが組み込まれています。これらのパラメーターのデフォルト値を含む事前定義抽出スクリプトが使用できます。抽出スクリプトは、現行値を組み込むように構成する必要があります。

「カスタム・ロード」オプションを使用した場合、独自のデータベース名とユーザー ID を指定でき、それらの値が抽出スクリプトで使用されますが、高速ロードの場合よりも構成にかなり時間がかかります (最大で 4 日の処理)。

「高速ロード」オプション (推奨) を選択すると、事前定義抽出スクリプトがそのまま使用されるため、抽出スクリプトの構成が迅速に行われます。高速ロードを選択

した場合、 83 ページの『付録 B. 構成タスクの詳細』で説明されているいくつかの手動のステップを行う必要があります。構成時にデフォルト値を変更しなければ、高速ロードが自動的に選択されます。

高速ロードを選択した場合、指定されたデフォルトのデータベース名とユーザーを使って、以下のステップを実行しなければなりません。処理の前に、次の Windows 管理者を作成する必要があります。

- ユーザー ID: martuser
- パスワード: martuser
- ユーザー ID: ctrluser
- パスワード: ctrluser

次のリストは WCA Configuration によって使用されるデフォルト値を示しています。

WebSphere Commerce データベース情報:

- **データベース名**: wcsmall
- **ユーザー名**: malluser

  重要:

  1. ユーザー名は WebSphere Commerce サーバー上に存在していて、かつ WebSphere Commerce データベースへのアクセス権を持っていないければなりません。
  2. この情報は、「WebSphere Commerce データベース・アクセスの構成」構成ステップ (29 ページの『データ・ソースへの接続』参照) で入力する必要があります。
- **スキーマ**: wcsadmin

  スキーマ名は、WebSphere Commerce サーバー上でセットアップされます。「WebSphere Commerce データベース・アクセスの構成」構成ステップで (29 ページの『データ・ソースへの接続』を参照) で、名前を選択します。 WebSphere Commerce データベース・スキーマ名が wcsadmin ではない場合でも、「高速ロード」オプションを使用できます。今後の構成ステップで、コントロール・データベースのメタデータを更新する必要があります。

WCA データマート情報 (WCA datamart information)

- **データマート名**: wcamart

  この名前は、「WebSphere Commerce Analyzer データマートの作成」構成ステップ (31 ページの『データマートの作成』を参照) で入力する必要があります。
- **所有者**: martuser
- **パスワード**: martuser

  重要: 高速ロードの場合、デフォルトのデータベース名とユーザー ID、および対応するパスワードを使用する必要があります。

DB2 ウェアハウス・センター・コントロール・データベース情報:

- **コントロール・データベース名**: wcactrl

- **管理者ユーザー ID**: ctrluser
- **管理者パスワード**: ctrluser

  このユーザー ID は WCA サーバーのユーザーでなければなりません。これらの名前は、「DB2 ウェアハウス・センター - コントロール・データベースの構成」構成ステップ (38 ページの『DB2 ウェアハウス・センター・コントロール・データベースの構成』) で入力する必要があります。

  注: 高速ロードの場合、デフォルトのデータベース名とユーザー ID、および対応するパスワードを使用する必要があります。

複製オプション

複製の実行方法には、連続と非連続の 2 つのオプションがあります。

連続複製
: 複製サイクルが完了すると、別の複製サイクルが始まります。スケジュールに従って、または手動で抽出が開始された場合、システムは現行複製サイクルの終了を待機し、現行サイクルの完了後に抽出ステップを開始します。

非連続複製
: 複製が開始されるのは、抽出の実行がスケジュールされているときか、または抽出が手動で開始されるときだけです。

複製は、「ステップのプロモート」ウィンドウ (42 ページの図 11) で設定されます。詳しくは、41 ページの『実働モードへのウェアハウス・ステップのプロモート』を参照してください。

iSeries 上に複製を構成する前に

iSeries システム上に Data Propagator ライセンス・プログラム Licence Program 5722DP4 と使用可能な最新の PTF (プログラム一時修正) をインストールします。

ソース・テーブルが作成されたときにジャーナリングされなかった場合は、「*IBM DB2 Replication Guide and Reference*」のジャーナリングについての説明に従ってください。一般に、**CREATE COLLECTION** ステートメントを使用してライブラリーを作成した場合、ライブラリー内のテーブルはすでにジャーナリングされています。 **WRKOBJPDM** ***library_name*** コマンドを使用して、名前に JRN が付いているプロセスを検索します。これらのプロセスが存在する場合、テーブルはすでにジャーナリングされています。

iSeries コマンド・プロンプトで次のコマンドを入力して、ユーザー・プロファイルを CCSID (Coded Character Set Identifier) 37 に変更します。

```
CHGUSRPRF USRPRF(username) CCSID(37)
```

ここで、*username* は現行ユーザーの名前です。

次のコマンドを入力して、分散データ管理 (DDM) サーバーを開始します。

```
STRTCPSVR SERVER(*DDM)
```

次のコマンドを iSeries システムで入力して、複製用にテーブルを登録するために十分な権限をデータベース・ユーザーに与えてください。

```
GRTDPRAUT USER(user_ID) AUT(*REGISTRAR)
```

user_ID はデータベース・ユーザーのユーザー ID です。

次のコマンドを iSeries システムで入力して、 DataPropagator のオブジェクトを変更する権限をデータベース・ユーザーに与えてください。

```
GRTOBJAUT OBJ(QDP4/*ALL) OBJTYPE(*PGM)USER(user_ID) AUT(*USE)
```

user_ID はデータベース・ユーザーのユーザー ID です。

注: ライブラリー QDP4 内のサブシステム QZSNDPR が開始していることを確認します。

Oracle に必要な追加セットアップ

1. WCA システムで、Oracle クライアント・ソフトウェアと Oracle 用の Information Integrator コンポーネントをインストールします。
2. WebSphere Commerce データベースに対する Oracle 接続をセットアップします。
3. データベース所有者としてマシンにログオンします。
4. ファイル *db2dir*/cfg/db2dj.ini を開き、ORACLE_HOME の値が Oracle の実際のインストール場所であることを確認します。必要であれば、ファイルを変更してください。

   db2dir は DB2 がインストールされている場所です。
5. データベース・マネージャー構成変数 FEDERATED が YES に設定されていることを確認します。 DB2 コマンド・プロンプトで次のように入力してください。

   ```
   db2 get dbm cfg
   ```

   YES に設定されていない場合は、次のように入力してください。

   ```
   db2 update dbm cfg using FEDERATED YES
   ```
6. Oracle への接続用に統合データベースを作成します。以下のように入力します。

   ```
   db2 create db database_name collate using identity
   ```

   database_name は、統合データベース用に選択したデータベース名です。
7. ODBC 用データベースを登録します。
   a. **「スタート」->「プログラム」->「IBM DB2」-> 「セットアップ・ツール (Set-up Tools)」->「構成アシスタント (Configuration Assistant)」**の順にクリックします。「構成アシスタント (Configuration Assistant)」ウィンドウが開きます。
   b. データベース名を右クリックし、「**データベースの変更 (Change Database)**」を選択します。「データベースの変更ウィザード (Change Database Wizard)」ウィンドウが開きます。
   c. ウィンドウの左側で「**4. データ・ソース (Data Source)**」をクリックします。

d. **このデータベースを ODBC 用に登録 (Register this database for ODBC)**」の横のチェック・ボックスが選択されていることを確認します。

e. 「**完了 (Finish)**」をクリックします。

f. 「構成アシスタント (Configuration Assistant)」ウィンドウを閉じます。

8. データベースに接続します。以下のように入力します。

```
db2 connect to database_name
```

9. Oracle ラッパーを作成します。以下のように入力します。

```
db2 create wrapper sqlnet
```

10. サーバー・マッピングを作成します。以下のように入力します。

```
db2 create server oraalias type oracle version version_number wrapper sqlnet options (node 'oraname')
```

説明:

- *oraalias* は、tnsnames.ora ファイルにリストされている、Oracle データベース名のサーバー別名です。
- *version_number* は Oracle バージョン番号です。
- *oraname* は、tnsnames.ora ファイルにリストされている、Oracle データベースの名前です。

11. ユーザー・マッピングを作成します。以下のように入力します。

```
db2 create user mapping for db2user server oraalias options (remote_authid 'orauser', remote_password 'orapassword')
```

説明:

- *db2user* はデータベースにログインするためのユーザー ID です。
- *orauser* はストア・スキーマを所有するユーザーです。
- *orapassword* は対応するパスワードです。

12. Information Integrator のセットアップが完了した後、リモートの WebSphere Commerce データベースからデータを検索できることを検査します。検査するには、WebSphere Commerce データベース内のデータを追加するテーブルに別名を作成し、データベースを使ってデータを検索します。このテストを行うには、次のようにします。

- Information Integrator データベースへの接続をテストするため、STORE テーブルにニックネームを作成します。次のようにします。

  – db2 create nickname STORE for oraalias.orauser.STORE

  ニックネームを正常に作成できたら、次のコマンドを実行し、Information Integrator データベースから Oracle テーブルを表示します。

  – db2 select count(*) from STORE

注: これらのコマンドの詳細については、「*IBM DB2 Information Integrator データ・ソース構成ガイド*」を参照してください。

第 6 章 WCA の構成

これ以降のセクションでは、WCA を構成するために構成マネージャーを開始して使用する方法について説明します。構成マネージャーを開始する前に、必ず、 19 ページの『第 5 章 WCA 構成前の確認事項』で説明したすべての要件が満たされている必要があります。

構成マネージャーの開始

構成マネージャーを開始するには、以下のようにします。

1. WCA データマートの所有者としてログオンします。
2. Windows デスクトップで、**「スタート」->「プログラム」->「IBM WCA」->「構成 (Configuration)」**をクリックします。

   注: これは、WCA のインストール時にデフォルトの「スタート」メニューを受け入れた場合の手順です。別の名前を指定した場合は、選択する項目を適宜変更してください。

「IBM WebSphere Commerce Analyzer 構成マネージャー」ウィンドウ (図 3) が開きます。

図 3. 「IBM WebSphere Commerce Analyzer 構成マネージャー」ウィンドウ

© Copyright IBM Corp. 2000, 2003

構成マネージャーの使用

「IBM WebSphere Commerce Analyzer 構成マネージャー」ウィンドウ (27 ページの図 3) は、WCA の構成の完了に関連するタスクのセットを提供します。タスクは、以下のとおりです。

構成前 このタスクを使用して、構成前のチェックリストを表示します。チェックリストの項目の詳細については、 19 ページの『第 5 章 WCA 構成前の確認事項』を参照してください。

+ **データベースの構成**
+ このタスクを使用して WCA データベースを構成します。 29 ページの
+ 『WCA データベースの構成』を参照してください。

+ **オプションの構成**
+ データベースを構成した後、このツールを使用して WCA ビジネス・オプ
+ ションを構成します。 43 ページの『WCA ビジネス・オプションの構成』
+ を参照してください。

構成後 このタスクを使用して、構成後のチェックリストを表示します。チェックリスト項目の詳細について、構成後の WebSphere Commerce サーバーへの更新に関しては、 69 ページの『第 7 章 WebSphere Commerce サーバー上でのキャプチャー・プログラムのセットアップ』を、WCA サーバーへの更新に関しては、 73 ページの『第 8 章 構成後』を参照してください。

インフォメーション・センター
このタスクはを使用して、WCA 資料、および WCA Web サイトへのリンクを含む Web ページを表示します。

終了 (Alt+F4)
構成マネージャーを終了する場合は、これを選択します。

注: チェックリストの表示を除いて、一度に 1 つのタスクしか実行できません。

構成マネージャーのショートカット・キー

構成マネージャーでは、すべてのアクションにマウスの他にキーボードを使用することができます。ショートカット・キーとそのアクションを次の表に示します。

表 1. 構成マネージャーのショートカット・キー

アクション	キー
ウィンドウ上の次のフィールドに移動する	Tab
ウィンドウ上の直前のフィールドに戻る	Shift+Tab
終了する	Alt+F4
次の構成ステップに進む	Alt+N
直前の構成ステップに戻る	Alt+B
ドロップダウン・リスト内の次の選択項目に移動する	下矢印
ドロップダウン・リスト内の直前の選択項目に戻る	上矢印
このウィンドウのオンライン・ヘルプ情報を表示する	Alt+H
構成マネージャー・ログを表示する	Alt+V

構成ステップの完了

WCA 構成は、2 つのメインタスクに分けられます。

- データベースの構成 (『WCA データベースの構成』を参照)。
- ビジネス・オプションの構成 (43 ページの『WCA ビジネス・オプションの構成』を参照)。

WCA データベースの構成

1. 実行中のプログラムをすべて終了します。
2. 構成マネージャーを開始します。「IBM WebSphere Commerce Analyzer 構成マネージャー」ウィンドウ (27 ページの図 3) が開きます。
3. ウィンドウの左側にある「**データベースの構成**」をクリックします。最初の一連のウィンドウが開きます。この一連のウィンドウで以下のステップを完了できます。
   - WebSphere Commerce データベース・アクセスの構成 (『データ・ソースへの接続』を参照)
   - WebSphere Commerce Analyzer データマートの作成 (31 ページの『データマートの作成』を参照)
   - ソース・データベース用の複製セットアップ (34 ページの『複製の構成』を参照)
   - Professional Business マイニングのスケジュール (36 ページの『データ・マイニング環境とスケジュールの構成』を参照)
   - DB2 ウェアハウス・センター - コントロール・データベースの構成 (38 ページの『DB2 ウェアハウス・センター・コントロール・データベースの構成』を参照)
   - プロモート・ステップの準備 (40 ページの『ウェアハウス・ステップのプロモートの準備』を参照)
   - ステップのプロモート (41 ページの『実働モードへのウェアハウス・ステップのプロモート』を参照)

WCA データベースの構成後に、ビジネス・オプションを構成する必要があります。 43 ページの『WCA ビジネス・オプションの構成』を参照してください。

WCA サーバーを初めて構成した後は、 73 ページの『第 8 章 構成後』のセクションを実行してからでないと、ビジネス・レポートを作成することはできません。

データ・ソースへの接続

この構成ステップでは、WCA サーバーが WebSphere Commerce トランザクション・データベース・サーバーに接続できるようにするためのパラメーターを設定します。「構成マネージャー」ウィンドウ (27 ページの図 3) で「**データベースの構成**」をクリックすると、「WebSphere Commerce データベース・アクセスの構成」ウィンドウ (30 ページの図 4) が表示されます。 WebSphere Commerce に接続するために、ウィンドウ内のフィールドに正しい情報が入力されていない場合には、必要な情報をすべて入力します。

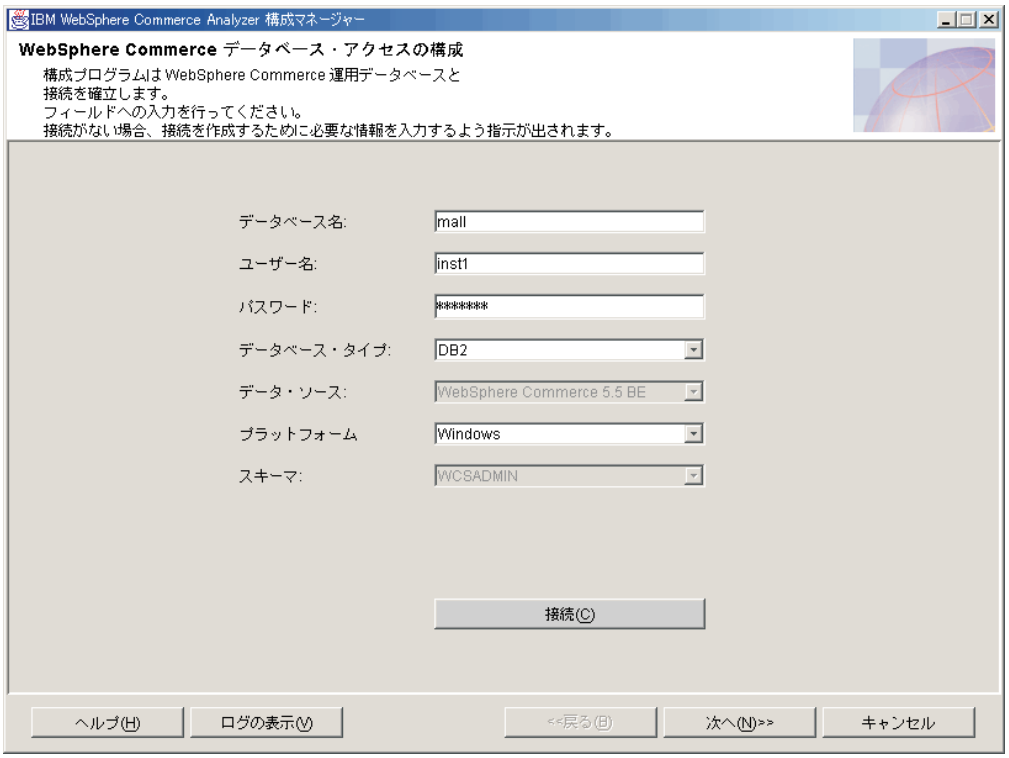

図 4. 「WebSphere Commerce データベース・アクセスの構成」ウィンドウ

1. 「**データベース名**」フィールドに WebSphere Commerce データベース名を入力します。
2. 「**ユーザー名**」フィールドに WebSphere Commerce トランザクション・データベース・サーバー上の有効なデータベース・ユーザーのユーザー ID を入力します。
3. 「**パスワード**」フィールドに WebSphere Commerce トランザクション・データベース・サーバー上の有効なデータベース・ユーザーのパスワードを入力します。
4. 「**データベース・タイプ**」リスト・ボックスから、WebSphere Commerce データベース・サーバー上のデータベースのタイプを選択します。「**DB2**」または「**Oracle**」を選択できます。

   注: 「**Oracle**」を選択した場合、さらに 2 つのフィールドがウィンドウ上に表示されます。ステップ 7 および 8 (31 ページ) を参照してください。
5. WebSphere Commerce データベース・サーバー上にインストールされた WebSphere Commerce のバージョンは、データベース・タイプが DB2 の場合、自動的に入力されます。データベース・タイプが Oracle の場合は、「**データ・ソース**」リスト・ボックスから WebSphere Commerce のバージョンを選択します。
6. 「**プラットフォーム**」リスト・ボックスから、WebSphere Commerce データベースがあるプラットフォームを選択します。
7. 「**データベース・タイプ**」リスト・ボックスで「**Oracle**」を選択した場合、「**オリジナル・ソース**」フィールドに Oracle データベースに指定した名前を入

力します。これは、 24 ページの『Oracle に必要な追加セットアップ』 のステップ 10 で指定した変数名 *oraalias* です。

8. 「**データベース・タイプ**」リスト・ボックスで「**Oracle**」を選択した場合、「**オリジナル・スキーマ**」フィールドに Oracle データベースのオリジナル・スキーマ名を入力します。
9. 「**接続**」をクリックします。接続が正常に完了したかどうかを示すメッセージが表示されます。接続が検出されない場合、「データベースへの接続の作成」ウィンドウが開きます。フィールドへの入力を行い「**OK**」を押してください。接続が失敗したというメッセージを受け取った場合は、 89 ページの『WebSphere Commerce データベース・アクセスの構成エラー・メッセージ』を参照してください。
10. 接続が成功した場合は、インストールしたバージョンの WebSphere Commerce 用の「**スキーマ**」リスト・ボックスから WebSphere Commerce データベース・スキーマの名前を選択します。
11. 「**次へ**」をクリックします。「WebSphere Commerce Analyzer データマートの作成」ウィンドウ (32 ページの図 5) が表示されます。 『データマートの作成』の手順に従ってください。

データマートの作成

この構成ステップでは、WCA サーバー上にデータマートがなければ作成します。データマートがすでに存在する場合には、データマートの現行の情報が上書きされます。

WCA データマートを作成するために、「WebSphere Commerce Analyzer データマートの作成」ウィンドウ (32 ページの図 5) 内のフィールドに正しい情報が入力されていない場合には、必要な情報をすべて入力します。

注: この手順には数分かかりますが、その間に DB2 はいくつかのシステム・テーブルを作成および移植します。

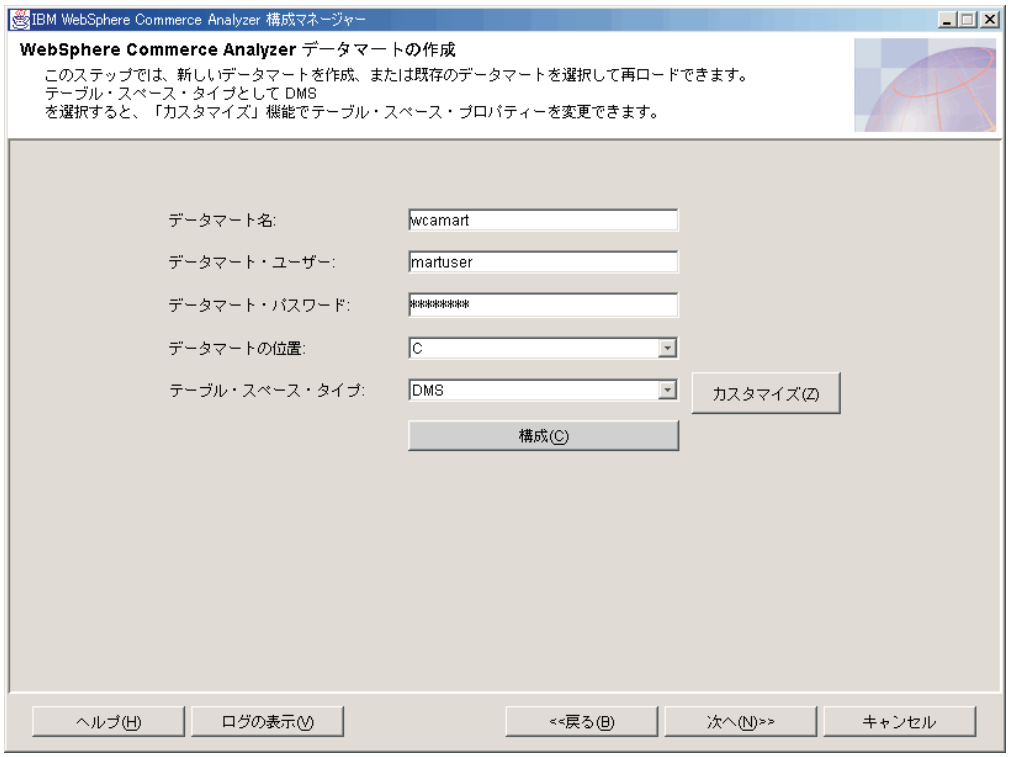

図 5. 「WebSphere Commerce Analyzer データマートの作成」ウィンドウ

1. 「**データマート名**」フィールドにデータマートのインスタンス名を入力します。この名前は 8 文字以下にする必要があり、DB2 文字セットの文字だけを含むようにする必要があります。
2. 「**データマート・ユーザー**」フィールドに Windows 管理者の Windows ユーザー ID を入力します。高速ロードを使用する場合は、martuser としてログインしなければなりません。
3. 「**データマート・パスワード**」フィールドに、ユーザーの対応するパスワードを入力します。
4. 「**データマートの位置**」フィールドで、データマートを作成したいパスを選択します。
5. 「**テーブル・スペース・タイプ**」リスト・ボックスから、DB2 がテーブル・スペースの作成時に使用するデータ・ストレージのタイプを選択します。「**DMS**」または「**SMS**」を選択できます。 (詳しくは、 21 ページの『使用するデータ・ストレージの決定』を参照。)

   「**DMS**」を選択した場合、WCA 構成で用意されるデフォルト値を変更できます。これを行うには、以下のようにします。

   a. 「**カスタマイズ**」をクリックします。「初期 DMS 値の変更 (Modify Initial DMS Values)」ウィンドウ (33 ページの図 6) が開きます。

図 6. 「初期 DMS 値の変更 (Modify Initial DMS Values)」ウィンドウ

b. スクリプト %IWDA_DIR%¥bin¥db2¥55be_ext¥wca_crt_tblsp_dms.sql は、データマート・スキーマ WCA のテーブル・スペースを作成するために使用されます。**名前**、**エクステント・サイズ**、**プリフェッチ・サイズ**、**オーバーヘッド**、**転送速度**、**ページ・サイズ**、および**ページ数**の値を移植するために使用されます。**バッファー・プール**の値は、スクリプト %IWDA_DIR%¥bin¥db2¥wca_crt_bufferpools_dms.sql から取得されます。バッファー・プールの値を変更する必要がある場合は、%IWDA_DATA%¥tmp ディレクトリーにあるスクリプトをコピーし、必要に応じてこれに変更を加えます。

注: 変更を確定したくない場合、または間違った場合には、「**最新表示**」をクリックしてウィンドウに元の値を再ロードします。

c. 「**適用**」をクリックして、行った変更を適用します。スクリプト wca_crt_tblsp_dms.sql のコピーが、新しい値が適用された状態で作成されます。変更されたスクリプトは、%IWDA_DATA%¥tmp¥wca_crt_tblsp_dms.sql に書き込まれます。

d. 「**了解**」をクリックして「データマートの DMS 値の変更 (Modify DMS Values for the Datamart)」ウィンドウを閉じます。

e. 必要に応じて、新しいスクリプトを変更することができます。変更されたスクリプトが自動的に削除されることはありません。構成を再実行するとき、

DMS 値をカスタマイズするためにウィンドウを再オープンしなかったとしても、この変更されたスクリプトが使用されます。

6. 「**構成**」をクリックして WCA データマートを作成します。すでにデータマートがインストールされている場合、古いデータマートを除去するか、使用するかを選択するよう指示が出されます。古いデータマートを使用したい場合は、データベースが保持され、再ロードされます。データマートの作成には数分かかる場合があります。このプロセスが完了すると、データマートが正常に作成されたかどうかを示すメッセージが表示されます。データマートが作成されない場合は、89 ページの『WebSphere Commerce Analyzer データマートの作成エラー・メッセージ』を参照してください。
7. 「**次へ**」をクリックします。「ソース・データベースの複製セットアップ」ウィンドウ (35 ページの図 7) が開きます。 『複製の構成』の手順に従ってください。

複製の構成

この構成ステップでは、構成マネージャーが WebSphere Commerce サーバーで複製をセットアップします。

構成マネージャーは、複製制御テーブルがすでに WebSphere Commerce サーバー上にあるかどうかを調べます。テーブルが存在する場合には、登録テーブル内および木構造制御テーブル内にある、 WCA を参照するエントリーが削除されます。 1 つでもテーブルが欠落している場合は、複製セットアップがすべてのテーブル、および対応するテーブル・スペース TSSNAP01 および TSSNAP02 を作成します。

重要: 複製の構成を開始する前に、WebSphere Commerce サーバー上に、テーブル・スペースを作成したいパスが存在することを確認してください。

複製を構成するには、「ソース・データベースの複製セットアップ」ウィンドウ (35 ページの図 7) 内のフィールドに必要な情報を入力します。

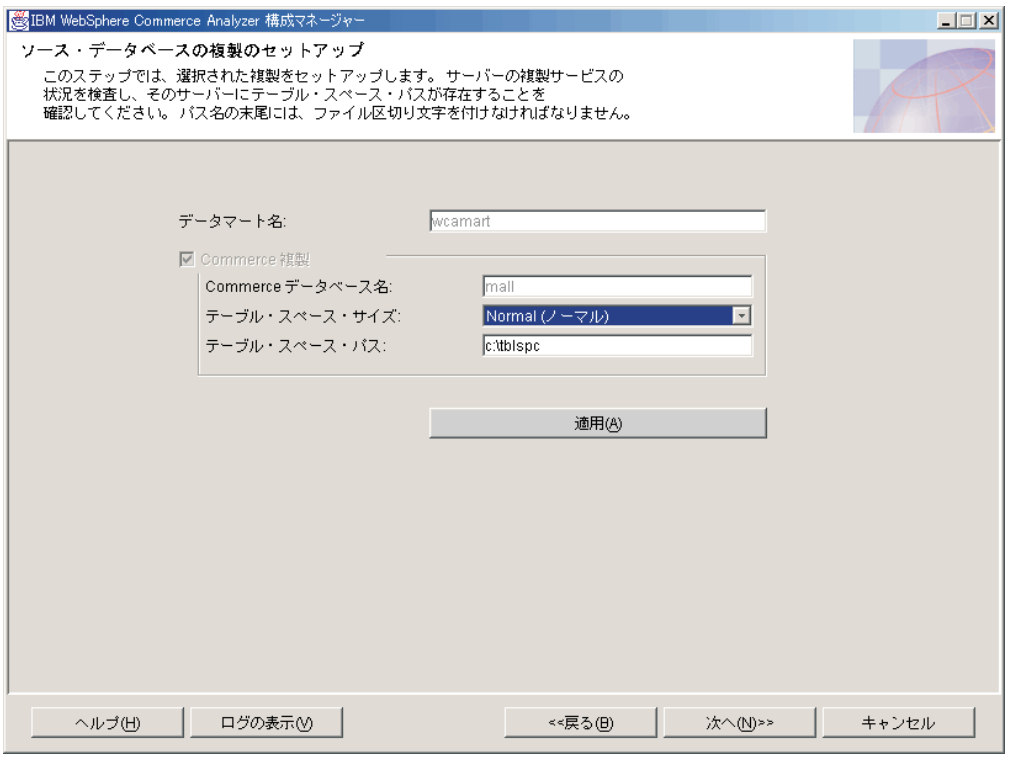

図 7. 「ソース・データベースの複製セットアップ」ウィンドウ

1. 「**データマート名**」フィールドに、データの複製先とするデータマートの名前があらかじめ入力されています。このデータマートについてサブスクリプションがセットアップされます。
2. 最初に構成を実行するとき、データ・ソースのチェック・ボックスは直前の選択に従って設定されていて、変更できません (つまり、「**Commerce 複製**」のチェック・ボックスは常にチェックされています)。

   後で部分的に構成をやり直す場合、チェック・ボックスに新しい状態が反映されます。

   - 初めて構成を実行するか、または「**Commerce 複製**」チェック・ボックスをクリックした場合、データの複製元にしたい、サーバー上のデータベースの名前が、「**Commerce データベース名**」フィールドにあらかじめ入力されます。このデータベースにサブスクリプションが追加されます。このフィールドを変更するには、次のようにします。

     a. 「WebSphere Commerce データベース・アクセスの構成」ウィンドウ (30 ページの図 4) が表示されるまで、「**戻る**」をクリックします。

     b. そのウィンドウの「**データベース名**」フィールドを変更します。

     c. 「**接続**」をクリックします。

     d. 「ソース・データベースの複製セットアップ」ウィンドウが再び表示されるまで、「**次へ**」をクリックします。

+ **注:** WebSphere Commerce サーバーが iSeries にある場合、ステップ 3 および 4 が
+ 適用されます。

3. 「**テーブル・スペース・サイズ**」リスト・ボックスから複製テーブル・スペースのサイズを選択します。以下から選択します。

- **ノーマル (Normal)**
- **ミディアム (Medium)**
- **ラージ (Large)**
- **エクストラ・ラージ (Extra large)**

注: テーブル・スペース・サイズのプロパティーについては、 99 ページの『テーブル・スペース・サイズの要件のトラブルシューティング』を参照してください。

4. 「**テーブル・スペース・パス**」フィールドに、テーブル・スペースを作成したい WebSphere Commerce サーバー上のパスを入力します。

重要: パスを入力するときには、必ず正しい形式を使用してください。この形式は、WebSphere Commerce を実行しているプラットフォームに応じて異なります。

- Windows マシン上では、 *d*:¥*tablespacedir*¥ です (ここで *d* はマシンのドライブ名で、*tablespacedir* はテーブル・スペースを作成したいディレクトリーのパス名)。ドライブ名とディレクトリーは、 WebSphere Commerce マシンに存在するとおりの実際のドライブとディレクトリーでなければならず、マップされたドライブ名およびディレクトリーであってはなりません。
- AIX または Solaris 上では、/*tablespacepath*/ と入力します (ここで、*tablespacepath* はテーブル・スペースを作成したいパス)。
- コマース・サーバーが Oracle を使用している場合は、*c*:¥*tablespacedir*¥ です (ここで *c* は WCA がインストールされているマシンのローカル・ドライブで、 *tablespacedir* はテーブル・スペースを作成したディレクトリーのパス名)。

5. 「**適用**」をクリックします。セットアップが正常に完了したかどうかを示すメッセージが表示されます。セットアップが正常に完了しなかった場合は、 90 ページの『ソース・データベースの複製セットアップ・エラー・メッセージ』を参照してください。
6. セットアップが正常に完了したら、「**次へ**」をクリックします。
   - Professional Business Intelligent Miner がインストール済みの場合、「マイニングのスケジュール」ウィンドウ (37 ページの図 8) が開きます。 『データ・マイニング環境とスケジュールの構成』の手順に従ってください。
   - Professional Business Intelligent Miner がまだインストールされていない場合、「DB2 ウェアハウス・センター - コントロール・データベースの構成」ウィンドウ(39 ページの図 9) が開きます。 38 ページの『DB2 ウェアハウス・センター・コントロール・データベースの構成』の手順に従ってください。

データ・マイニング環境とスケジュールの構成

Professional Business この構成ステップでは、WCA でのマイニングに関連するデータ・アクティビティーの操作に適した環境をセットアップします。これには、マイニング・ベースのセットアップ、およびマイニング・スケジュール用のパラメーターのセットアップも含まれます。「マイニングのスケジュール」ウィンドウ (37 ページの図 8) で、フィールドに正しい情報が含まれていない場合には、これらのフィールドへの入力を行ってください。

マイニングを使用したくない場合は、「**次へ**」をクリックして「DB2 ウェアハウス・センター - コントロール・データベースの構成」ウィンドウ(39 ページの図 9) を表示します。 38 ページの『DB2 ウェアハウス・センター・コントロール・データベースの構成』の手順に従ってください。

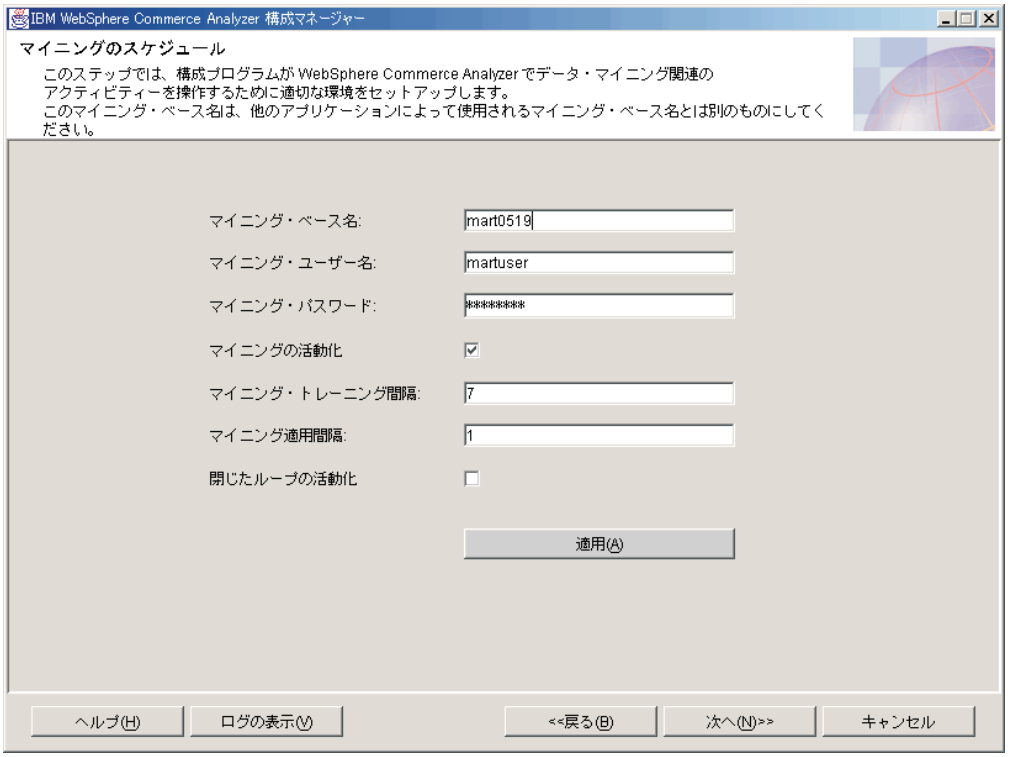

図 8. 「マイニングのスケジュール」ウィンドウ

1. 「**マイニング・ベース名**」フィールドにマイニング・ベースの名前を入力します。

   重要: この名前は、他のアプリケーションで使用されるマイニング・ベース名と異なるようにしてください。このステップを先に済ませていた場合、先に指定した名前が DB2 Intelligent Miner for Data にインポートされます。DB2 Intelligent Miner でこのマイニング・ベースを削除することもできますし、異なるマイニング・ベース名を選択することもできます。
2. 「**マイニング・ユーザー名**」フィールドに、データ・マイニング・ユーザーのユーザー ID を入力します。
3. 「**マイニング・パスワード**」フィールドに、「**マイニング・ユーザー名**」フィールドに示されているデータ・マイニング・ユーザーのパスワードを入力します。
4. マイニングを活動化したい場合、「**マイニングの活動化**」チェック・ボックスを変更しないでください。これは、デフォルトでチェックされています。ステップ 5 に進んでください。

   マイニングを活動化したくない場合は、チェック・ボックスのチェックをはずしてください。ステップ 8 (38 ページ) に進んでください。
5. 「**マイニング・トレーニング間隔**」フィールドに、どれくらい頻繁にマイニング・モデルをトレーニングする必要があるかを示す間隔 (日数単位) を入力しま

す。異なるスケジュールを設定するための値の定義の仕方については、 『マイニング実行スケジュールのセットアップ方法』を参照してください。

6. 「**マイニング適用間隔**」フィールドに、マイニング・モデルを運用データ・セットに適用する必要のある頻度を示す間隔 (日数単位) を入力します。異なるスケジュールを設定するための値の定義の仕方については、 『マイニング実行スケジュールのセットアップ方法』を参照してください。
7. 「**閉じたループの活動化**」チェック・ボックスをクリックして、 WebSphere Commerce データベースにインポート可能な、データ・マイニングの結果およびスコアを生成します。この結果を使用して顧客プロファイルを作成できます。
8. 「**適用**」をクリックします。構成ステップが正常に完了したかどうかを示すメッセージが表示されます。構成ステップが正常に完了しなかった場合は、 92 ページの『マイニングのスケジュール・エラー・メッセージ』を参照してください。
9. 構成ステップが正常に完了した場合は、「**次へ**」をクリックして「 DB2 ウェアハウス・センター - コントロール・データベースの構成」ウィンドウ (39 ページの図 9) を表示します。 『DB2 ウェアハウス・センター・コントロール・データベースの構成』の手順に従ってください。

マイニング実行スケジュールのセットアップ方法

Professional Business

1. ETL スケジュールでマイニングを実行します。

   「**マイニング・トレーニング間隔 (Mining Training Interval)**」の値を 0 に設定した場合、スケジュールされた WCA ETL が実行されるたびに、マイニング・モデル・トレーニング操作が実行されます。

   「**マイニング適用間隔 (Mining Apply Interval)**」の値を 0 に設定した場合に、スケジュールされた WCA ETL が実行されるたびに、マイニング・モデル適用 (スコアリング) 操作が実行されます。
2. 独自のスケジュールでマイニングを実行します。

   「**マイニング・トレーニング間隔 (Mining Training Interval)**」または「**マイニング適用間隔 (Mining Apply Interval)**」が 1 以上の値に設定されている場合には、指定された値に従って、マイニング操作の実行頻度が調整されます。

   マイニング・モデル・トレーニングはあまり頻繁にスケジュールしないことをお勧めします。たとえば、マイニング・モデルを週に一度トレーニングし、モデルを日に一度データに適用したい場合は、「**マイニング・トレーニング間隔 (Mining Training Interval)**」を 7 に、「**マイニング適用間隔 (Mining Apply Interval)**」を 1 に設定することができます。
3. マイニングを非活動化するには、「マイニングのスケジュール」ウィンドウ(37 ページの図 8) の「**マイニングの活動化**」チェック・ボックスのチェックをはずします。

DB2 ウェアハウス・センター・コントロール・データベースの構成

この構成ステップでは、抽出プロセスを管理するためのDB2 ウェアハウス・センター・コントロール・データベースを構成します。 DB2 ウェアハウス・センター・コントロール・データベースを構成するには、「DB2 ウェアハウス・センター - コ

ントロール・データベースの構成」ウィンドウ (図 9) のフィールドに適切な情報を入力します。

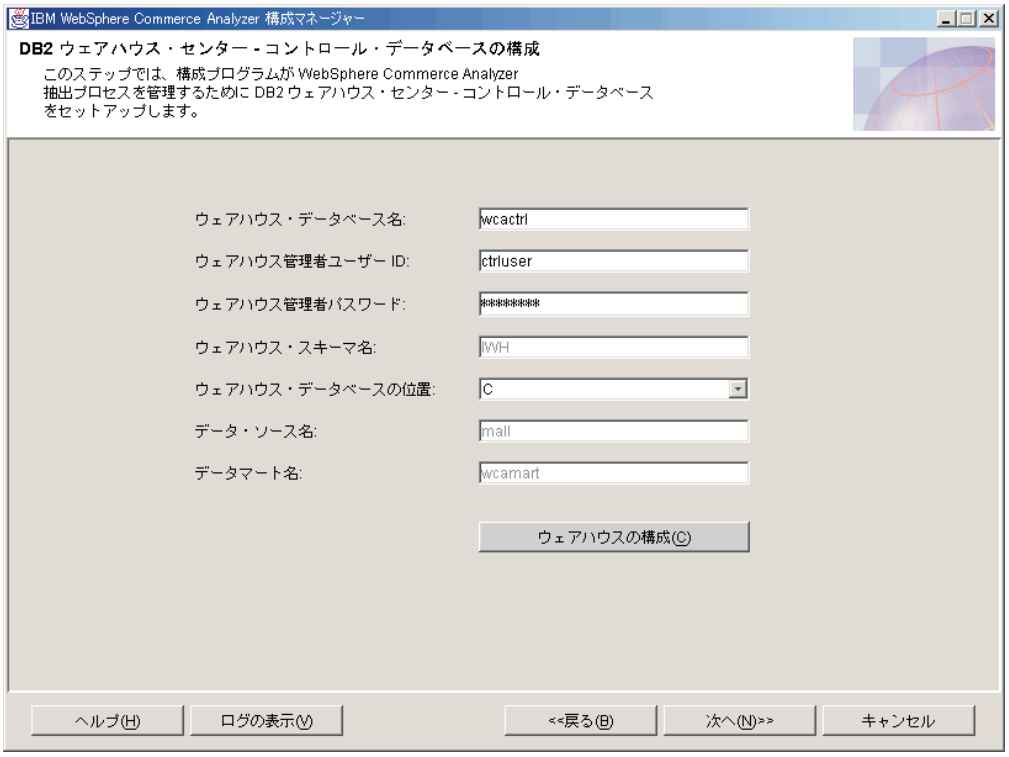

図 9. 「DB2 ウェアハウス・センター - コントロール・データベースの構成」ウィンドウ

1. 「**ウェアハウス・データベース名**」フィールドに DB2 ウェアハウス・センター・コントロール・データベースの ODBC 名を入力します。この名前は、長さが 8 文字を超えないようにしてください。

   注: 高速ロードを使用する場合、ODBC 名は wcactrl でなければなりません。
2. 「**ウェアハウス管理者ユーザー ID**」フィールドに、WCA サーバー上の DB2 データベース管理者のユーザー ID を入力します。これは、WCA データマートを管理し、複製と抽出をスケジュールするユーザーです。

   注: 高速ロードを使用する場合は、 **ctrluser** として、パスワード **ctrluser** を使用してログオンしなければなりません。
3. 「**ウェアハウス管理者パスワード**」フィールドに、WCA サーバー上の DB2 データベース管理者のパスワードを入力します。
4. 「**ウェアハウス・スキーマ名**」フィールドにウェアハウス・スキーマの名前が入っていることを確認します。
5. 「**ウェアハウス・データベースの位置**」リスト・ボックスで、DB2 ウェアハウス・センター・コントロール・データベースを作成したいドライブまたはパスを選択します。
6. 「**データ・ソース名**」フィールドにソース・データベースの名前が入っていることを確認します。
7. 「**データマート名**」フィールドに WCA データマートの名前が入っていることを確認します。

8. **「ウェアハウスの構成」をクリックします。**すでにウェアハウス・データベースが存在する場合、古いデータベースを使用するか、または除去するかを選択するよう指示が出されます。

   事前作成スクリプトを使用する「高速ロード」 (推奨) オプションを使用するか、または各スクリプトを個別に構成するために実行時間が著しく長くなる「カスタム・ロード」オプションを使用するかを選択するよう指示が出されます。(21 ページの『高速ロードまたはカスタム・ロードの選択』を参照。)

   その後、構成ステップが正常に完了したかどうかを示すメッセージが表示されます。構成ステップが正常に完了しなかった場合は、93 ページの『DB2 ウェアハウス・センター - コントロール・データベースの構成エラー・メッセージ』を参照してください。

9. 構成ステップが正常に完了した場合は、「**次へ**」をクリックします。「プロモート・ステップの準備 (Prepare Promote Step)」ウィンドウ (41 ページの図 10) が開きます。 『ウェアハウス・ステップのプロモートの準備』の手順に従ってください。

ウェアハウス・ステップのプロモートの準備

「プロモート・ステップの準備」ウィンドウ (41 ページの図 10) には、さらに構成を行うために DB2 コントロール・センター・データベースの準備に必要なステップの概要がリストされています。これらのステップは、前のステップで「高速ロード」または「カスタム・ロード」のいずれを実行したかによって異なります。

- 「**ウェアハウスの初期化**」については、83 ページの『ウェアハウス・センター - コントロール・データベースの初期化』を参照してください。
- 「**パスワードの変更**」については、85 ページの『ウェアハウス・ソースおよびターゲット中の情報の更新』を参照してください。
- 「**高速ロードの変更**」については、86 ページの『WebSphere Commerce テーブルのスキーマ名の変更』を参照してください。

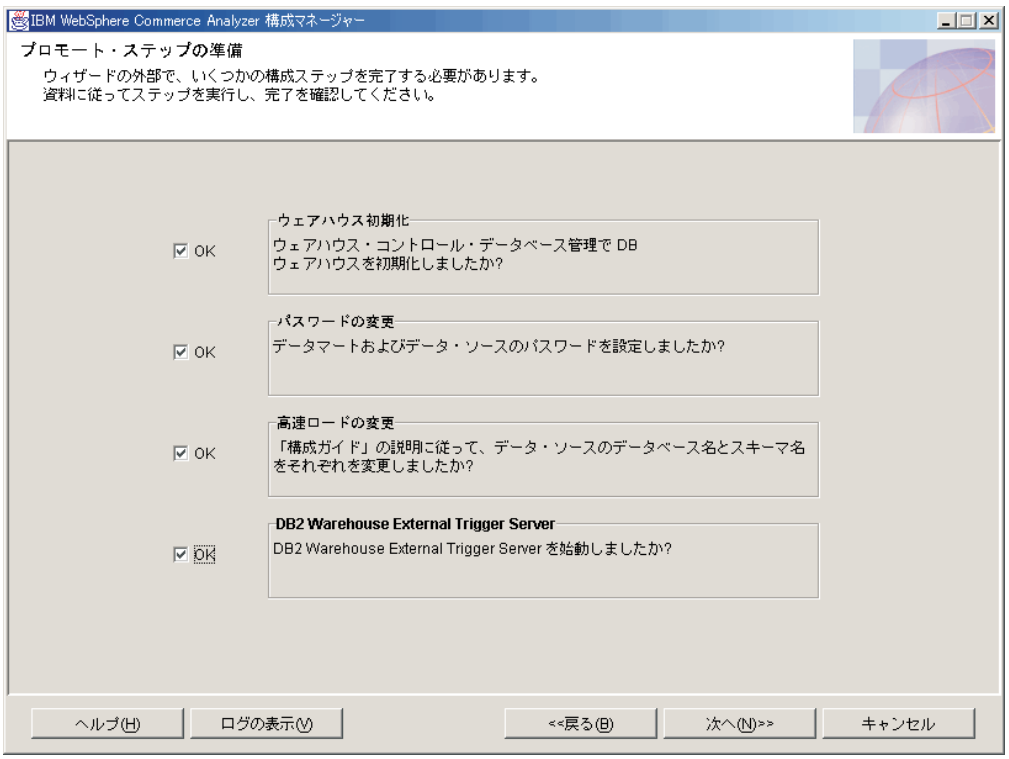

図 10. 「プロモート・ステップの準備」ウィンドウ

すべての手順を完了した後に、以下のようにします。

1. 「プロモート・ステップの準備」ウィンドウで「**OK**」チェック・ボックスをクリックします。
2. ウェアハウス・センター・サーバー Windows システム上で、コマンド・プロンプトを開きます。
3. 次の jar ファイルをクラスパスに追加します:
   DB2DIR¥tools¥db2XTrigger.jar;
   DB2DIR¥java¥common.jar
   (DB2DIR は DB2 がインストールされている場所です。)
4. 次のコマンドを入力します。

   ```
   %IWDA_DIR%¥jre¥bin¥java db2_vw_xt.XTServer 11004
   ```

   説明:
   - 11004 はポート番号です。詳しくは DB2 資料を参照してください。
5. プロモーションが完了した後、XT™ サーバーを実行させておきます。 WCA の実行中は、そのようにしておく必要があります。
6. 「**次へ**」をクリックして「ステップのプロモート」ウィンドウ (42 ページの図 11) を表示します。 『実働モードへのウェアハウス・ステップのプロモート』の手順に従ってください。

実働モードへのウェアハウス・ステップのプロモート

この構成ステップでは、ウェアハウス・ステップを実働モードにプロモートし、複製タイプを選択します。「ステップのプロモート」ウィンドウ (42 ページの図 11)

内のフィールドに正しい情報が入っていない場合には、必要な情報をすべて入力します。

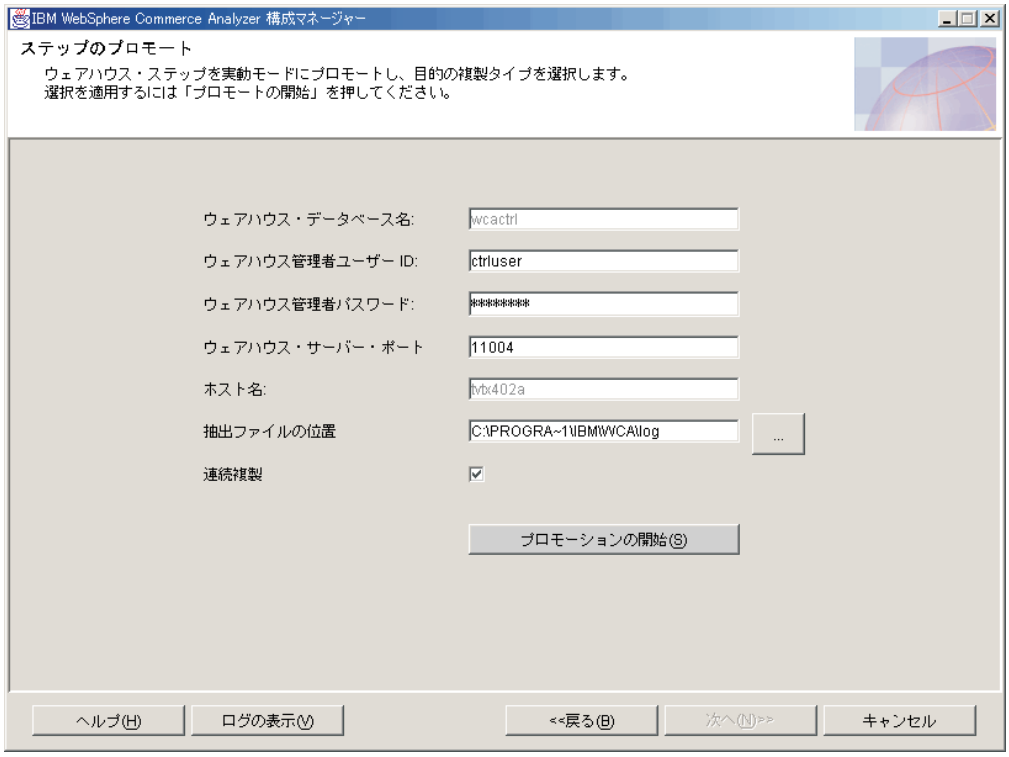

図 11. 「ステップのプロモート」ウィンドウ

1. 「**ウェアハウス管理者ユーザー ID**」に、「**ウェアハウス・データベース名**」フィールドにリストされているデータベースの所有者のユーザー ID を入力します。
2. 「**ウェアハウス管理者パスワード**」フィールドに管理者ユーザー ID のパスワードを入力します。
3. 「**ウェアハウス・サーバー・ポート**」フィールドに XTServer に使用するポート番号を入力します。

   注: 正確なポート番号を入力しないと、トリガー・プログラムが終了しなくなります。
4. プロモーションを開始した後、ウェアハウス・サーバーのホスト名が検査され、「**ホスト名**」フィールドに自動的に表示されます。内容が変更されると、ホスト名について確認されます。
5. 「**抽出ファイルの位置**」フィールドに、抽出ファイルが一時的に置かれるパスを指定します。このディレクトリーまたはファイル・システムは、抽出ファイルがすべて入るだけの大きさでなければなりません。
6. 複製をスケジュールしたくない場合、「**連続複製**」チェック・ボックスをチェックされたままにしておいてください。スケジュールに基づいて複製を開始および停止したい場合は、このチェック・ボックスのチェックをはずしてください。詳細については、23 ページの『複製オプション』を参照してください。

7. 「**プロモーションの開始**」をクリックします。構成ステップが正常に完了したかどうかを示すメッセージが表示されます。構成ステップが正常に完了しなかった場合は、 93 ページの『ステップのプロモート・エラー・メッセージ』を参照してください。

   注: プロモーションの実行には 45 分以上かかります。

8. 構成ステップが正常に完了した場合は、WCA データベースの構成が完了しています。「**キャンセル**」をクリックして「IBM WebSphere Commerce Analyzer 構成マネージャー」ウィンドウ (27 ページの図 3) に戻ります。

WCA ビジネス・オプションの構成

WCA データベースの構成後に、ビジネス・オプションを構成する必要があります。ビジネス・オプション構成ステップは、以下のとおりです。

- オンライン・ストア、およびレポート用の言語と通貨の選択 (45 ページの『ストアおよび言語の選択』を参照)
- カタログの選択 (46 ページの『カタログの選択』を参照)
- 「参照およびファイナンシャル期間のロード」ウィンドウ (47 ページの『参照およびファイナンシャル期間のロード』を参照)
- Professional Business マイニング・モデルの選択 (50 ページの『マイニング・モデルの選択』を参照)
- オーダー状況マッピングの構成 (51 ページの『オーダー状況値の割り当て』を参照)
- オーダー状況属性の選択 (52 ページの『オーダー状況プロパティーの選択』を参照)
- RFM で合計されるオーダーの選択 (54 ページの『RFM で合計されるオーダーの選択』を参照)
- オーダーとクーポン/イニシアチブ/メタフォーとの間の関連の定義 (56 ページの『オーダーとクーポン、イニシアチブ、およびメタフォーの関連付け』を参照)
- メンバー属性の選択 (58 ページの『メンバー属性の選択』を参照)
- 中止されたオーダーのプロパティーの選択 (59 ページの『中止されたオーダーのプロパティーの選択』を参照)
- 見積要求 (RFQ) のプロパティーの選択 (61 ページの『RFQ プロパティーの定義』を参照)
- 契約プロパティーの選択 (62 ページの『契約状況の定義』を参照)
- WCA パラメーターの保守 (64 ページの『パラメーターの操作』を参照)

まず最初に構成パスを選択しなければ、これらのタスクを始めることはできません (『構成パスの選択』を参照)。

構成パスの選択

ビジネス・オプション構成タスクを開始する前に、デフォルト構成設定を使用するか、または設定をカスタマイズするかを選択する必要があります。

1. 実行中のプログラムをすべて終了します。
2. 構成マネージャーを開始します。「IBM WebSphere Commerce Analyzer 構成マネージャー」ウィンドウ (27 ページの図 3) が開きます。

3. ウィンドウの左側で「**オプションの構成**」をクリックします。「ビジネス・オプション構成パス」ウィンドウ (図 12) が開きます。

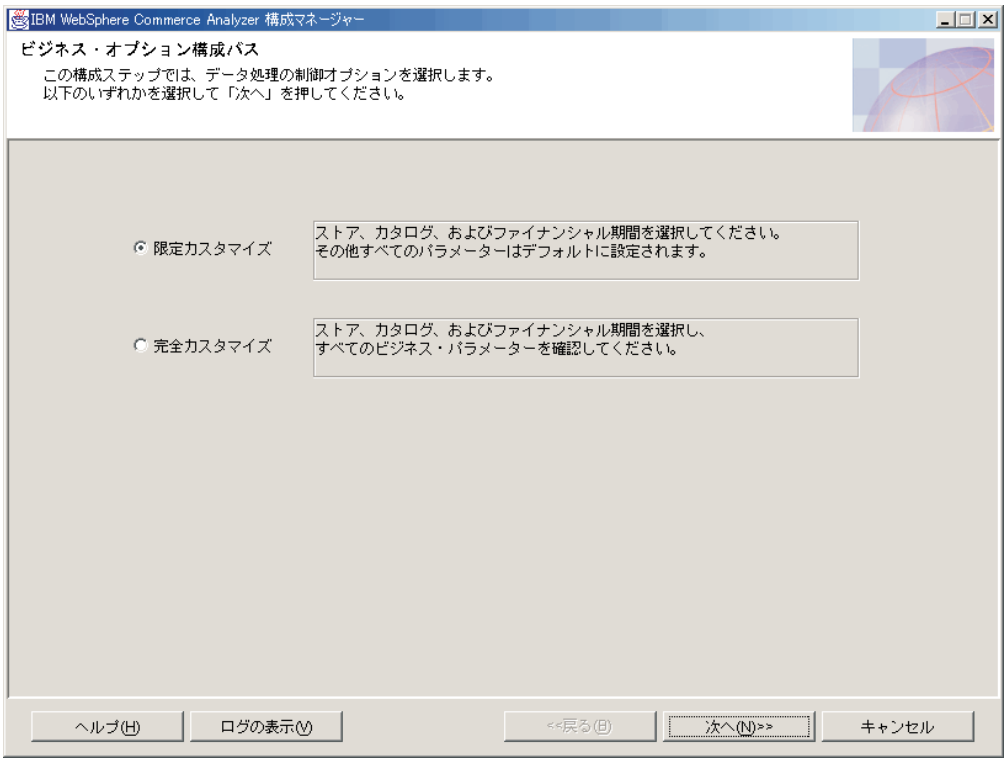

図 12. 「ビジネス・オプション構成パス」ウィンドウ

4. 以下のいずれかのオプションを選択します。
   - **限定カスタマイズ**

     パラメーターについてのみデフォルト設定を使用するには、このオプションを選択します。ストア、カタログ、およびファイナンシャル期間を選択しなければなりません。
   - **完全カスタマイズ**

     ストア、カタログ、ファイナンシャル期間、およびビジネス・パラメーターすべてを選択するには、このオプションを選択します。
5. 「**次へ**」をクリックします。「データベースへの接続」ウィンドウが開きます。
6. WCA データマート所有者の ID が「**ユーザー ID**」フィールドにあらかじめ入力されています。「**パスワード**」フィールドに、対応するパスワードを入力します。
7. 「**OK**」をクリックします。別の「データベースへの接続」ウィンドウが開きます。
8. WebSphere Commerce データベース所有者の ID が、「ユーザー ID」フィールドにあらかじめ入力されています。「**パスワード**」フィールドに、対応するパスワードを入力します。
9. 「**OK**」をクリックします。「オンライン・ストア、およびレポート用の言語と通貨の選択」ウィンドウ (45 ページの図 13) が開きます。 45 ページの『ストアおよび言語の選択』の手順に従ってください。

ストアおよび言語の選択

この構成ステップでは、ビジネス・レポートを作成する対象のストアについて、ストア、言語、または通貨を設定あるいは変更します。ストア情報を設定または変更するには、「オンライン・ストア、およびレポート用の言語と通貨の選択」ウィンドウ (図 13) に情報を入力してください。

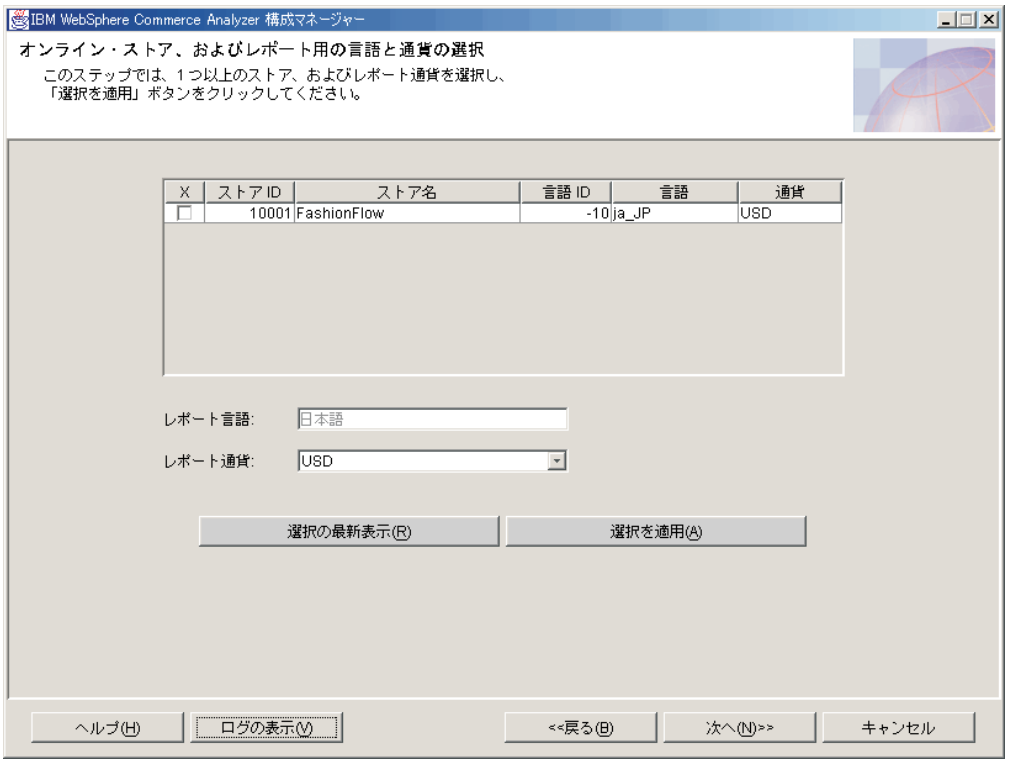

図 13. 「オンライン・ストア、およびレポート用の言語と通貨の選択」ウィンドウ

1. 「**ストア名**」列にリストされているストアに対応するチェック・ボックスを「**X**」列でクリックして、ビジネス・レポートを生成したい 1 つ以上のストアを選択します。
2. ビジネス・レポートが生成されるときの言語を「**レポート言語**」リスト・ボックスから選択します。ビジネス・レポートのデフォルト言語は、ロケールの言語になっています。
3. 「**レポート通貨**」リスト・ボックスで、ビジネス・レポートの生成で使用したい通貨を選択します。

   注: 変更を確定したくない場合、または間違った場合には、「**選択の最新表示**」をクリックしてウィンドウに元の値を再ロードします。
4. 「**選択を適用**」をクリックします。構成ステップが正常に完了したかどうかを示すメッセージが表示されます。構成ステップが正常に完了しなかった場合は、95 ページの『オンライン・ストア、およびレポート用の言語と通貨の選択エラー・メッセージ』を参照してください。

注: 分析対象のストアを選択した後、構成マネージャーを使用してそのストアのレポートを停止することができます。これを行うには、レポートを停止したいストアに対応するチェック・ボックスを選択解除します。さらに「**選択を適用**」をクリックします。

重要: すでにストアについてデータマートに抽出されたデータがある場合、そのストアが選択解除されても、データは自動的に削除されません。ストアを使用不可にした場合のみ、新しいデータがロードされなくなります。ストアに関する既存のデータを除去する方法については、「*IBM WebSphere Commerce Analyzer テクニカル・リファレンス*」の『ストアの除去』を参照してください。

5. 構成ステップが正常に完了した場合は、「**次へ**」をクリックして「カタログの選択」ウィンドウを表示します。 『カタログの選択』の手順に従ってください。

カタログの選択

この構成ステップでは、WebSphere Commerce で以前にセットアップした 1 つ以上のカタログを選択します。 WCA のインストール前に行う WebSphere Commerce でのカタログのセットアップについては、 10 ページの『カテゴリー・レポート用のカタログ構造』を参照してください。

選択する各カタログはツリー状に編成されていなければなりません。ツリー編成のカタログを使用することで、WCAは製品に基づいてメトリックを計算し、各メトリックを単一のカテゴリーに関連付けることができます。ツリー状に編成されていないカタログを選択した場合、ビジネス・レポートで生成されるデータが不正確なものになることがあります。詳しくは、 10 ページの『カテゴリー・レポート用のカタログ構造』を参照してください。

カタログを選択するには、「カタログの選択」ウィンドウ (47 ページの図 14) に情報を入力してください。

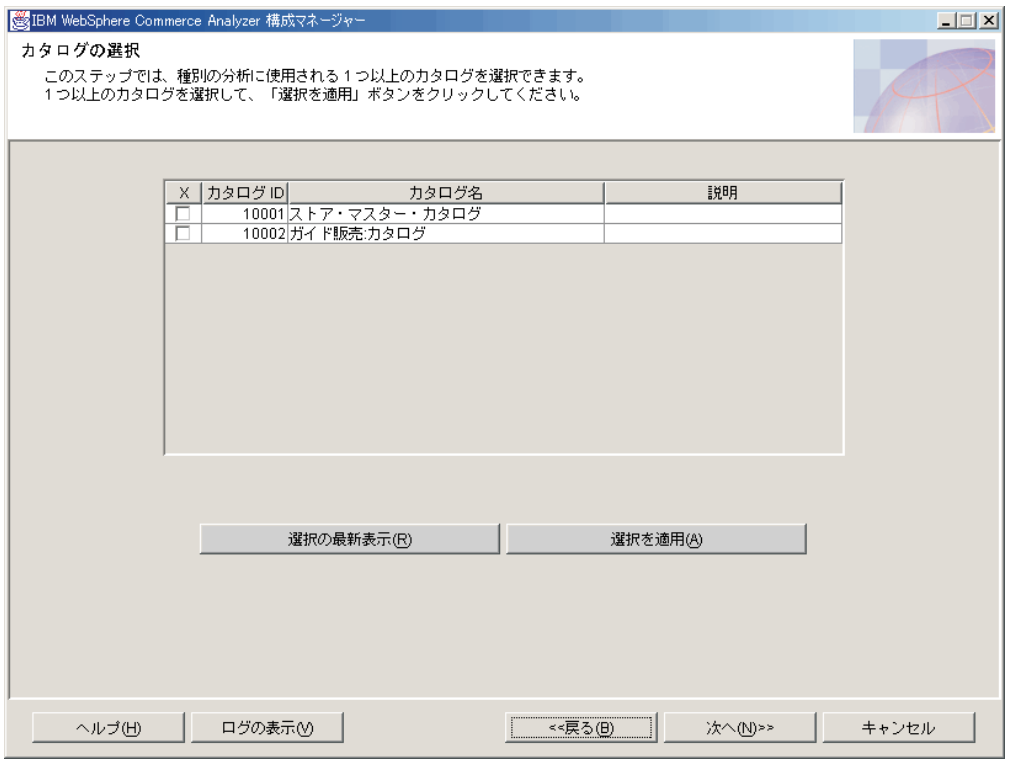

図 14. 「カタログの選択」ウィンドウ

注: フィールドがブランクの場合は、 CATALOG テーブルの catalog_id エントリーに対応するエントリーが、 CATALOGDSC テーブルにありません。 CATALOG テーブルで定義されたすべてのカタログについて該当するエントリーを CATALOGDSC テーブルに挿入して、この問題を解決してください。これらのレコードを挿入するときには、必ず正しい language_id を使用してください。 WebSphere Commerce LANGUAGE テーブルを参照し、インストールした language_id を選択して、該当する値を見つけてください。

1. レポート生成に使用するカタログを 1 つまたは複数選択します。

   注: 選択したカタログを使用しない場合、または間違った場合は、「**選択の最新表示**」をクリックしてウィンドウに元の値を再ロードしてください。

2. 「**選択を適用**」をクリックします。構成ステップが正常に完了したかどうかを示すメッセージが表示されます。構成ステップが正常に完了しなかった場合は、95 ページの『カタログの選択エラー・メッセージ』を参照してください。
3. 構成ステップが正常に完了した場合は、「**次へ**」をクリックして「参照およびファイナンシャル期間のロード」ウィンドウ (48 ページの図 15) を表示します。『参照およびファイナンシャル期間のロード』の手順に従ってください。

参照およびファイナンシャル期間のロード

この構成ステップでは、会計年度の始まりおよびオンライン・ストア用にロードする期間の数を選択し、参照テキストをロードします。

+ **重要:** 会計年度の始まりは、新しい構成についてのみ設定できます。期間がロード
+ された後では、これを変更することはできません。後で更新できるのは、ロ
+ ードする参照だけです。

「参照およびファイナンシャル期間のロード」ウィンドウ (図 15) に必要項目をすべて入力します。

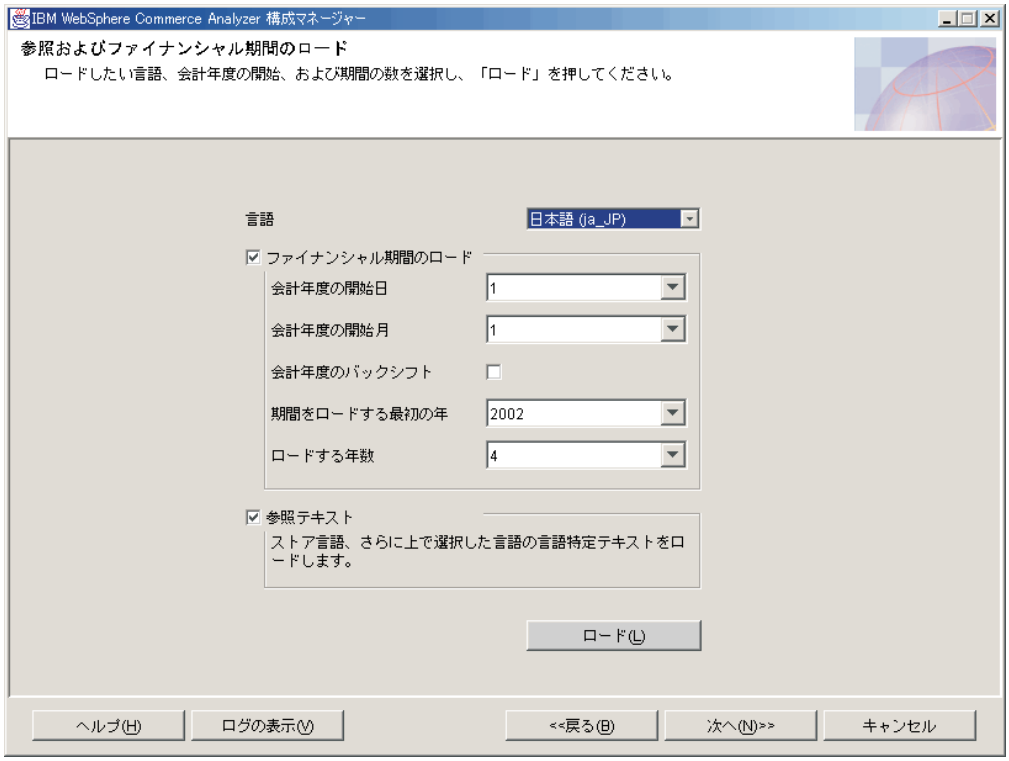

図 15. 「参照およびファイナンシャル期間のロード」ウィンドウ

1. 参照およびファイナンシャル期間テキストの言語を、「**言語**」リスト・ボックスから選択してください。英語およびデフォルトのレポート言語が自動的にロードされます。必要であれば、追加の言語を選択することができます。
2. ファイナンシャル期間をロードしたい場合、「**ファイナンシャル期間のロード**」チェック・ボックスをクリックしてください。

   重要: 初めてファイナンシャル期間をロードした後、会計年度の始まりを変更することはできません。ロードする期間の数を選択することによって、さらに年度を選択できます。

   a. 会計年度が始まる日付を「**会計年度の開始日**」リスト・ボックスから選択します。
   b. 会計年度が始まる月に対応する数字を「**会計年度の開始月**」リスト・ボックスから選択します。 (たとえば、会計年度が 4 月から始まる場合、**4** を選択してください。)
   c. 会計年度が前年から始まっている場合、「**会計年度のバック・シフト**」チェック・ボックスにチェックマークを付けます。
   d. 期間のロードを始める年を「**期間をロードする最初の年**」リスト・ボックスから選択します。
   e. ロードする年数を「**ロードする年数**」リスト・ボックスから選択します。(ロード可能な最大年数は 9 です。)

注: すでに存在する期間の説明のために言語をさらにロードする必要がある場合、言語を選択し、「**ロードする年数**」リスト・ボックスから **0** を選択します。

3. 参照テキストをロードしたい場合は、「**参照テキスト**」チェック・ボックスにチェックマークを付けてください。
4. 「**ロード**」をクリックします。構成ステップが正常に完了したかどうかを示すメッセージが表示されます。
5. 構成ステップが正常に完了した場合は、「**次へ**」をクリックします。
   - 「ビジネス・オプション構成パス」ウィンドウ (44 ページの図 12) で「**限定カスタマイズ**」を選択した場合、「ビジネス・オプション設定の確認」ウィンドウ(図 16) が開きます。 『ビジネス・オプション設定の確認』の手順に従ってください。
   - 「ビジネス・オプション構成パス」ウィンドウ (44 ページの図 12) で「**完全カスタマイズ**」を選択した場合は、「**次へ**」をクリックして「マイニング・モデルの選択」ウィンドウ (50 ページの図 17) を表示します。 50 ページの『マイニング・モデルの選択』の手順に従ってください。

ビジネス・オプション設定の確認

「ビジネス・オプション構成パス」ウィンドウ(44 ページの図 12) で「**限定カスタマイズ**」を選択した場合は、「ビジネス・オプション設定の確認」ウィンドウ (図 16)でデフォルト選択項目を確認する必要があります。

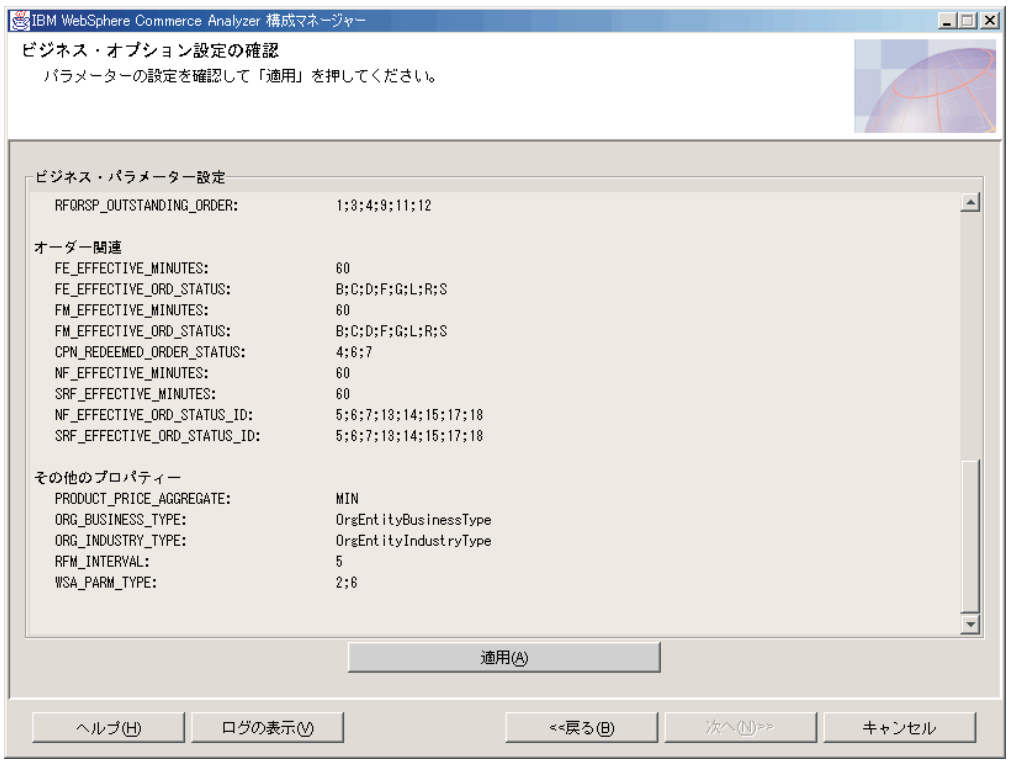

図 16. 「ビジネス・オプション設定の確認」ウィンドウ

1. このウィンドウでパラメーター・グループを確認します。

2. 以下のいずれかのステップを実行します。
   - 選択に問題がなければ、「**適用**」をクリックします。「IBM WebSphere Commerce Analyzer 構成マネージャー」ウィンドウ (27 ページの図 3) に戻るには、「**キャンセル**」をクリックしてください。
   - 選択に問題がある場合は、「ビジネス・オプション構成パス」ウィンドウ (44 ページの図 12) が表示されるまで「**戻る**」をクリックし、異なる構成パスを選択してください。

マイニング・モデルの選択

Professional Business この構成ステップで、ご使用のサイトのビジネス・オプションに対応するマイニング・モデルを選択します。

注: マイニング・モデルは、「マイニングのスケジュール」ウィンドウ (37 ページの図 8) でマイニングが活動化されている場合に使用されます。マイニングを使用しない場合は、「**次へ**」をクリックして「オーダー状況マッピングの構成」ウィンドウ (51 ページの図 18) を表示します。 51 ページの『オーダー状況値の割り当て』の手順に従ってください。

マイニング・モデルをオン/オフにするには、「マイニング・モデルの選択」ウィンドウのフィールドに入力します (図 17)。

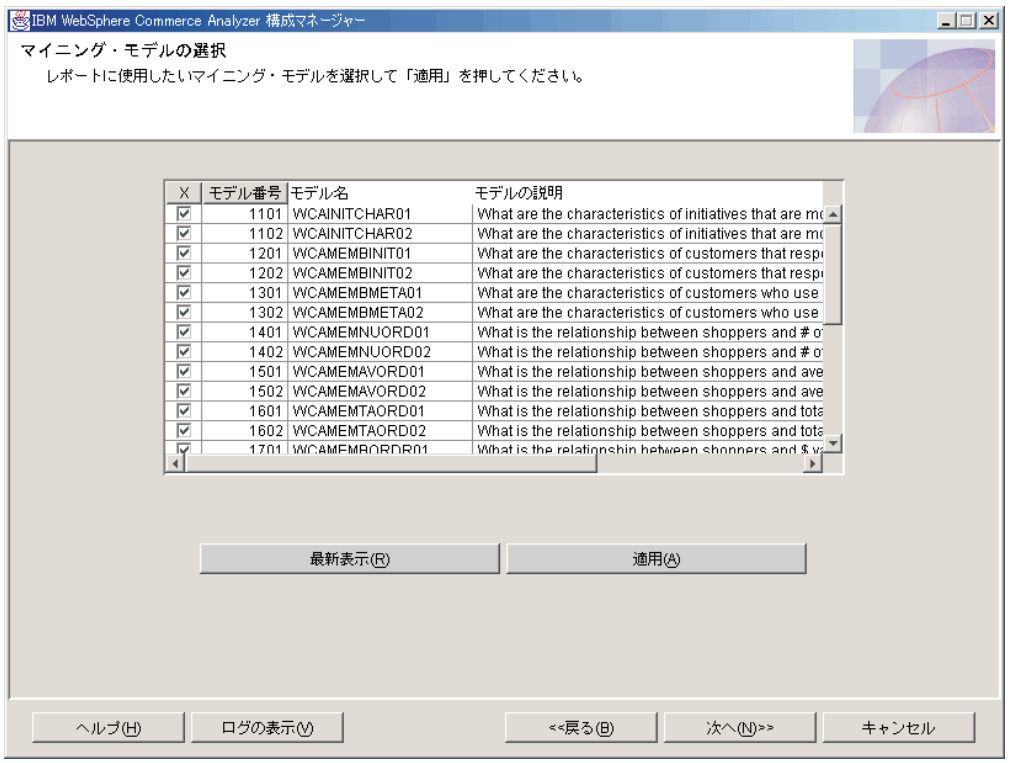

図 17. 「マイニング・モデルの選択」ウィンドウ

1. リスト・ボックスをスクロールし、モデルの説明を確認します。モデルをオンにしたい場合は、対応する列にあるチェック・ボックスを選択してください。チェック・マークは、そのモデルがオンになっていることを示しています。チェック・ボックスがブランクであれば、そのモデルはオフになっています。

注: 選択したマイニング・モデルを使用しない場合、または間違った場合は、「**最新表示**」をクリックしてウィンドウに元の値を再ロードしてください。

2. 「**適用**」をクリックします。構成ステップが正常に完了したかどうかを示すメッセージが表示されます。
3. 構成ステップが正常に完了した場合は、「**次へ**」をクリックして「オーダー状況マッピングの構成」ウィンドウ (図 18) を表示します。 『オーダー状況値の割り当て』の手順に従ってください。

オーダー状況値の割り当て

この構成ステップでは、WebSphere Commerce オーダー状況値に WCA 値を割り当てます。これを行うには、「オーダー状況マッピングの構成」ウィンドウ (図 18) に情報を入力します。

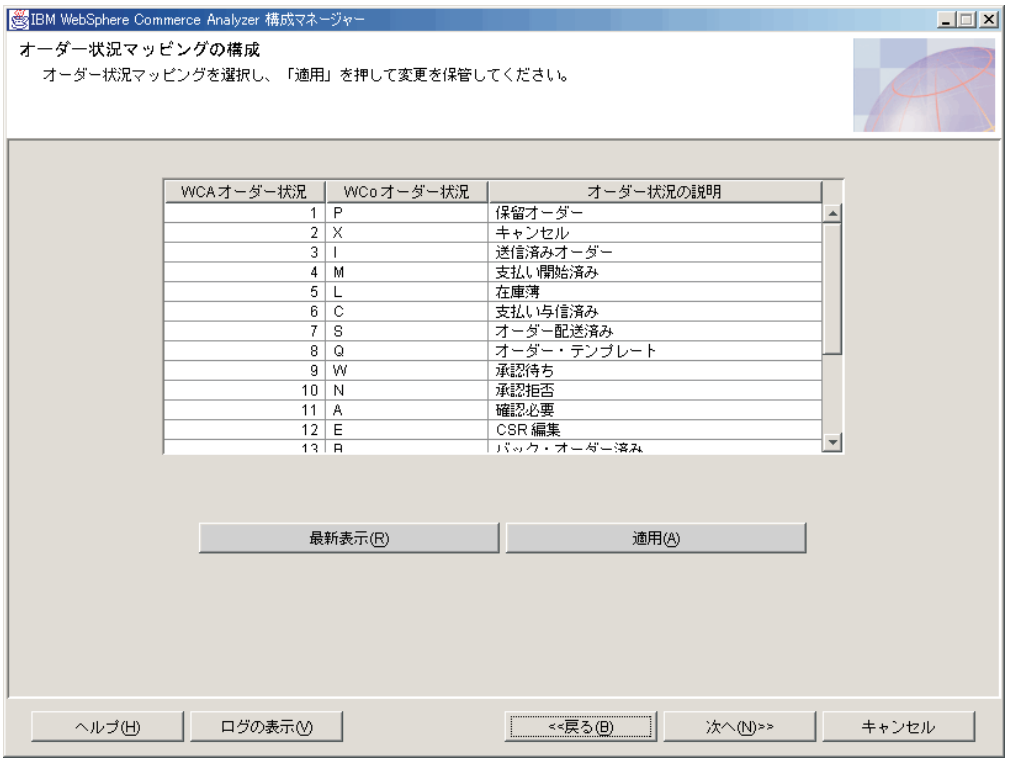

図 18. 「オーダー状況マッピングの構成」ウィンドウ

次のテーブルは、デフォルトの WCA/WebSphere Commerce オーダー状況値を示しています。

表 2. デフォルトの WCA/WebSphere Commerce オーダー状況値

WCA オーダー状況	WCo* オーダー状況	オーダー状況
1	P	保留オーダー
2	X	キャンセル
3	I	送信済みオーダー
4	M	支払い開始済み
5	L	在庫薄
6	C	支払い与信済み

表 2. デフォルトの WCA/WebSphere Commerce オーダー状況値 (続き)

WCA オーダー状況	WCo* オーダー状況	オーダー状況
7	S	オーダー配送済み
8	Q	オーダー・テンプレート
9	W	承認待ち
10	N	承認拒否
11	A	確認必要
12	E	CSR 編集
13	B	バック・オーダー済み
14	R	配送業務用にリリース済み
15	D	入金済み
16	T	一時
17	F	リモート配送業務用に準備済み
18	G	リモート配送業務待ち
19	Y	私用要求リスト
20	Z	共用要求リスト

*WebSphere Commerce

1. 情報を確認します。必要があれば、「**オーダー状況の説明**」列のエントリーを変更してください。

   注: 選択した設定を使用しない場合、または間違った場合は、「**最新表示**」をクリックしてウィンドウに元の値を再ロードしてください。
2. 「**適用**」をクリックします。構成ステップが正常に完了したかどうかを示すメッセージが表示されます。
3. ステップが正常に完了した場合は、「**次へ**」をクリックして「オーダー状況属性の選択」ウィンドウ (53 ページの図 19) を表示します。 『オーダー状況プロパティーの選択』の手順に従ってください。

オーダー状況プロパティーの選択

この構成ステップでは、オーダー状況ごとに適用できる属性を選択します。これを行うには、「オーダー状況属性の選択」ウィンドウに情報を入力します。

図 19. 「オーダー状況属性の選択」ウィンドウ

1. リスト・ボックスをスクロールします。「**状況**」列の該当するそれぞれのオーダー状況に対して、いずれかの後続列内の対応する属性をクリックします。

   注: 参照用に、列名に対応するパラメーターと要旨が含まれています。詳しい説明については、「*IBM WebSphere Commerce Analyzer テクニカル・リファレンス*」を参照してください。

   No Revenue

   ORDER_STATUS_ID_NOREV

   このパラメーターは、通貨金額列にデータが挿入されない可能性のあるオーダーを表す FACT_ORDERS および FACT_ORDERITEMS テーブル内のレコードを WebSphere Commerce Analyzer が判別するのに役立ちます。

   Billed

   ORDER_STATUS_BILLED

   このパラメーターは、請求済みのオーダーを表す FACT_ORDERS および FACT_ORDERITEMS テーブル内の ORDER_STATUS_ID を決定します。状況コードの説明は、WCA.ORDER_STATUS_REF テーブルにあります。

Waiting for Payment

ORDERS_AWAITING_PAYMENT

このパラメーターは、WebSphere Commerce Analyzer が、まだ支払いを待っている ORDERS および ORDERITEMS を判別するのを助けます。このパラメーターを FACT_ORDERS および FACT_ORDERITEMS テーブルの ORDER_STATUS_ID と比較できます。レポートではこのパラメーターを使用して、支払待ちのオーダーにのみ適用されるメトリックを表示できます。デフォルト値は **4** です。このパラメーターは複数の値を持つことができます。

Transferred

ORDER_STATUS_XFERRED

デフォルト値は次のとおりです。

R = Read For Remote Fulfillment
G = Waiting For Remote Fulfillment
F = Ready For Remote Fulfillment

Collected

ORDER_STATUS_COLLECTED

このパラメーターは、収集されたオーダーを表す FACT_ORDERS および FACT_ORDERITEMS テーブル内の ORDER_STATUS_ID を決定します。状況コードの説明は、WCA.ORDER_STATUS_REF テーブルにあります。

Cancelled

ORDER_STATUS_CANCELLED

このパラメーターは、キャンセルされたオーダーを表す FACT_ORDERS および FACT_ORDERITEMS テーブル内の ORDER_STATUS_ID を決定します。状況コードの説明は、WCA.ORDER_STATUS_REF テーブルにあります。デフォルト値は **5** です。このパラメーターには、複数の値を指定できます。

Purged

NON_PURGE_ORD_STATUS

このパラメーターは、レコードが ORDER および ORDERITEMS テーブルから削除された後の処理方法を決定します。

注: 選択した設定を使用しない場合、または間違った場合は、「**最新表示**」をクリックしてウィンドウに元の値を再ロードしてください。

2. 「**適用**」をクリックします。
3. ステップが正常に完了した場合は、「**次へ**」をクリックして「RFM で合計されるオーダーの選択」ウィンドウ (55 ページの図 20) を表示します。 『RFM で合計されるオーダーの選択』の手順に従ってください。

RFM で合計されるオーダーの選択

この構成ステップでは、RFM (新しさ、頻度、および金額) で合計されるオーダーを選択します。

WCA では、RFM は契約およびアカウントと関連したオーダーに適用されます。RFM は以下の条件で決まります。

- ショッピングを行った最新の日付

- 最大オーダー数
- オーダーで支払った最も多い金額

データにはそれぞれの変数に応じてランクが付けられ、5 つの等しいビンに分けられます。契約またはアカウントごとに、そのビン割り当てに対応する 1 ～ 5 の番号が割り当てられます。ショッピングを行った最新の日付、最大オーダー数、および最も多く支払った金額を持つ契約またはアカウントは、RFM 値が 555 になります。最も少ないアクティビティー、最小数のオーダー、および最も少ない支払金額を持つ契約またはアカウントの RFM 値は 111 です。正常に実行するには、RFM に最低 5 つのレコード (ビンの数) が必要です。

RFM で合計されるオーダーを選択するには、「RFM で合計されるオーダーの選択」ウィンドウ (図 20) に情報を入力します。

図 20. 「RFM で合計されるオーダーの選択」ウィンドウ

1. 「**WCo-WCA 状況**」列の各エントリーについて、対応する「**メンバー**」および「**取引 ID**」列のチェック・ボックスをクリックします。

   注: 参照用に、列名に対応するパラメーターと要旨が含まれています。詳しい説明については、「*IBM WebSphere Commerce Analyzer テクニカル・リファレンス*」を参照してください。

   メンバー

   ORDER_STATUS_ID_SUM_MEMBER

   このパラメーターは、SUM_MEMBER テーブルの行にデータを挿入するために、FACT_ORDERITEMS テーブルの行と一致していなければならない一連の ORDER_STATUS_ID 値を判別します。

   取引 ID

ORDER_STATUS_ID_SUM_TRADING
このパラメーターは、SUM_TRADING テーブルの行にデータを挿入するために、FACT_ORDERITEMS テーブルの行と一致していなければならない一連の ORDER_STATUS_ID 値を判別します。

注: 選択した設定を使用しない場合、または間違った場合は、「**最新表示**」をクリックしてウィンドウに元の値を再ロードしてください。

2. 「**適用**」をクリックします。構成ステップが正常に完了したかどうかを示すメッセージが表示されます。
3. 構成ステップが正常に完了した場合は、「**次へ**」をクリックして「オーダーとクーポン/イニシアチブ/メタフォーとの間の関連の定義」ウィンドウ (57 ページの図 21) を表示します。 『オーダーとクーポン、イニシアチブ、およびメタフォーの関連付け』の手順に従ってください。

オーダーとクーポン、イニシアチブ、およびメタフォーの関連付け

この構成ステップでは、オーダー、クーポン、イニシアチブ、およびメタフォー間の関連を定義します。これは、イニシアチブおよびメタフォーの効率の評価をサポートします。

イニシアチブ とは、商品の購入などの特定の行動を助長するために使用される方法です。

メタフォー とは、商品アドバイザー・コンポーネントの一部として提供されている WebSphere Commerce フィーチャーです。これは、ショッパーが商品間をナビゲートするための 3 つの使用法のパラダイム (メタフォー) を提供します。すなわち、商品探査、セールス・アシスタント、製品比較です。商品探査メタフォーでは、ユーザーは商品の特性 (価格、色、タイプなど) の要件 (制約) をいくつか設定して、それに合致する商品を検索することができます。セールス・アシスタント・メタフォーは、商品の詳細に通じておらず、特性の要件が設定できないショッパー向けです。このメタフォーでは、一連の質問を出すことによって、顧客の求めている商品を推測します。商品比較メタフォーでは、ユーザーは複数の商品を比較することができます。メタフォーの詳細については、WebSphere Commerce の資料を参照してください。

オーダーとクーポン、イニシアチブ、およびメタフォーを関連付けるには、「オーダーとクーポン/イニシアチブ/メタフォーとの間の関連の定義」ウィンドウ (57 ページの図 21) に情報を入力します。

注: 参照用に、列名に対応するパラメーターと要旨が含まれています。詳しい説明については、「*IBM WebSphere Commerce Analyzer テクニカル・リファレンス*」を参照してください。

イニシアチブ

FE_EFFECTIVE_ORD_STATUS
このパラメーターは、WebSphere Commerce データベースにある ORDERS.STATUS および ORDERITEMS.STATUS 列の一連の値を定義します。

メタフォー (Metaphor®)

FM_EFFECTIVE_ORD_STATUS

このパラメーターは、WebSphere Commerce データベースにある ORDERS.STATUS および ORDERITEMS.STATUS 列の一連の値を定義します。

クーポン

CPN_REDEEMED_ORDER_STATUS

このパラメーターは、WebSphere Commerce データベースにある ORDERS.STATUS および ORDERITEMS.STATUS 列の一連の値を定義します。

イニシアチブ時間枠

FE_EFFECTIVE_MINUTES

このパラメーターは、ある商品を購入するバイヤーの決定にお勧め商品提示商法イニシアチブが影響を及ぼす時間枠を定義します。メンバーが、定義された時間内に宣伝した商品をショッピング・カートに入れなかった場合、後でその商品が購入されても、このイニシアチブは商品の収益に貢献したことにはなりません。

メタフォー時間枠

FM_EFFECTIVE_MINUTES

このパラメーターは、メタフォーを使用する顧客と、そのメタフォーによりプッシュされた商品を買う顧客との間に経過可能な時間 (分) を定義するものであり、この経過時間内であれば購入の功績はメタフォーに対して与えられます。

図 21. 「オーダーとクーポン/イニシアチブ/メタフォーとの間の関連の定義」ウィンドウ

1. 「**WCo-WCA オーダー状況**」列のエントリーに対応する「**イニシアチブ**」列のチェック・ボックスをクリックし、オーダー状況をイニシアチブとして識別します。チェック・マークは、該当するオーダー状況がイニシアチブであることを示します。
2. 「**WCo-WCA オーダー状況**」列のエントリーに対応する「**メタフォー**」列のチェック・ボックスをクリックし、オーダー状況をメタフォーとして識別します。チェック・マークは、該当するオーダー状況がメタフォーであることを示します。
3. 「**WCo-WCA オーダー状況**」列のエントリーに対応する「**クーポン**」列のチェック・ボックスをクリックし、オーダー状況をメタフォーとして識別します。チェック・マークは、該当するオーダー状況がクーポンであることを示します。
4. 「**イニシアチブ時間枠**」フィールドに、オーダー状況をイニシアチブとして識別する日数を入力します。
5. 「**メタフォー時間枠**」フィールドに、オーダー状況をメタフォーとして識別する日数を入力します。

   注: 選択した設定を使用しない場合、または間違った場合は、「**最新表示**」をクリックしてウィンドウに元の値を再ロードしてください。
6. 「**適用**」をクリックします。構成ステップが正常に完了したかどうかを示すメッセージが表示されます。
7. 構成ステップが正常に完了した場合は、「**次へ**」をクリックして「メンバー属性の選択」ウィンドウ (59 ページの図 22) を表示します。 『メンバー属性の選択』の手順に従ってください。

メンバー属性の選択

この構成ステップでは、ショッパーをどのように「*購入見込み客*」または「*既購入客*」として分類するかを指示します。これを行うには、「メンバー属性の選択」ウィンドウ (59 ページの図 22) の該当列で、その分類に適したオーダー状況値を選択します。状況が「既購入客」としてマークされている状態でショッパーが少なくとも 1 つのオーダーを持っている場合、そのショッパーは「既購入客」として扱われ、状況が「購入見込み客」としてマークされているオーダーは、そのショッパーの分類として見なされなくなります。

注: 参照用に、列名に対応するパラメーターと要旨が含まれています。詳しい説明については、「*IBM WebSphere Commerce Analyzer テクニカル・リファレンス*」を参照してください。

購入見込み客

DMT_PROSPECT_ORD_STATUS

このパラメーターは、WebSphere Commerce データベースの ORDERS.STATUS および ORDERITEMS.STATUS 列の一連の値を定義します。

既購入客

DMT_PURCHASER_ORD_STATUS

このパラメーターは、WebSphere Commerce データベースの ORDERS.STATUS および ORDERITEMS.STATUS 列の一連の値を定義します。

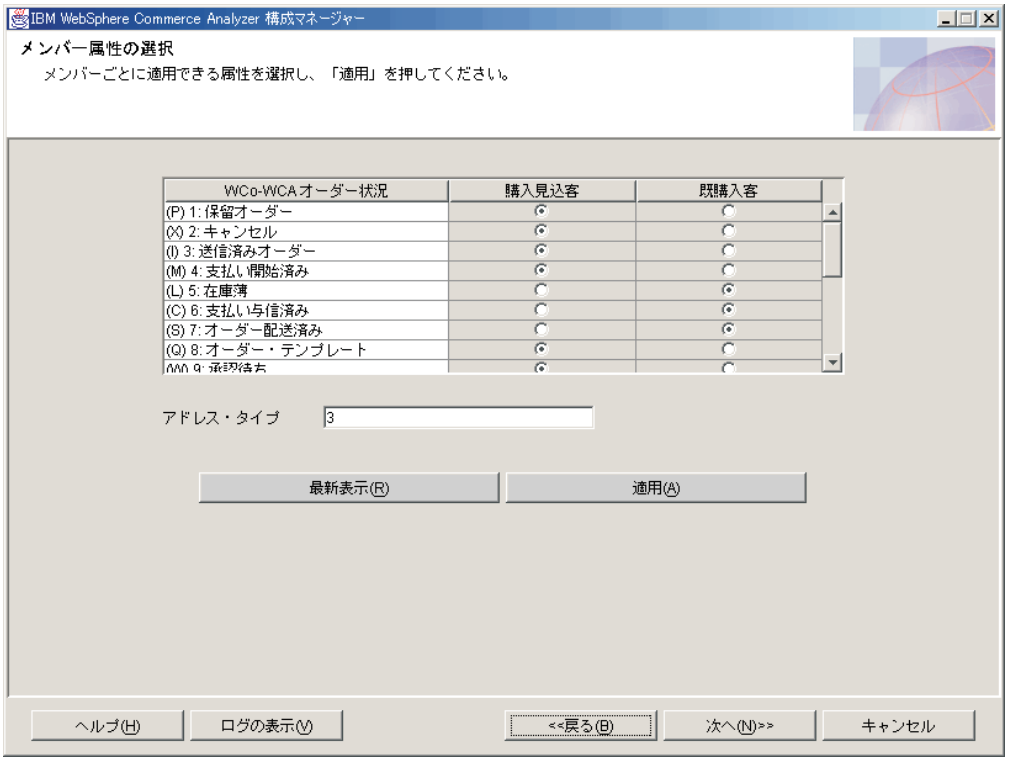

図 22. 「メンバー属性の選択」ウィンドウ

1. リスト・ボックスをスクロールします。該当する各オーダー状況について、「**購入見込み客**」または「**既購入客**」列のボタンを選択し、それを識別します。
2. 「**住所タイプ**」フィールドに、メンバーの住所タイプを指定する番号を入力します。ここに入力した住所は、MEMBER テーブルに住所ベース列を取り込むためにどの住所レコードが使用されるかを決定するときに役立ちます。住所タイプの説明については、WebSphere Commerce の資料を参照してください。

   注: 選択した設定を使用しない場合、または間違った場合は、「**最新表示**」をクリックしてウィンドウに元の値を再ロードしてください。
3. 「**適用**」をクリックします。構成ステップが正常に完了したかどうかを示すメッセージが表示されます。
4. 構成ステップが正常に完了した場合は、「**次へ**」をクリックして「中止されたオーダーのプロパティーの選択」ウィンドウ (60 ページの図 23) を表示します。『中止されたオーダーのプロパティーの選択』の手順に従ってください。

中止されたオーダーのプロパティーの選択

この構成ステップでは、オーダー状況が「中止済み」と識別されるまでの時間フレームを指定します。これを行うには、「中止されたオーダーのプロパティーの選択」ウィンドウ (60 ページの図 23) に情報を入力します。

注: 参照用に、列名に対応するパラメーターと要旨が含まれています。詳しい説明については、「*IBM WebSphere Commerce Analyzer テクニカル・リファレンス*」を参照してください。

中止済み

ABANDONED_ORD_STATUS

このパラメーターは、保留状態のオーダーと見なされる、WebSphere Commerce データベースの一連の ORDER.STATUS および ORDERITEMS.STATUS 値を定義します。このパラメーターを使用して、オーダーまたはオーダー・アイテムが中止されたかどうかを判別します。

時間枠

ABANDONED_MINUTES

このパラメーターは、オーダーを中止するために、メンバーが保留状態のオーダーを更新したあとに経過しなければならない時間枠を定義します。パラメーター ABANDONED_ORD_STATUS は、保留状態と見なされるオーダー状況値を定義します。

オーダーが中止されたと見なされるデフォルト値は **60** です。

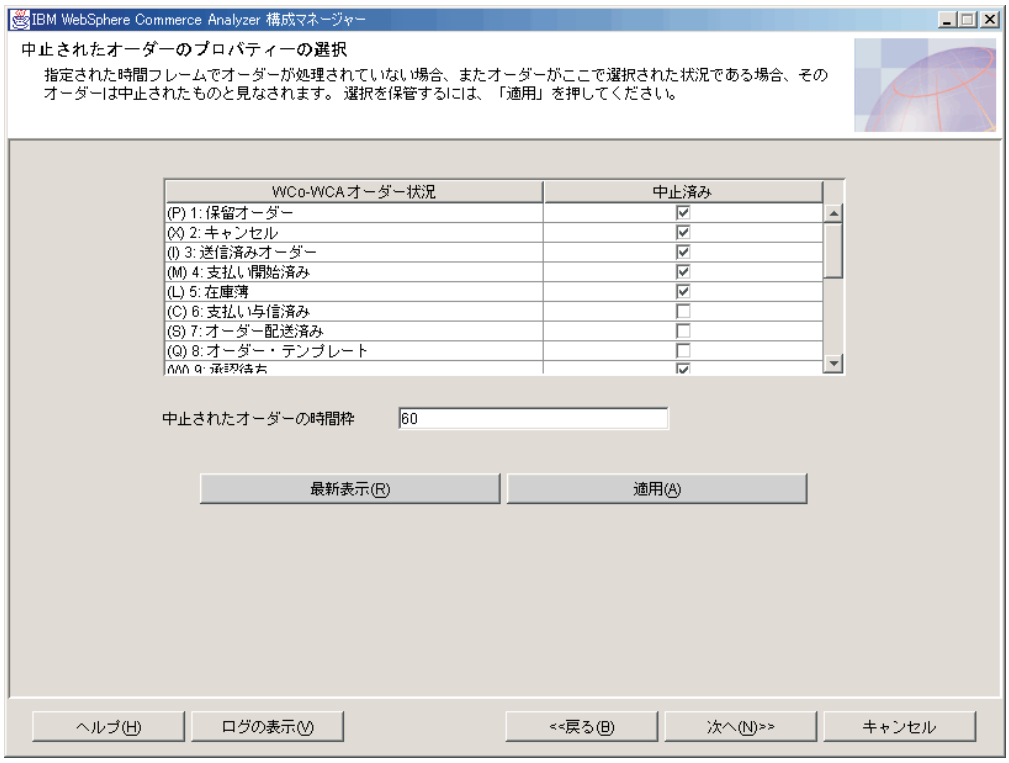

図 23. 「中止されたオーダーのプロパティーの選択」ウィンドウ

1. 「**WCo-WCA オーダー状況**」列のオーダー状況ごとに「**中止済み**」列の該当チェック・ボックスをクリックし、ステップ 2 で入力した期間後に「中止済み」と見なされるようにします。
2. 「**中止されたオーダーの時間枠**」フィールドに、オーダー状況が「中止済み」と見なされるまでの分数を入力します。

注: 選択した設定を使用しない場合、または間違った場合は、「**最新表示**」をクリックしてウィンドウに元の値を再ロードしてください。

3. 「**適用**」をクリックします。構成ステップが正常に完了したかどうかを示すメッセージが表示されます。
4. 構成ステップが正常に完了した場合は、「**次へ**」をクリックして「見積要求 (RFQ) のプロパティーの選択」ウィンドウ (62 ページの図 24) を表示します。『RFQ プロパティーの定義』の手順に従ってください。

RFQ プロパティーの定義

この構成ステップでは、見積要求 (RFQ) 状況および RFQ 関連オーダー状況を定義します。これを行うには、「見積要求 (RFQ) のプロパティーの選択」ウィンドウ (62 ページの図 24) に情報を入力します。

注: 参照用に、列名に対応するパラメーターと要旨が含まれています。詳しい説明については、「*IBM WebSphere Commerce Analyzer テクニカル・リファレンス*」を参照してください。

準備中

RFQ_RESPONSE_IN_PREPARATION

このパラメーターは、まだ準備状態にある RFQ_RSP レコードを WebSphere Commerce Analyzer が判別するのを助けます。この複数の値を持つパラメーターを RFQ_RSP.RSP_STATUS_ID フィールドと比較できます。デフォルト値は **1** です。

落札

RFQ_WINNING_RESPONSES

このパラメーターは、落札応答である RFQ を表すのが、どの RSP_STATUS_ID であるかを決定します。状況コードの説明は、WCA.RSP_STATUS_REF テーブルにあります。

未成立

RFQRSP_OUTSTANDING_ORDERS

このパラメーターは、未払いのオーダーを表す FACT_ORDERS および FACT_ORDERITEMS テーブル内の ORDER_STATUS_ID を決定します。これらのフラグを持つ RFQRSP に関連するオーダーは、顧客が支払いを開始していないため未払いと見なすことができます。状況コードの説明は、WCA.ORDER_STATUS_REF テーブルにあります。

図 24. 「見積要求 (RFQ) のプロパティーの選択」ウィンドウ

1. 「**RFQ 状況**」列の各エントリーについて、「**準備中**」または「**落札**」列の対応するボタンをクリックします。 RFQ が準備状態であることを示すには、「**準備中**」列のボタンをクリックします。 RFQ への応答がすべて受信されていて、契約が成立していることを示すには、「**落札**」列のボタンをクリックします。
2. 「**RFQ 関連オーダー**」ボックスで、状況値を「未成立」として識別するかどうかを指定します。「**未成立**」列のチェック・マークは、「**WCA-WCo オーダー状況**」列の対応する値が「未成立」として識別されるということを示します。

   注: 選択した設定を使用しない場合、または間違った場合は、「**最新表示**」をクリックしてウィンドウに元の値を再ロードしてください。
3. 「**適用**」をクリックします。構成ステップが正常に完了したかどうかを示すメッセージが表示されます。
4. 構成ステップが正常に完了した場合は、「**次へ**」をクリックして「契約プロパティーの選択」ウィンドウ (63 ページの図 25) を表示します。 『契約状況の定義』の手順に従ってください。

契約状況の定義

この構成ステップでは、WebSphere Commerce サーバーによって使用される契約状況がどのように解釈されるかを定義します。これを行うには、「契約プロパティーの選択」ウィンドウ (63 ページの図 25) に情報を入力します。

注: 参照用に、列名に対応するパラメーターと要旨が含まれています。詳しい説明については、「*IBM WebSphere Commerce Analyzer テクニカル・リファレンス*」を参照してください。

準備中

CONTRACT_IN_PREPARATION

このパラメーターは、契約が準備中であることを示す WCA.CONTRACT テーブルの CON_STATUS_ID を判別します。状況コードの説明は、WCA.CON_STATUS_REF テーブルにあります。デフォルト値は **0** です。このパラメーターには、複数の値を指定できます。

アクティブ

CONTRACT_ACTIVE

このパラメーターは、契約がまだアクティブであることを示す WCA.CONTRACT テーブルの CON_STATUS_ID を判別します。状況コードの説明は、WCA.CON_STATUS_REF テーブルにあります。デフォルト値は **3** です。このパラメーターには、複数の値を指定できます。

キャンセル

CONTRACT_CANCELLED

このパラメーターは、キャンセルされた契約を表すのが WCA.CONTRACT テーブルのどの CON_STATUS_ID かを決定します。状況コードの説明は、WCA.CON_STATUS_REF テーブルにあります。デフォルト値は **5** です。このパラメーターには、複数の値を指定できます。

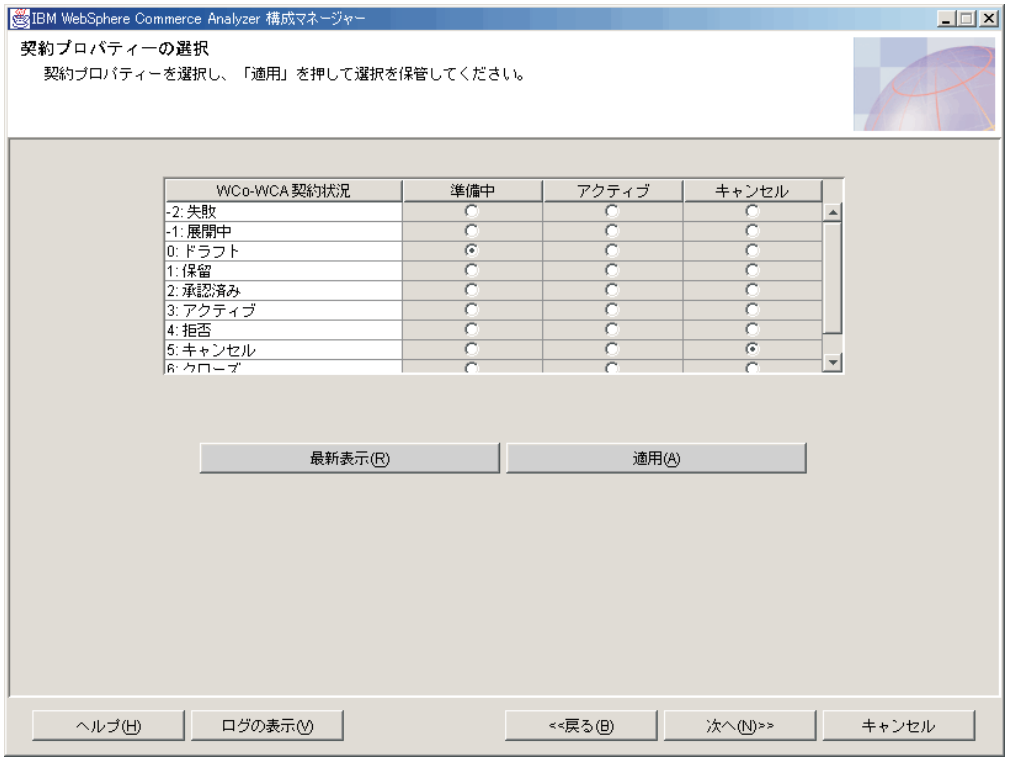

図 25. 「契約プロパティーの選択」ウィンドウ

1. 使用される「**WCo-WCA 契約状況**」列の各アイテムについて、「**準備中**」、「**アクティブ**」、または「**キャンセル**」列の対応するラジオ・ボタンをクリックします。

注:

a. 契約状況を使用しているにもかかわらず、「**準備中**」、「**アクティブ**」、または「**キャンセル**」列の選択が行われないと、レポートの情報が欠落する恐れがあります。

b. 選択した設定を使用しない場合、または間違った場合は、「**最新表示**」をクリックしてウィンドウに元の値を再ロードしてください。

2. 「**適用**」をクリックします。構成ステップが正常に完了したかどうかを示すメッセージが表示されます。
3. 構成ステップが正常に完了した場合は、「**次へ**」をクリックして「パラメーターの保守」ウィンドウ (65 ページの図 26) を表示します。 『パラメーターの操作』の手順に従ってください。

パラメーターの操作

この構成ステップでは、「WCA パラメーターの保守」ウィンドウ (65 ページの図 26) で特定の保守パネルを使用できないパラメーターの値を編集できます。リスト・ボックスからパラメーターを選択でき、対応する保守ビューが表示されます。単一値 (適用できる値が入ったテキスト入力フィールドまたはボックスが表示される) を持つパラメーターと、複数値 (テーブルが表示される) を持つパラメーターがあります。

リストにパラメーターを追加したい場合は、独自のパラメーターを組み込む方法について、「*IBM WebSphere Commerce Analyzer テクニカル・リファレンス*」を参照してください。

事前定義パラメーターだけではなく、「**パラメーター・タイプ**」フィールドにパラメーター・タイプを入力することにより特殊パラメーター値を検索できます。パラメーター・タイプが事前定義されておらず、パラメーター・テーブルにまだ存在しない場合は、そのパラメーター・タイプが挿入されます。

注: パラメーターはそれぞれ個別に取り扱われます。つまり、パラメーターの値に変更を加えたい場合は、別のパラメーター・タイプを選択する前に、その変更を適用する必要があります。これを行わないと、変更は破棄されます。

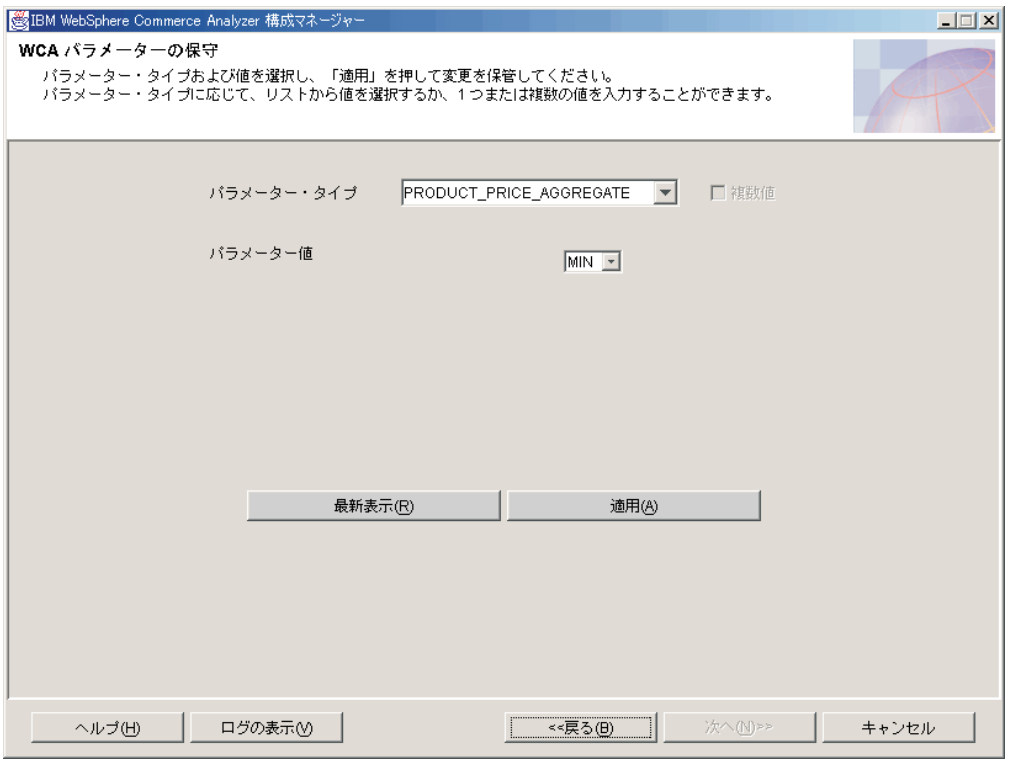

図 26. 「WCA パラメーターの保守」ウィンドウ

1. 「**パラメーター・タイプ**」リスト・ボックスからパラメーターを選択します。対応する値が、「パラメーター値」リスト・ボックスにリストされます。

   注: 選択したパラメーターに複数の値がある場合、すべての値がリスト・ボックスに表示され、追加ボタンがウィンドウに表示されます。

2. 必要な場合は、「**パラメーター値**」ボックスにリストされた値を変更します。

   注:

   a. 複数値または単一値を持つように、提供されたパラメーターを変更することはできません 。変更が可能なのは、特別なパラメーターだけです。
      - ユーザー定義パラメーターの値を複数値から単一値に変更するには、「**複数値**」チェック・ボックスを選択解除します。リスト・ボックスの先頭値が保管されて、その他は削除されます。
      - ユーザー定義パラメーターの値を単一値から複数値に変更するには、「**複数値**」チェック・ボックスを選択します。
      - 値を追加するには、「**追加**」をクリックして、値を入力します。
      - 値を削除するには、値を強調表示して「**削除**」をクリックします。

   b. 選択した設定を使用しない場合、または間違った場合は、「**最新表示**」をクリックしてウィンドウに元の値を再ロードしてください。

   注: 複数値または単一値を持つように、提供されたパラメーターを変更することはできません 。変更が可能なのは、特別なパラメーターだけです。

   - ユーザー定義パラメーターの値を複数値から単一値に変更するには、「**複数値**」チェック・ボックスを選択解除します。リスト・ボックスの先頭値が保管されて、その他は削除されます。

- ユーザー定義パラメーターの値を単一値から複数値に変更するには、「**複数値**」チェック・ボックスを選択します。
- 値を追加するには、「**追加**」をクリックして、値を入力します。
- 値を削除するには、値を強調表示して「**削除**」をクリックします。

注: 選択した設定を使用しない場合、または間違った場合は、「**最新表示**」をクリックしてウィンドウに元の値を再ロードしてください。

3. 「**適用**」をクリックします。構成ステップが正常に完了したかどうかを示すメッセージが表示されます。
4. 構成ステップが正常に完了した場合、WCA ビジネス・オプションの構成は終了しています。「**キャンセル**」をクリックして「IBM WebSphere Commerce Analyzer 構成マネージャー」ウィンドウ (27 ページの図 3) に戻ります。

構成マネージャーのヘルプおよびログの表示

構成ステップのいずれかでエラーが発生した場合は、エラー・メッセージが表示されます。ヘルプ情報を表示するには、「構成マネージャー」ウィンドウで「**ヘルプ**」をクリックするか、または Alt+H を押します。構成ログを表示するには、「構成マネージャー」ウィンドウで「**ログの表示**」をクリックするか、または Alt+V を押します。

構成の変更

構成を変更するには、再度構成マネージャーを実行するか、またはパラメーター・マネージャーを使用できます。構成マネージャーを再度実行する場合、すべての構成設定を変更できます。パラメーター・マネージャーは、ビジネス・オプション設定の変更をサポートしています。さらに、DMS 設定を表示することができます。変更を DMS 設定に適用すると、新しい値でスクリプトが作成されますが、それらの値はデータベースには適用されません。

構成マネージャーの再実行

構成マネージャーを開始するには、27 ページの『構成マネージャーの開始』を参照してください。

構成マネージャーの使用の説明については、29 ページの『構成ステップの完了』を参照してください。

パラメーター・マネージャーの開始

パラメーター・マネージャーを開始するには、以下のようにします。

1. WCA データマートの所有者としてログオンします。
2. Windows デスクトップで、**「スタート」->「プログラム」->「IBM WCA Edition」->「パラメーター・マネージャー (Parameter Manager)」**をクリックします。

   注: これは、WCA のインストール時にデフォルトの「スタート」メニューを受け入れた場合の手順です。別の名前を指定した場合は、選択する項目を適宜変更してください。

「IBM WebSphere Commerce Analyzer パラメーター・マネージャー」ウィンドウ(図 27) ウィンドウが開きます。

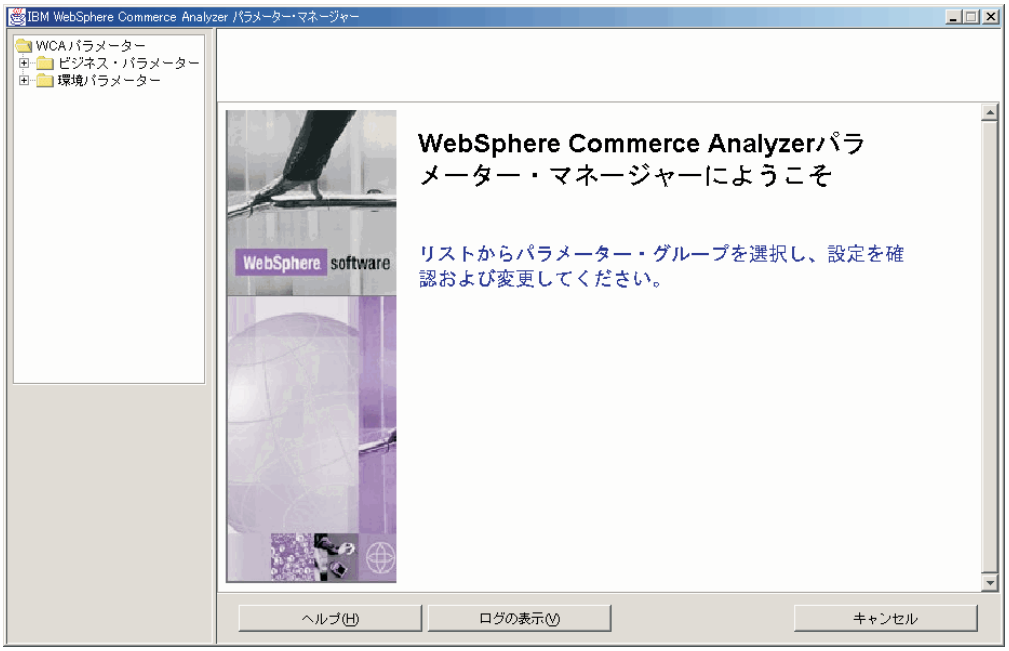

図 27. 「IBM WebSphere Commerce Analyzer パラメーター・マネージャー」ウィンドウ

パラメーター・マネージャーの使用

ウィンドウの左側で、「**ビジネス・パラメーター**」および「**環境パラメーター**」フォルダーを展開します。「ビジネス・パラメーター」フォルダー下の「ストア」をクリックすると、ウィンドウの右側が構成設定を表示するように変わります (68 ページの図 28)。

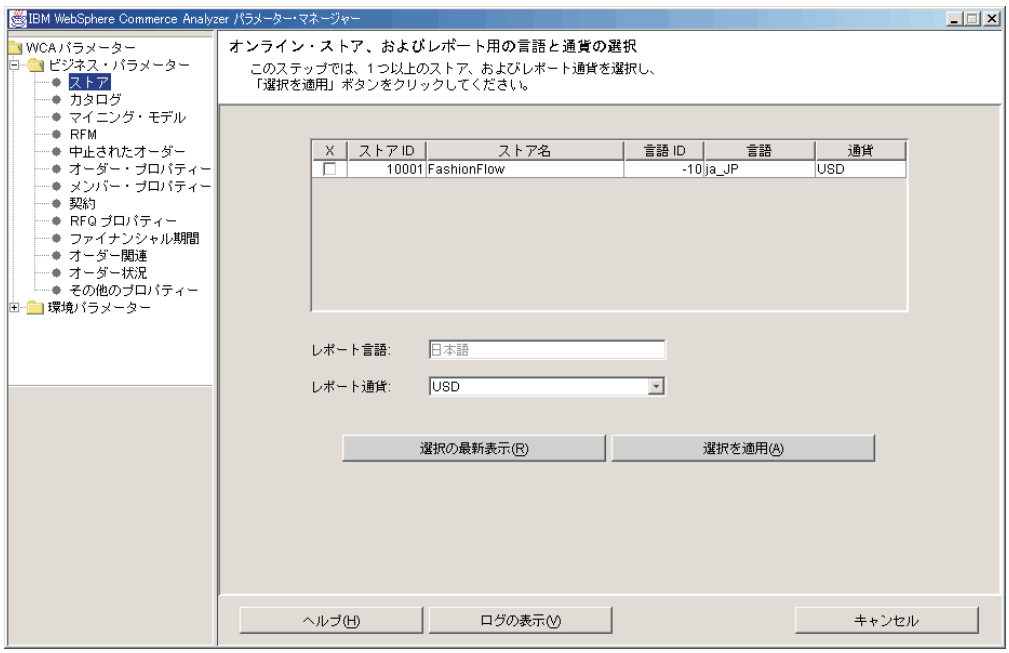

図 28. パラメーター・マネージャーの構成設定

29 ページの『WCA データベースの構成』および 43 ページの『WCA ビジネス・オプションの構成』にある、同様のウィンドウの手順に従ってください。

第 7 章 WebSphere Commerce サーバー上でのキャプチャー・プログラムのセットアップ

複製を実行するには、WebSphere Commerce サーバー上でキャプチャー・プログラムをセットアップする必要があります。キャプチャー・プログラムのセットアップに関する情報については、『キャプチャーの実行』を参照してください。

キャプチャー・プログラムの実行方法の詳細については、「*IBM DB2 Replication Guide and Reference*」を参照してください。 iSeries でのキャプチャー・プログラムの実行に関する情報については、71 ページの『iSeries プラットフォームでのキャプチャーの実行』を参照してください。

キャプチャーの実行

DB2 コマンド・プロセッサーを使用して、キャプチャー・プログラムを操作できます。

キャプチャーを開始する前に必要な作業

複製サービスをインストールする前に、WebSphere Commerce データベースで値を検査する必要があります。

DB2 プロンプトで、次のように入力します。

1. DB2 管理者ユーザー ID を使用して、WebSphere Commerce サーバーにログインします。
2. 次のコマンドを入力して WebSphere Commerce データベースに接続します。

   ```
   db2 connect to database_name user user_id using password
   ```

   説明
   - *database_name* は WebSphere Commerce データベースの名前です。
   - *user_id* はデータベース・ユーザーのユーザー ID です。
   - *password* は、このユーザーのパスワードです。パスワードは、大文字小文字を区別します。
3. データベースの構成をチェックします。次のコマンドを入力します。

   ```
   db2 get database configuration for database_name
   ```

   変数とそれに対応する値のリストが表示されます。
4. データベース構成変数 LOGRETAIN が RECOVERY に設定されていることを確認します。設定を変更するには、次のように入力してください。

   ```
   db2 update database configuration for database_name using LOGRETAIN RECOVERY
   ```

   重要: RECOVERY では、データベースのバックアップが必要です。詳細については、「*IBM DB2 UDB Replication Guide and Reference*」を参照してください。

© Copyright IBM Corp. 2000, 2003

キャプチャー・プログラムの開始

キャプチャー・プログラムを開始すると、停止するか回復不能なエラーが検出されるまで実行が継続されます。

1. NT 用の 1 つ以上の DB2 インスタンスを作成した場合、**SET** コマンドを使用して DB2INSTANCE 環境変数を、WebSphere Commerce データベースを所有し、キャプチャー・プログラムを実行するために使用したい DB2 インスタンスに設定します。次のコマンドを入力します。

   ```
   SET DB2INSTANCE=database_instance_name
   ```

   キャプチャー・プログラムの実行中、*<database_instance_name><database_name>*.CCP という名前のファイルが、キャプチャー・プログラムが開始されたディレクトリーに作成されます。このファイルは、キャプチャー・プログラムによって発行されたメッセージのログ・ファイルです。これらのメッセージは、トレース・テーブルにも記録されます。

注: 2 から 7 のステップは、キャプチャー・プログラムの初回の開始時にのみ必要です。これ以後にプログラムを開始するときは、ステップ 8 にスキップすることができます。

2. 複製センターを開きます。**「プログラムの開始 (Start Programs)」->「IBM DB2」->「汎用管理ツール (General Administration Tools)」->「複製センター (Replication Center)」**をクリックします。複製センター・ランチパッド (Replication Center Launchpad) が開いた場合は、これを閉じます。「複製センター (Replication Center)」ウィンドウが表示されます。
3. ウィンドウの左側で、「**複製定義 (Replication Definitions)**」を展開します。
4. 「**キャプチャー制御サーバー (Capture Control Servers)**」を右マウス・ボタンでクリックし、「**追加**」を選択します。「キャプチャー制御サーバーの追加 (Add Capture Control Servers)」ウィンドウが開きます。
5. 「**データベース別名**」列に **WCDATASOURCE** が見つかるまで、リスト・ボックスをスクロールダウンします。「**キャプチャー制御サーバー**」列で対応するチェック・ボックスを選択します。
6. 対応する「**ユーザー ID**」および「**パスワード**」列に、ユーザー ID とパスワードを入力します。
7. 「**OK**」をクリックします。「キャプチャー制御サーバーの追加 (Add Capture Control Servers)」ウィンドウが閉じます。
8. 「複製センター (Replication Center)」ウィンドウの左側で、「**操作 (Operations)**」を展開します。
9. 「**キャプチャー制御サーバー (Capture Control Servers)**」をクリックします。ウィンドウの右側にキャプチャー制御サーバーのリストが表示されます。
10. ウィンドウの右側で「**WCDATASOURCE**」を右マウス・ボタンでクリックし、「**キャプチャーの開始 (Start Capture)**」を選択します。「キャプチャーの開始 (Start Capture)」ウィンドウが開きます。
11. キャプチャー・ログおよび作業ファイルの場所を入力します。

    注: 400 キャプチャー・プログラムが OS/400 上で実行されている場合、このステップは適用されません。

- キャプチャー・ログと作業ファイルが AIX または Solaris プラットフォーム上にある場合は、 *location*/log と入力します。
- キャプチャー・ログと作業ファイルが Windows プラットフォーム上にある場合は、*location*¥log と入力します。

location は、ファイルを置くローカル・マシン上の場所です。

12. AIX Windows 「KEYWORD」列で「STARTMODE」を選択します。「開始のタイプ (Type of start)」フィールドでは「COLD」を選択します。 400 「KEYWORD」列で「RESTART」を選択します。**「開始のタイプ (Type of start)」**フィールドでは「NO」を選択します。
13. 「**OK**」をクリックします。「実行またはコマンド保存 (Run Now or Save Command)」ウィンドウが表示されます。
14. **「実行 (Run now)」**を選択します。「**OK**」をクリックします。
15. キャプチャー・プログラムが実行されていることを確認します。
    - キャプチャー・プログラムが AIX プラットフォームで実行されることが想定される場合は、ps -ef | grep *username* と入力します。キャプチャー・プログラムが実行されている場合は、**asncap** がリストされます。
    - キャプチャー・プログラムが Windows プラットフォームで実行されることが想定される場合は、以下を行います。
      a. タスクバー内の何もないスペースを右マウス・ボタンでクリックし、「**タスク マネージャ**」を選択します。「Windows タスク マネージャ」ウィンドウが開きます。
      b. 「**プロセス**」タブをクリックします。キャプチャー・プログラムが実行されている場合は、**asncap.exe** が「**イメージ名**」列にリストされます。

キャプチャー・プログラムの停止

1. 複製センターを開きます。**「プログラムの開始 (Start Programs)」->「IBM DB2」->「汎用管理ツール (General Administration Tools)」->「複製センター (Replication Center)」**をクリックします。「複製センター (Replication Center)」ウィンドウが表示されます。
2. 「複製センター (Replication Center)」ウィンドウの左側で、「**操作 (Operations)**」を展開します。
3. 「**キャプチャー制御サーバー (Capture Control Servers)**」をクリックします。ウィンドウの右側にキャプチャー制御サーバーのリストが表示されます。
4. ウィンドウの右側で「**WCDATASOURCE**」を右マウス・ボタンでクリックし、「**キャプチャーの停止 (Stop Capture)**」を選択します。

iSeries プラットフォームでのキャプチャーの実行

注: iSeries プラットフォーム上でキャプチャー・プログラムを実行する前に、23 ページの『iSeries 上に複製を構成する前に』の指示に従ってください。

iSeries プロンプトで、次のように入力します。

```
STRDPRCAP
```

F4 キーでプロンプトします。

iSeries でのキャプチャー・プログラムの実行については詳しくは、「*IBM DB2レプリケーションのガイドおよびリファレンス バージョン 8 (SC88-9163)*」の第 3 章を参照してください。

iSeries プラットフォームでのキャプチャーの停止

キャプチャー・プログラムを終了するには、「DPR キャプチャーの終了 (**ENDDPRCAP**)」コマンドを使用します。

このコマンドは、システムをシャットダウンする前にキャプチャー・プログラムを終了するとき使用します。また、システム使用率のピーク時には、システムで実行している他のプログラムのパフォーマンスを向上させるために、このプログラムを終了する必要があります。

キャプチャー・プログラムを停止するには、iSeries プロンプトで次のように入力します。

```
ENDDPRCAP
```

F4 キーでプロンプトします。

第 8 章 構成後

WCA サーバーを構成し、WebSphere Commerce サーバーに必要な更新を実行した後に、以下のチェックリストのタスクを実行する必要があります。

__ 1. データ・マイニングを実行する場合、データ・マイニング・モデルのトレーニングとデータ・マイニング・モデルの適用の実行について、「*IBM WebSphere Commerce Analyzer バージョン 5.5 テクニカル・リファレンス*」を参照してください。データ･マイニングを実行するときには、複製と抽出が 2 回以上実行されていることを確認してください。

__ 2. 複製および抽出を初めて実行します。手順については、 74 ページの『複製と抽出の実行』を参照してください。

注: 複製と抽出を 2 回実行するまで、WCA データマート･テーブルにデータは挿入されていないため、初期複製および抽出の直後に出力されたほとんどのレポートにはデータはありません。また、複製と抽出を 2 回実行するまで、データ･マイニングも無効です。したがって、次の手順を実行します。

a. 複製および抽出を一度実行します。

b. 複製と抽出を実行するようスケジュールします。

計画複製および抽出の実行後に出力されたレポートにはデータが入っています。

__ 3. WebSphere Commerce Accelerator を使用して WebSphere Commerce Analyzer データマートに対してレポートする WebSphere Commerce マシンでのデータ・ソースのセットアップに関する指示については、「追加ソフトウェア・ガイド」を参照してください。

__ 4. 複製と抽出を定期的に実行するようスケジュールします。手順については、74 ページの『複製と抽出のスケジューリング』を参照してください。

__ 5. テーブル統計が最新データを保つよう、RUNSTATS コマンドが定期的に実行されるようにスケジュールします。手順については、 75 ページの『最新のテーブル統計の保持』を参照してください。

__ 6. Professional Business DB2 Intelligent Miner for Data で、データ・マイニング・サンプリング・レートを確認します。サンプリング・レートの設定が高すぎる場合は、Intelligent Miner for Data の「確率標本の取得 (Get Random Sample)」機能を使用してレートを下げます。手順については、 76 ページの『サンプリング・レートの削減』を参照してください。

© Copyright IBM Corp. 2000, 2003

複製と抽出の実行

重要: DB2 システム上で複製を実行する前に、WebSphere Commerce サーバー上で asncap プログラムが実行されていることを確認してください。詳しくは、 69 ページの『第 7 章 WebSphere Commerce サーバー上でのキャプチャー・プログラムのセットアップ』を参照してください。Oracle データベースを使用する場合は、キャプチャー・プログラムが使用不可であることに注意してください。

複製と抽出を実行するには、次のようにします。

1. 「データウェアハウス・センター (Data Warehouse Center)」で、**「ウェアハウス」-> 「進行中の作業 (Work in Progress)」**をクリックします。
2. 「進行中の作業 (Work in Progress)」ウィンドウで、**「進行中の作業 (Work in Progress)」->「新規ステップの実行 (Run New Step)」**をクリックします。
3. 「**ステップ名 (Step Name)**」をクリックして名前ごとにステップをソートします。
4. 「新規ステップの実行 (Run New Step)」ウィンドウの「**使用可能なステップ (Available Steps)**」列で、「**1. 最初の複製ステップ (First Replication Step)**」を選択します。「**>**」をクリックして、この項目を「選択ステップ (Selected Steps)」列に追加します。
5. 「**OK**」をクリックします。

   複製と抽出が実行されます。

複製と抽出のスケジューリング

複製と抽出の最初の実行時には、既存のすべてのデータの複製と抽出が行われます。以後の実行では、新規データのみの複製と抽出が行われます。複製および抽出プロセスを任意の頻度で実行するようスケジュールすることができますが、 1 日当たり 1 回を超えることはできません。

重要: 複製を実行する前に、WebSphere Commerce サーバー上で asncap プログラムが実行されていることを確認してください。詳しくは、 69 ページの『第 7 章 WebSphere Commerce サーバー上でのキャプチャー・プログラムのセットアップ』を参照してください。

複製と抽出をスケジュールするには、次のようにします。

1. まだログインしていない場合は、ウェアハウス・センターにログインします。手順については、 84 ページの『DB2 データウェアハウス・センターへのログイン』を参照してください。
2. 「データウェアハウス・センター (Data Warehouse Center)」ウィンドウの左側で、**「サブジェクト・エリア (Subject Areas)」-> 「拡張開始および終了 (Advanced Start and End)」->「プロセス (Processes)」**と展開します。
3. 「**プロセス (Processes)**」の下で、「**抽出の開始 (Start Extraction)**」を選択します。
4. 「**1. 抽出の開始 (1. Start Extraction)**」が開発モードでない場合は、ウィンドウの右側で開発モードに移します。

5. 右マウス・ボタンをクリックして、表示されたウィンドウ内の「**スケジュール**」を選択します。
6. 「スケジュール - 1. 抽出の開始 (Schedule - 1. Start Extraction)」ウィンドウで、希望の時間にプロセスが実行されるようにスケジュールするために必要なフィールドに情報を入力します。

   注: 1 日に一度を超える頻度でプロセスを実行するようなスケジュールはしないでください。
7. フィールドが完成したら、「**追加**」をクリックします。
8. 「**OK**」をクリックします。
9. **「1. 抽出の開始 (Start Extraction)」**を実働モードに戻します。

最新のテーブル統計の保持

テーブルについての統計は、期間が経過すると、基礎テーブルに対して多くの追加、削除、および更新が実行されるため、無効になる可能性があります。これにより、照会応答時間の低下が生じることがあります。テーブル統計を最新に保つために、定期的に 2 つのコマンドが実行されるようにスケジュールする必要があります。コマンドは次のとおりです。

- ODS RUNSTATS

  このコマンドを実行すると、最適化プログラムが WCA スキーマ・テーブルの初期集団に到達したとき、最適な統計を保持します。
- WCA RUNSTATS

  このコマンドを実行すると、最適化プログラムは WCA スキーマ・テーブルの最適な統計を保持して、システムに対するレポートの実行および効率的な計算の実行を援助します。

コマンドの実行をスケジュールするには、次のようにします。

1. まだログインしていない場合は、ウェアハウス・センターにログインします。手順については、 84 ページの『DB2 データウェアハウス・センターへのログイン』を参照してください。
2. 「データウェアハウス・センター (Data Warehouse Center)」ウィンドウの左側で、**「サブジェクト・エリア (Subject Areas)」-> 「パフォーマンス (Performance)」-> 「プロセス (Processes)」**と展開します。
3. 「**プロセス (Processes)**」の下で、「**ODS runstats**」を右マウス・ボタン・クリックして「**スケジュール**」を選択します。
4. 「スケジュール - ODS runstats (Schedule - ODS runstats)」ウィンドウで、コマンドの実行をスケジュールするために必要なフィールドへの入力を行います。
5. フィールドが完成したら、「**追加**」をクリックします。
6. 「**OK**」をクリックします。
7. 「**プロセス (Processes)**」の下で、「**WCA runstats** 」を右マウス・ボタン・クリックして「**スケジュール**」を選択します。
8. 「スケジュール - WCA runstats (Schedule - WCA runstats)」ウィンドウで、コマンドの実行をスケジュールするために必要なフィールドへの入力を行います。

9. フィールドが完成したら、「**追加**」をクリックします。
10. 「**OK**」をクリックします。

手動による RUNSTATS コマンドの実行

次の手順に従って ODS RUNSTATS または WCA RUNSTATS を実行してから、それらをスケジュールします。

1. ウェアハウス・センターにログインします。手順については、84 ページの『DB2 データウェアハウス・センターへのログイン』を参照してください。
2. 「データウェアハウス・センター (Data Warehouse Center)」ウィンドウの左側で、**「サブジェクト・エリア (Subject Areas)」-> 「パフォーマンス (Performance)」->「プロセス (Processes)」**と展開します。
3. 「**プロセス (Processes)**」の下の「**ODS runstats**」または「**WCA runstats**」をダブルクリックして手動でコマンドを実行します。

サンプリング・レートの削減

Professional Business サンプリング・レートを削減するには、Intelligent Miner for Data の「確率標本の取得 (Get Random Sample)」機能を使用します。この機能を使用して、サンプル・サイズを入力データのパーセンテージとして指定して入力データをより小さいサンプルにします。出力データには入力データと同じフィールドが含まれますが、レコード数は少なくなります。

1. Professional Business Intelligent Miner for Data にログオンします。
2. 「**処理 (Processing)**」を展開し、「**確率標本の取得 (Get Random Sample)**」を選択します。ウィンドウの右側にパラメーターが表示されます。
3. パラメーターをダブルクリックします。パラメーターごとのサンプリング・レートを示すウィンドウが開きます。
4. サンプリング・レートを変更する場合は、「**サンプル・パーセンテージ (Sample Percentage)**」フィールドに新しい値を入力します。
5. 「**適用**」をクリックします。
6. 「**OK**」をクリックします。
7. リストされたパラメーターごとに繰り返します。

この機能について詳しくは、Intelligent Miner for Data の資料を参照してください。

第 9 章 WCA の除去

WCA をアンインストールすると、WCA によってインストールされたソフトウェアもすべてアンインストールされます。たとえば、WCA インストール・プログラムによって DB2 がインストールされた場合、 WCA をアンインストールすると DB2 はアンインストールされます。ただし、WCA のインストール時に DB2 がすでにコンピューターにインストールされていた場合は、 WCA をアンインストールしても、DB2 はそのコンピューター上に残っています。

WCA データベースを保持する必要がなくなった場合は、次のようにします。

1. ウェアハウス･サービスを中止します。
2. WCA データマートを除去します。
3. ウェアハウス・センター - コントロール・データベースを除去します。
4. WebSphere Commerce データベースをアンカタログします。
5. ODBC 名を次のように除去します。
   a. **「スタート」->「設定」-> 「コントロール パネル」->「管理ツール」->「データ ソース (ODBC)」**をクリックします。
   b. 「ODBC データ ソース アドミニストレータ」ノートブックで、「**システム DSN**」タブをクリックします。
   c. WCA データマート、ウェアハウス・センター - コントロール・データベース、および WebSphere Commerce データベースの名前など、WCA で使用した ODBC 名をすべて除去します。

アンインストール時には、WCA インストール・ディレクトリーの以下のサブディレクトリー内のファイルが除去されます。 (デフォルトでは、このインストール・ディレクトリーは、
C:¥Program Files¥IBM¥IBM WebSphere Commerce Analyzer Edition です。)

- bin
- deinst
- doc
- license
- jre
- lib
- samples
- udf

これらのサブディレクトリーにファイルをすでに保管しているかまたはその他の製品をインストールしている場合、 WCA をアンインストールする前に、必ずこれらを別の場所に保管してください。

WCA をアンインストールするには、次のようにします。

1. WCA サーバーの Windows 2000 デスクトップで、**「スタート」->「設定」-> 「コントロール パネル」**をクリックします。

© Copyright IBM Corp. 2000, 2003

2. 「コントロール パネル」ウィンドウの「**アプリケーションの追加と削除**」をダブルクリックします。
3. 「アプリケーションの追加と削除」ウィンドウで、リスト内の「**IBM WebSphere Commerce Analyzer 版**」をクリックし、「**変更 / 削除**」をクリックします。
4. パネル上の指示に従って、WCA をアンインストールします。

ご使用のシステムに特有のデータが入っている WCA インストール・ディレクトリーおよびそのサブディレクトリーを保持する必要がなくなった場合、これらを除去できます。

WCA のアンインストール後の作業

WCA をアンインストールした後に、次の手順に従って、WCA 用に準備する前の状態に WebSphere Commerce サーバーを戻します。

キャプチャー・プログラムの停止

キャプチャー・プログラムを停止するには、WebSphere Commerce サーバーのオペレーティング・システム用のコマンドを使用します。

Windows、AIX、または Solaris の場合:

コマンド・プロンプトで `asnccmd CAPTURE_SERVER=`*`commerce_database`* `STOP` と入力します。

ここで、*commerce_database* は WebSphere Commerce サーバー上のデータベースの名前です。

iSeries の場合:

`ENDDPRCAP` と入力します。

キャプチャー・プログラムを停止した後、DB2 ウェアハウス・コントロール・センターによって CD テーブルと IBMSNAP テーブルを除去できます。

注: Oracle で WebSphere Commerce を使用している場合、複製管理ツールを使用して CD テーブルおよびトリガーを除去する必要があります。複製管理ツールがインストールされている Windows システムでは、以下を行ってください。

1. **「スタート」->「プログラム」->「IBM Information Integrator」->「複製 (Replication)」->「複製管理ツール (Replication Administration Tools)」**の順に選択します。
2. 「**複製セットアップ (Replication Setup)**」タブをクリックします。
3. 「**複製ソースの除去 (Remove Replication Sources)**」をクリックします。
4. 該当するソース・サーバーの横にあるボックスをクリックします。
5. WebSphere Commerce テーブルの DB2 所有者名 (ASN.IBMSNAP_REGISTER テーブルの SOURCE_OWNER フィールドに定義) を「**ソース・テーブル修飾子 (Source Table qualifier)**」フィールドに入力します。すべて大文字で入力してください。
6. 「**SQL の生成 (Generate SQL)**」をクリックしてください。

7. 生成されたファイルで、見つかったストリング: `DROP NICKNAME "SOURCE_OWNER"` を、すべてストリング: `DROP NICKNAME "REPL"` で置き換えます。
8. スクリプトを保管し、実行します。
9. 出力ファイルをクローズします。必要であれば、保管しておくことができます。
10. 複製管理ツールで「**複製制御テーブルの除去 (Remove Replication Control Tables)**」をクリックします。
11. 「**ソース、制御、またはターゲット・サーバー (Source, control, or target server)**」の横にあるプルダウン・リストから DataJoiner® データベース名を選択します。
12. 「**Information Integrator 非 IBM ソース・サーバー (Information Integrator non-IBM source server)**」にあるリストから Oracle ソース名を選択します。
13. 「**SQL の生成 (Generate SQL)**」をクリックしてください。
14. SQL スクリプトを保管し、実行します。
15. 出力ファイルをクローズします。必要であれば、保管しておくことができます。

付録 A. デフォルト・パラメーター

この付録の各表では、WCA データベースの作成時に使用されるパラメーター値を示します。通常 DB2 が使用するデフォルトとは異なるパラメーターのみ示します。パラメーターについての詳細は、DB2 情報センターが提供する「*管理の手引き*」を参照してください。

WCA データマート・パラメーター

以下の表は、WCA データマートの構成パラメーター値を示しています。それらの値が最新のパラメーター値であることを確認するには、ファイル %IWDA_DIR%¥bin¥db2¥DbConfig.BAT を調べてください。

表 3. WCA データマート構成パラメーター値

パラメーター	変数名	使用する値
アプリケーション制御ヒープ・サイズ	APP_CTL_HEAP_SZ	2048
アプリケーション・ヒープ・サイズ	APPLHEAPSZ	2048
バッファー・プール・サイズ	BUFFPAGE	4106
カタログ・キャッシュ・サイズ	CATALOGCACHE_SZ	938
変更ページしきい値	CHNGPGS_THRESH	40
データベース・ヒープ	DBHEAP	2048
ロック・リストの最大ストレージ	LOCKLIST	175
ログ・バッファー・サイズ	LOGBUFSZ	16
ログ・ファイルのサイズ	LOGFILSIZ	4000
1 次ログ・ファイルの数	LOGPRIMARY	20
2 次ログ・ファイルの数	LOGSECOND	100
アクティブ・アプリケーションの最大数	MAXAPPLS	96
自動調整前のロック・リストの最大パーセント	MAXLOCKS	8
グループへのコミット数	MINCOMMIT	1
非同期ページ・クリーナーの数	NUM_IOCLEANERS	1
入出力サーバーの数	NUM_IOSERVERS	44
パッケージ・キャッシュ・サイズ	PCKCACHESZ	768
リカバリー範囲およびソフト・チェックポイント間隔	SOFTMAX	100
ソート・ヒープ・サイズ	SORTHEAP	2048
ステートメント・ヒープ・サイズ	STMTHEAP	9216
デフォルト次数	DFT_DEGREE	ANY
デフォルト・プリフェッチ・サイズ	DFT_PREFETCH_SZ	64

© Copyright IBM Corp. 2000, 2003

表 3. WCA データマート構成パラメーター値 (続き)

パラメーター	変数名	使用する値
ユーティリティー・ヒープ・サイズ	UTIL_HEAP_SZ	6891

WCA ウェアハウス・センター - コントロール・データベース・パラメーター

以下の表は、WCA ウェアハウス・センター - コントロール・データベースの構成パラメーター値を示しています。それらの値が最新のパラメーター値であることを確認するには、ファイル %IWDA_DIR%¥bin¥db2¥ctrlConfig.bat を調べてください。

表 4. ウェアハウス・センター - コントロール・データベース構成パラメーター値

パラメーター	変数名	使用する値
アプリケーション制御ヒープ・サイズ	APP_CTL_HEAP_SZ	2048
アプリケーション・ヒープ・サイズ	APPLHEAPSZ	2048
バッファー・プール・サイズ	BUFFPAGE	512
データベース・ヒープ	DBHEAP	2048
ログ・バッファー・サイズ	LOGBUFSZ	16
ログ・ファイルのサイズ	LOGFILSIZ	1000
1 次ログ・ファイルの数	LOGPRIMARY	5
2 次ログ・ファイルの数	LOGSECOND	115
ソート・ヒープ・サイズ	SORTHEAP	2048

付録 B. 構成タスクの詳細

この付録には、実行する必要があると思われる構成タスクの詳細があります。

DMS テーブル・サイズの拡張

DMS テーブルのサイズを拡張するには、ALTER TABLESPACE コマンドを使用してコンテナーを追加します。このコマンドにより、追加のコンテナーをテーブル・スペースに追加することができます。コンテナーは、NT のファイル、ロー・デバイス、論理ボリューム、または区画のいずれでも構いません。新しいコンテナーが追加された後、データはすべてのコンテナーに再平衡化されます。再平衡化中もデータにアクセスできます。

テーブル・スペース・サイズの決定については、99 ページの『テーブル・スペース・サイズの要件のトラブルシューティング』を参照してください。

ウェアハウス・センター - コントロール・データベースの初期化

ウェアハウス・センター - コントロール・データベースを初期化するには、次のようにします。

1. デスクトップから、**「スタート」->「プログラム」-> 「ツールのセットアップ (Set-up Tools)」-> 「IBM DB2」-> 「ウェアハウス・コントロール・データベース管理 (Warehouse Control Database Management)」**をクリックします。
2. 「データウェアハウス・センター - コントロール・データベース管理 (Data Warehouse Center - Control Database Management)」ウィンドウで、以下のフィールドを完成します (フィールドに正しい情報が含まれていない場合)。

   新規コントロール・データベース (New Control Database)
   「DB2 ウェアハウス・センター - コントロール・データベースの構成」ウィンドウ (39 ページの図 9) での構成時に入力したウェアハウス・センター - コントロール・データベースの名前を入力します。

   ユーザー ID
   「DB2 ウェアハウス・センター - コントロール・データベースの構成」ウィンドウ (39 ページの図 9) での構成時に入力した管理者ユーザー ID を入力します。

   パスワード
   ユーザー ID のパスワードを入力します。

   パスワードの確認 (Verify password)
   確認のため、パスワードをもう一度入力します。

   注: 最初は、デフォルトのユーザー ID (**ctrluser**) およびパスワード (**ctrluser**) を使用する必要があります。デフォルトのユーザー ID およびパスワードを変更するには、次のようにします。

© Copyright IBM Corp. 2000, 2003

a. 「データウェアハウス・センター (Data Warehouse Center)」ウィンドウの左側で、**「管理 (Administration)」->「ウェアハウス・ユーザーおよびグループ (Warehouse Users and Groups)」**を展開します。

b. 「**ウェアハウス・ユーザー (Warehouse Users)**」をクリックします。

c. ウィンドウの右側で、「**デフォルト DWC ユーザー (Default DWC User)**」を右マウス・ボタン・クリックし、「**プロパティー (Properties)**」を選択します。

d. 「DB2 ウェアハウス・センター - コントロール・データベースの構成」ウィンドウ (39 ページの図 9) で使用した値を反映するように、ユーザー ID とパスワードを変更します。

e. 「**OK**」をクリックします。

3. プロセスが完了したら、ウェアハウス・センター・データベース管理ツール (Warehouse Center Database Management tool) をクローズします。

DB2 データウェアハウス・センターへのログイン

ウェアハウス・センターにログインするには、次のようにします。

1. DB2 コントロール・センターをオープンします。デスクトップから、**「スタート」->「プログラム」-> 「IBM DB2」-> 「ビジネス・インテリジェンス・ツール (Business Intelligence Tools)」-> 「データウェアハウス・センター (Data Warehouse Center)」**をクリックします。
2. 「データウェアハウス・センター・ログオン (Data Warehouse Center Logon)」ウィンドウで「**拡張 (Advanced)**」をクリックします。
3. 「**コントロール・データベース (Control database)**」フィールドに、構成中に作成したウェアハウス・センター - コントロール・データベースの名前を入力します (38 ページの『DB2 ウェアハウス・センター・コントロール・データベースの構成』を参照)。
4. 「**OK**」をクリックします。
5. 「データウェアハウス・センター・ログオン (Data Warehouse Center Logon)」ウィンドウで、デフォルトの DB2 ユーザー ID およびパスワードを入力します。「**OK**」をクリックします。

   注: 最初は、デフォルトのユーザー ID (**ctrluser**) およびパスワード (**ctrluser**) を使用する必要があります。デフォルトのユーザー ID およびパスワードを変更するには、次のようにします。

   a. 「データウェアハウス・センター (Data Warehouse Center)」ウィンドウの左側で、**「管理 (Administration)」->「ウェアハウス・ユーザーおよびグループ (Warehouse Users and Groups)」**を展開します。

   b. 「**ウェアハウス・ユーザー (Warehouse Users)**」をクリックします。

   c. ウィンドウの右側で、「**デフォルト DWC ユーザー (Default DWC User)**」を右マウス・ボタン・クリックし、「**プロパティー (Properties)**」を選択します。

   d. 「DB2 ウェアハウス・センター - コントロール・データベースの構成」ウィンドウ (39 ページの図 9) で使用した値を反映するように、ユーザー ID とパスワードを変更します。

e. 「**OK**」をクリックします。

ウェアハウス・ソースおよびターゲット中の情報の更新

ウェアハウス・センター - コントロール・データベースの情報を変更するには、次のようにします。

1. WCA サーバー上では、「データウェアハウス・センター (Data Warehouse Center)」で、「**ウェアハウス・ソース (Warehouse Sources)**」の下の「**ウェアハウス・コントロール・データベース (Warehouse Control Database)**」を右マウス・ボタン・クリックし、「**プロパティー (Properties)**」を選択します。
2. 「プロパティー (Properties)」ウィンドウで、次のようにします。
   a. 「**データベース (Database)**」タブをクリックします。
   b. 以下のフィールドを完成します。

      データベース名
      構成時に指定したウェアハウス・センター - コントロール・データベースの名前を入力します。

      ユーザー ID
      構成時に指定した管理者のユーザー ID を入力します。

      パスワード
      ユーザー ID のパスワードを入力します。

      パスワードの確認 (Verify password)
      確認のため、パスワードをもう一度入力します。

      システム名 (System name)
      デフォルトを受け入れるか、WebSphere Commerce Analyzer Server の完全修飾ホスト名を入力します。

ウェアハウス・ソース中の情報を変更するには、次のようにします。

1. WCA サーバー上では、「データウェアハウス・センター (Data Warehouse Center)」で、「**ウェアハウス・ソース (Warehouse Sources)**」を展開します。
2. 「**WebSphere Commerce**」を右マウス・ボタン・クリックして「**プロパティー (Properties)**」を選択します。
3. 「プロパティー - WebSphere Commerce (Properties - WebSphere Commerce)」ウィンドウで、「**データベース**」タブをクリックします。
4. 以下のフィールドを検査して、正しい情報が含まれていることを確認します。

   データベース名
   WCA サーバー上の WebSphere Commerce データベースの DB2 カタログ名

   ユーザー ID
   WebSphere Commerce サーバー上の有効なデータベース・ユーザーのユーザー ID

   パスワード
   WebSphere Commerce サーバー上の有効なデータベース・ユーザーのパスワード

システム名 (System name)
デフォルトを受け入れるか、WebSphere Commercer Server の完全修飾ホスト名を入力します。

これらのフィールドに正しい情報が含まれていない場合は、変更を加えます。

ウェアハウス・ターゲット中の情報を変更するには、次のようにします。

1. WCA サーバー上では、「データウェアハウス・センター (Data Warehouse Center)」で、「**ウェアハウス・ターゲット (Warehouse targets)**」を展開します。
2. 「**Advanced ターゲット・テーブル (Advanced Target Tables)**」を右マウス・ボタン・クリックして、「**プロパティー (Properties)**」を選択します。
3. 「プロパティー - Advanced ターゲット・テーブル (Properties - Advanced Target Tables)」ウィンドウで、「**データベース (Database)**」タブをクリックします。
4. 「**システム名 (System name)**」フィールドで、WCA サーバーのシステム名を選択します。
5. 「**データベース名 (Database name)**」、「**ユーザー ID (User ID)**」、および「**パスワード (Password)**」フィールドを検査します。 WCA サーバーに関する正しい情報がこれらのフィールドに含まれていない場合は、変更を加えます。
6. リストされたレポート・アプリケーションごとにこの処理を繰り返します。

WebSphere Commerce テーブルのスキーマ名の変更

構成時に「高速ロード」オプションを選択したときに、WebSphere Commerce データベースのスキーマ名が `wcsadmin` ではない場合、以下の手順に従ってソース・テーブルのスキーマ名を変更します。

1. WCA サーバー上では、「データウェアハウス・センター」で、**「ウェアハウス・ソース (Warehouse Sources)」-> 「WebSphere Commerce」**を展開します。
2. 「**テーブル (Tables)**」をクリックします。テーブルのリストが表示されます。
3. IBMSNAP テーブル以外のそれぞれのテーブルごとに次の手順を実行します。
   a. テーブルを右マウス・ボタン・クリックして、「**プロパティー (Properties)**」を選択します。
   b. 「**テーブル・スキーマ (Table schema)**」フィールドに、WebSphere Commerce データベースのスキーマ名を入力します。 (最初のテーブルのスキーマ名を変更した後、その名前は、「**テーブル・スキーマ (Table schema)**」フィールドのドロップダウン・リストに表示され、その名前を選択することができます。)

複製ステップでの情報の更新

注: 先に複製ステップのプロモートが済んでおり、 WCA を再構成してからステップの再度プロモートを試みる場合、 WebSphere Commerce データベースにすでにサブスクリプションが存在している可能性があります。プロモートを実行する前に、次の SQL コマンドを実行してください。

```
db2 connect to mall
db2 delete from asn.ibmsnap_prune_set
```

mall は、カタログされた WebSphere Commerce データベースです。先にステップのプロモートを試みてエラーが生じた場合は、上記の SQL コマンドを実行してから、ステップを再プロモートします。引き続きエラーが生じる場合は、次のステップを実行します。

「高速ロード」を使用し、データマート名、データマート・ユーザー、またはデータマート・パスワードにデフォルト以外の値を使用した場合は、すべての複製ステップで次の手順を完了する必要があります。

1. データウェアハウス・センターにログインします。
2. 「**サブジェクト・エリア (Subject Areas)**」フォルダーを右マウス・ボタンでクリックして、「**検索 (Locate)**」を選択します。
3. 「検索 - サブジェクト・エリア (Locate - Subject Area)」ウィンドウで、「**検索 (Locate)**」タブをクリックします。
4. 列「名前 (Name)」を持つ行を見つけ出して、「**値 (Value)**」列に `R WCS%` と入力します。
5. 「**OK**」をクリックします。「検索結果 - ステップ (Locate Result - Steps)」ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、複製に関するすべてのステップがあります。
6. 最初の行を右マウス・ボタンでクリックし、「**プロパティー (Properties)**」を選択します。「プロパティー - WCS アドレス (Properties - WCS address)」ウィンドウが表示されます。
7. 「**処理オプション (Processing Options)**」タブをクリックします。
8. 「**処理オプション (Processing Options)**」タブには「**複製オプション (Replication Options)**」というボックスがあります。以下のフィールドを確認します。

   複製コントロール・データベース (Replication control database)
   高速ロードを使用した場合、このフィールドには「`wcamart`」と表示されます。カスタム・ロードを使用した場合、このフィールドには、WCA 構成プログラムの「**WebSphere Commerce データベース・アクセスの構成**」ステップで選択したデータベースの名前が表示されます。これが WebSphere Commerce Analyzer 構成プログラムの「 **WebSphere Commerce データベース・アクセスの構成**」ステップで選択したデータベースの名前と異なる場合は、すべての複製ステップでこの名前を変更します。

   データベース・タイプ
   このフィールドは WebSphere Commerce Analyzer 環境では使用されません。このフィールドには常に「`DB2 UDB for Windows NT`」と表示されます。

   ユーザー ID
   高速ロードを使用した場合、このフィールドには「`martuser`」と表示されます。カスタム・ロードを使用した場合、このフィールドには、WebSphere Commerce Analyzer データベースを所有しているユーザーの

名前が表示されます。これが WebSphere Commerce Analyzer データベースを所有しているユーザー名と異なる場合は、すべての複製ステップでこの名前を変更します。

「パスワード」と「パスワードの確認 (Verify Password)」
高速ロードを使用した場合、このフィールドには「`martuser`」と表示されます。カスタム・ロードを使用した場合、このフィールドには、WebSphere Commerce Analyzer 構成プログラムの「**WebSphere Commerce データベース・アクセスの構成**」ステップで入力したパスワードが表示されます。高速ロードを使用した場合で、パスワードが `martuser` ではない場合、すべての複製ステップでこのパスワードを変更します。

このタブにある他の情報は変更しないでください。

付録 C. 構成エラー・メッセージ

この付録では、構成マネージャーの実行時に発生する可能性のあるエラー・メッセージの解決方法を示します。

WebSphere Commerce データベース・アクセスの構成エラー・メッセージ

「WebSphere Commerce データベース・アクセスの構成」構成ステップでは、以下のエラー・メッセージが表示されることがあります。

- `IWD2002E: WebSphere Commerce Server` データベース接続が機能していません。

  「**接続**」をクリックした後にこのメッセージが表示される場合は、WebSphere Commerce データベースへの接続が正常に行われていません。原因として、次のことが考えられます。

  – 一部のフィールドに誤りがある。スペルが正しいかどうかをチェックし、パスワードなどの大文字小文字の区別があるパラメーターが正しく入力されていることを確認します。

  – ユーザー ID やパスワードなど、WebSphere Commerce データベース・パラメーターが変更されている。

  – 現在、WebSphere Commerce データベースへのアクセス権を持っていない。

96 ページの『共通構成エラー・メッセージ』も参照してください。

WebSphere Commerce Analyzer データマートの作成エラー・メッセージ

「WebSphere Commerce Analyzer データマートの作成」構成ステップでは、以下のエラー・メッセージが表示されることがあります。

- `IWD2005E: MAKEMART` コマンドは、`WebSphere Commerce Analyzer` データマートを適切に作成できませんでした。詳細については、構成ログを参照してください。

  「**データマートの作成**」をクリックした後でこのメッセージが表示される場合は、構成マネージャーが WCA データマートを作成できなかったことを示します。「**ログの表示**」をクリックして構成ログを参照してください。原因として、次のことが考えられます。

  – 「**データマート名**」フィールドに既存のデータベースの名前が入力されている。

  – 「**データマート・ディレクトリー (Datamart Directory)**」フィールドに指定されたドライブがコンピューター上に存在にしない。

  – データマートを作成するのに十分なディスク・スペースがディレクトリーにない。

  – 1 つ以上のアプリケーションがデータマートに接続されている。これが原因となっている場合は、現在データマートに接続されているアプリケーションのリストが構成ログに記述されています。

© Copyright IBM Corp. 2000, 2003

– データマート名が 8 文字を超えているか、または DB2 文字セットに入っていない文字が含まれている。

- IWD2007E: LOADMART コマンドがデータマートを作成および移植できませんでした。詳細については、構成ログを参照してください。

  「**構成**」をクリックした後にこのメッセージが表示された場合は、構成マネージャーが、WCA データマートに新しい情報を格納するための準備に失敗したことを示します。「**ログの表示**」をクリックして構成ログを参照してください。原因として、次のことが考えられます。

  – データマートに情報を追加するのに十分なディスク・スペースがドライブにない。

  – データマートの所有者として指定したユーザーに、データマートへのアクセス権が与えられていない。

  – 1 つ以上のアプリケーションがデータマートに接続されている。これが原因となっている場合は、現在データマートに接続されているアプリケーションのリストが構成ログに記述されています。

  – 「テーブル・スペース管理 (Table Space Management)」オプションとして **DMS** を選択した場合、以下のようなその他の原因も考えられます。
    - バッファー・プール名が変更または除去されている。
    - テーブル・スペース名が DMS スクリプト内で変更されている。
    - テーブル・スペースが DMS スクリプトに追加されているか、テーブル・スペースが DMS スクリプトから削除されている。

96 ページの『共通構成エラー・メッセージ』も参照してください。

ソース・データベースの複製セットアップ・エラー・メッセージ

「ソース・データベースの複製セットアップ」構成ステップでは、以下のエラー・メッセージが表示されることがあります。

- IWD0902E: 有効なデータマート名を使用できません。ログ・ファイルで、以前のステップを正常に完了したことを確認してください。

  「WebSphere Commerce Analyzer データマートの作成」構成ステップが正常に完了しませんでした。「**ログの表示**」をクリックして、エラーについての詳細な情報を入手してください。この情報に基づいて、該当するアクションを実行することができます。「WebSphere Commerce Analyzer データマートの作成」ウィンドウの「**データマート名**」フィールドのエントリーが誤っている可能性があります。

- IWD0903E: テーブル・スペース・パスは、有効なパス名ではありません。

  「**テーブル・スペース・パス**」フィールドに入力したパスが誤っています。

- IWD0904E: 有効なデータ・ソース名がありません。ログ・ファイルで、以前のステップを正常に完了したことを確認してください。

  「WebSphere Commerce データベース・アクセスの構成」構成ステップが正常に完了しませんでした。「**ログの表示**」をクリックして、エラーについての詳細な情報を入手してください。この情報に基づいて、該当するアクションを実行することができます。

- IWD0905E: データ・ソースへの接続を確立できません。ログ・ファイルで、以前のステップを正常に完了したことを確認してください。

「WebSphere Commerce データベース・アクセスの構成」構成ステップが正常に完了しませんでした。「**ログの表示**」をクリックして、エラーについての詳細な情報を入手してください。この情報に基づいて、該当するアクションを実行することができます。

- `IWD0901E: WebSphere Commerce 複製セットアップに失敗しました。`

  考えられる原因および修正処置は、以下のとおりです。

  – テーブルが存在していないが、テーブル・スペースが存在する。

    テーブル・スペース TSSNAP01 または TSSNAP02 がすでに存在していたために、複製セットアップがそれらの作成に失敗しました。しかし、スキーマ名 ASN のテーブルがありません。別のアプリケーションが使用していなければ、テーブル・スペースを除去して、複製セットアップをもう一度実行してください。

  – テーブルのなかには、すでに存在しているものと、存在していないものとがある。

    複製セットアップが、スキーマ名 ASN を持つテーブルの作成に失敗しました。別のアプリケーションが使用していなければ、スキーマ名 ASN を持つ既存のテーブルとテーブル・スペース TSSNAP01 および TSSNAP02 を除去して、複製セットアップをもう一度実行してください。

  – それぞれの WCA テーブルごとに、対応する複製テーブルおよびテーブル・スペースが、WebSphere Commerce サーバー上のデータベース内に作成されます。複製セットアップを実行するたびに、テーブルおよびテーブル・スペースがまず除去された後に作成され、それぞれのテーブルについて登録エントリーが追加されます。セットアップの最後に、すべてのテーブルが使用可能であるかのチェックが実行されます。この段階で障害が発生した場合には、次の状況についてチェックしてください。

    - テーブルが存在するが、除去することができない。これは、作成段階でのエラーの原因となります。

      現在テーブルを使用しているアプリケーションがないことを確認する必要があります。

    - レジストリー・エントリーが削除されなかったため、それをもう一度挿入しようとして失敗した。

      レジストリー・エントリーを別のアプリケーションが使用していなければ、それを手動で削除して、複製セットアップをもう一度実行してください。

  – 他の一般的な原因および修正処置は、以下のとおりです。

    - コンテナー・パスの不具合。

      テーブル・スペースがコマース・サーバー上に作成されます。テーブル・スペースのパス名は、そのマシン上に存在していなければならず、リモート・マシンにローカルとして入力しなければなりません。たとえば、Windows 構成の場合、リモート・コマース・サーバー上のテーブル・スペース・ディレクトリーは D:¥websphere¥tblspc です。コマース・サーバー・マシンは WCA マシンにはドライブ G: としてマップされます。複製セットアップのテーブル・スペース・パスは D:¥websphere¥tblspc¥ と入力する必要があります。

      WebSphere Commerce サーバーが AIX マシン上で稼動している場合、ディレクトリーに対する許可を調べてください。

- ファイル・システムのスペースが不十分。
  ファイル・システムのスペースを増やす必要があります。

複製セットアップの障害が続く場合は、IBM サポートに連絡してください。

96 ページの『共通構成エラー・メッセージ』も参照してください。

マイニングのスケジュール・エラー・メッセージ

「マイニングのスケジュール」構成ステップでは、以下のエラー・メッセージが表示されることがあります。

- `IWD1002E`: マイニング・パラメーターの更新に失敗しました。テーブル `"wca.parameters"` を調べてください。

  「**ログの表示**」をクリックして構成ログを参照し、原因を判別してください。WCA.PARAMETERS テーブルを調べてください。テーブルについて詳しくは、「*IBM WebSphere Commerce Analyzer バージョン 5.5 テクニカル・リファレンス*」の『抽出』章の『パラメーター』を参照してください。

- `IWD1003E`: 既存のマイニング・ベースについての *`miningbasename`* の情報の取得に失敗しました。

  Professional Business Intelligent Miner 環境のセットアップをチェックして、環境変数 IDM_MNB_DIR および IDM_RES_DIR が正しいディレクトリーに設定されているかどうかを確認します。デフォルト・ディレクトリーは、Intelligent Miner のインストール・ディレクトリーの ¥home ディレクトリーです。

  「**ログの表示**」をクリックして構成ログを参照し、原因を判別してください。

  Professional Business その後、Intelligent Miner ログ (loadmb.log) を調べてください。

- `IWD1004E`: *`miningbasename`* の新規マイニング・ベース・オブジェクトの作成に失敗しました。

  Professional Business Intelligent Miner 環境のセットアップをチェックします。「**ログの表示**」をクリックして構成ログを参照し、原因を判別してください。その後、Intelligent Miner ログ (loadmb.log) を調べてください。

- `IWD1005E`: マイニング・ベース名 *`miningbasename`* はすでに存在していました。

  Professional Business 使用しようとしたマイニング・ベース名はすでに Intelligent Miner に存在しています。「**マイニング・ベース名**」フィールドに指定した名前を変更するか、または Intelligent Miner 内のマイニング・ベース名を削除する必要があります。

- `IWD1006E`: マイニング・ベース *`miningbasename`* のインポートに失敗しました。

  Professional Business Intelligent Miner 環境のセットアップをチェックします。「**ログの表示**」をクリックして構成ログを参照し、原因を判別してください。その後、Intelligent Miner ログ (loadmb.log) を調べてください。

- `IWD1007E`: マイニング・ベース *`miningbasename`* の保管に失敗しました。

  Professional Business Intelligent Miner 環境のセットアップをチェックします。「**ログの表示**」をクリックして構成ログを参照し、原因を判別してください。その後、WCA ログ (loadmb.log) をチェックしてください。

注: この構成ステップが失敗したかどうかを調べることができる追加のログ・ファイルとして、updwcamnb.log があります。

96 ページの『共通構成エラー・メッセージ』も参照してください。

DB2 ウェアハウス・センター - コントロール・データベースの構成エラー・メッセージ

「DB2 ウェアハウス・センター - コントロール・データベースの構成」構成ステップでは、以下のエラー・メッセージが表示されることがあります。

- `IWD2009E: MAKEWCDB コマンドが IBM DB2 ウェアハウス・センター - コントロール・データベースを作成できませんでした。詳細については、構成ログを参照してください。`

  「**ウェアハウスの作成**」をクリックした後でこのメッセージが表示される場合は、構成マネージャーがウェアハウス・センター - コントロール・データベースを作成できなかったことを示します。「**ログの表示**」をクリックして構成ログを参照してください。原因として、次のことが考えられます。

  – 「**ウェアハウス・データベース名**」フィールドに、既存のデータベースの名前が入力されている。

  – ウェアハウス・センター - コントロール・データベースを作成するのに十分なディスク・スペースがドライブにない。

  – 1 つ以上のアプリケーションがデータベースに接続されている。これが原因となっている場合は、現在データベースに接続されているアプリケーションのリストが構成ログに記述されています。

96 ページの『共通構成エラー・メッセージ』も参照してください。

ステップのプロモート・エラー・メッセージ

「ステップのプロモート」構成ステップでは、以下のエラーが表示されることがあります。

- `IWD2172: 誤ったホスト名 - ホスト名を確認して再実行してください。`

  ホスト名を調べてください。ホスト名は、DB2 ウェアハウス・センター - コントロール・データベースから検索されます。

  – スキーマ: iwh

  – テーブル: BUSINESSVIEW

  – フィールド: KERNELHOSTNAME.

- `IWD2175: ステップのプロモートでエラーが発生しました。詳しくは、ログを調べてください。`

  whouseprocs プログラムで抽出ステップのどれかを実働モードにプロモートできなかった場合、プロモートされなかったステップを手動でプロモートする必要があります。抽出ステップのどれかが実働モードにプロモートされなかったかどうかを知るには、次の手順を実行します。

  1. 「データウェアハウス・センター (Data Warehouse Center)」で、「**サブジェクト・エリア (Subject Areas)**」を右マウス・ボタン・クリックし、「**検索 (Locate)**」を選択します。

2. 「検索 - サブジェクト・エリア (Locate - Subject Areas)」ウィンドウで、1 行目の「**値 (Values)**」列に % を入力し、「**OK**」をクリックします。「検索結果 - ステップ (Locate Result - Steps)」ウィンドウが開き、ステップのリストが示されます。
3. モードによるソートを行うために「**モード (Mode)**」をクリックします。ステップのどれかがまだ開発モードになっているかどうかを調べます。
4. 降順でステップ名をソートします。
5. 抽出ステップをプロモートする前に、まず複製ステップをプロモートしなければなりません。複製ステップの名前の先頭は *R WCS* になっています。開発モードの複製ステップを右マウス・ボタン・クリックし、**「モード (Mode)」->「実働 (Production)」**と選択します。
6. 抽出ステップが開発モードになっている場合、そのステップを右マウス・ボタン・クリックし、**「モード (Mode)」->「実働 (Production)」**と選択します。
7. そのステップが実働モードに移動した場合は、まだ開発モードになっているその他のステップについて調べます。そのステップが「実働 (Production)」モードに移動しなかった場合は、エラー・メッセージが表示されます。

抽出ステップがプロモートされなかった場合、データベース名、ユーザー名、またはパスワードが正しくないためにそのステップに関連付けられたテーブルにアクセスできないという可能性があります。この状況を識別して訂正する方法については、「*IBM WebSphere Commerce Analyzer バージョン 5.5 テクニカル・リファレンス*」内のトラブルシューティング情報を参照してください。

- `IWD2178: ステップをプロモートするためのテストに失敗しました。詳しくは、ログを調べてください。`

  大量のステップをプロモートする前に、1 つのステップを選んでステップのプロモートをテストします。ステップは %IWDA_DIR%¥lib¥wcacfg.properties ファイルに定義されています。

- `IWD7356E: DB2 ウェアハウス・エージェントはコマンドを処理できませんでした (RC=7356)。`

  このエラーには、いくつかの原因が考えられます。次のようにします。

  1. システムのクラスパスが正しく設定されていることを検査します。詳しくは、19 ページの『構成前のチェックリスト』 を参照してください。システム・クラスパスに何らかの変更を加えた場合は、WCA で使用中のウィンドウを全部閉じてから、これを再度開いてください。
  2. WebSphere Commerce Analyzer Configuration Manager で**「データベースの構成」**を選択し、**「次へ」**をクリックします。すると、「プロモーションの準備 (Prepare for Promotion)」ページが表示されます。このページから、再構成を開始します。詳しくは、27 ページの『第 6 章 WCA の構成』 を参照してください。
  3. 再びエラーが生じた場合は、次のようにします。
     a. 初めて WCA を構成する場合は、DB2 ウェアハウス・センターにログインし、ステップを見つけ、それを手操作でプロモートしてください。
     b. すでに WCA が構成済みなら、 WebSphere Commerce データベースに残ったサブスクリプションが入っている可能性があります。 WebSphere Commerce データベースに接続し、次の SQL ステートメントを実行して、サブスクリプションを削除します。

+ – delete from asn.ibmsnap_prune_set

+ ステップをプロモートします。

96 ページの『共通構成エラー・メッセージ』も参照してください。

オンライン・ストア、およびレポート用の言語と通貨の選択エラー・メッセージ

「レポート用のオンライン・ストア、言語、および通貨の選択」構成ステップでは、以下のエラー・メッセージが表示されることがあります。

- IWD2011E: REFRESH コマンドが WebSphere Commerce Server データベースにアクセスできませんでした。 WebSphere Commerce Server データベースへのアクセス権があることと、ユーザー ID とパスワードの組み合わせが正しいことを確認してください。

  「**選択を適用**」をクリックした後にこのメッセージが表示された場合は、構成マネージャーが WebSphere Commerce トランザクション・データベース・サーバー上のデータベースにアクセスできませんでした。原因として、次のことが考えられます。

  – ユーザー ID やパスワードなどの WebSphere Commerce データベース・パラメーターが変更されている。

  – 現在、WebSphere Commerce データベースへのアクセス権を持っていない。

- IWD2021E: SETSTORE コマンドが、ストア、言語、および通貨の新しい値でデータマートを更新できませんでした。詳細については、構成ログを参照してください。

  「**選択を適用**」をクリックした後にこのメッセージが表示された場合は、構成マネージャーが WCA サーバー上のデータマートにアクセスできなかったことを示します。「**ログの表示**」をクリックして構成ログを参照してください。原因として、次のことが考えられます。

  – データマートが稼働していない。

  – データマートへのアクセス権が取り消されている。

- IWD2030W: ストア *x* の場合、デフォルト通貨 (*y*) をレポート通貨 (*z*) に変換できません。サーバーの CURCONVERT テーブルを変更するか、別のレポート通貨を選択してください。

  レポート通貨を選択した後でこのメッセージが表示された場合、適切な通貨変換が定義されているかを確認してください。詳しくは、 9 ページの『WebSphere Commerce サーバーの要件』を参照してください。

96 ページの『共通構成エラー・メッセージ』も参照してください。

カタログの選択エラー・メッセージ

「カタログの選択」構成ステップの行では、以下のエラー・メッセージが表示されることがあります。

- IWD2012E: コマンドがカタログ選択の保管に失敗しました。詳細については、構成ログを参照してください。

「**選択を適用**」をクリックした後にこのメッセージが表示された場合は、選択したカタログを保管できなかったことを示します。「**ログの表示**」をクリックして構成ログを参照し、原因を判別してください。

注: コマース・サーバーが Oracle データベースを使用する場合は、コマース・データベースから CD_ テーブル、IBMSNAP テーブル、および関連するトリガーを全部除去してください。また、構成中に作成された統合データベースから、CD_ ニックネーム、IBMSNAP ニックネーム、および TSNSCA テーブル・スペースも全部除去してください。

- `IWD2018E: REFRESH` コマンドが、`WebSphere Commerce Server` データベースにアクセスできませんでした。 `WebSphere Commerce Server` データベースへのアクセス権があることと、ユーザー `ID` とパスワードの組み合わせが正しいことを確認してください。

  「**選択を適用**」をクリックした後でこのメッセージが表示された場合は、構成マネージャーが WebSphere Commerce データベース・サーバー上のデータベースにアクセスできませんでした。原因として、次のことが考えられます。

  – ユーザー ID やパスワードなどの WebSphere Commerce データベース・パラメーターが変更されている。

  – 現在、WebSphere Commerce データベースへのアクセス権を持っていない。

『共通構成エラー・メッセージ』も参照してください。

共通構成エラー・メッセージ

- `IWD2051W:SQL30081N` データベース *database_name* が指定したホスト名にありません。かつ (または) ポート番号が間違っています。データベース *database_name* をアンカタログし、構成マネージャーをもう一度実行してください。

  このエラー・メッセージが表示される場合、「WebSphere Commerce 接続の作成 (Create WebSphere Commerce Connections)」ウィンドウで、ホスト名またはポート番号のどちらかが間違って入力されました。構成マネージャーの外部のデータベースをアンカタログして、もう一度構成マネージャーを実行する必要があります。次のように入力して、データベースをアンカタログします。

  ```
  db2 uncatalog database database_name
  ```

  database_name は、アンカタログするデータベースの名前です。

- `IWD2049W:` テーブル *tablename* で *rowname* を更新するための行が見つかりませんでした。

  このメッセージが表示された場合は、「WebSphere Commerce Analyzer データマートの作成」構成ステップが失敗しました。「**ログの表示**」をクリックして構成ログを参照し、原因を判別してください。

- `IWD2050W:` データベース名 *database_name* は使用中です。このデータベースにアクティブな接続がないことを確認してください。

  このメッセージが表示された場合、メッセージに示されているデータベースへのアクティブな接続がないことを確認してください。

付録 D. トラブルシューティング

WCA サーバーの使用中に問題が発生した場合は、このセクションで問題の解決策が説明されているかを確認してください。問題が説明されていない場合は、次の WCA の Web サイトを参照してください。

www.ibm.com/software/data/bi/wca/support.html

インストール時の問題

前提条件ソフトウェアのサイレント・インストール時に下のエラー・メッセージが表示された場合、そのメッセージは無視してかまいません。 WCA の機能への影響はありません。

```
EHN0229: The data file filename is not found. Check if this file exists.
It should be in the path pointed to by the EHNINSTSVR and SMINST
environment variable in the instance file.
```

ウェアハウス構成時の問題

本節では、ウェアハウスの構成時に発生する可能性のある問題について説明します。

複製ステップのプロモート時の問題

以下のいずれかの問題が発生した場合は、複製に必要なサブスクリプション情報が正しくありません。

- 構成マネージャーでステップのプロモート構成タスクを実行した後も、WCA の複製ステップがまた開発モードになっている (41 ページの『実働モードへのウェアハウス・ステップのプロモート』を参照)。
- WCA の複製ステップを手動でテストまたは実働モードに移動できない。
- データウェアハウス・センターのユーザー・インターフェースで以下のいずれかのエラーが発生した。
  - DWC07356E

    The processing of the agent processing of a command type *command-type* has failed for edition *edition-number* of step *step-name*.
  - SQL1013N

    The database alias name or database name *name* could not be found.
  - データベース名またはデータベースが見つからない、データベースのユーザー名またはパスワードが正しくない、あるいは insert、update、delete ステートメントによりキーの重複が発生したことを示すその他のメッセージ。

86 ページの『複製ステップでの情報の更新』 にある手順を完了し、サブスクリプション情報が正しいことを確認してください。

© Copyright IBM Corp. 2000, 2003

テーブルのパスワードの変更

ウェアハウス・ステップが実働モードへ移動せず、エラー・メッセージにユーザー名またはパスワードが正しくないと示される場合は、次の手順に従ってユーザー名またはパスワードを変更してください。

1. 「**サブジェクト・エリア (Subject Areas)**」フォルダーを右マウス・ボタンでクリックして、「**検索 (Locate)**」をクリックします。
2. 「検索結果 - ステップ (Locate Result - Steps)」ウィンドウで、ステップを右マウス・ボタンでクリックし、「**関連の表示 (Show Related)**」をクリックします。
3. 「関連の表示 - ステップ名 (Show Related - *step name*)」ウィンドウで、プロセスをダブルクリックします。「プロセス・モデル (Process Model)」ウィンドウが開き、ステップ、およびステップで使用されているソース・テーブルまたはターゲット・テーブルのいずれかが表示されます。
4. 「プロセス・モデル (Process Model)」ウィンドウで表示されているソース・テーブルまたはターゲット・テーブルごとに、テーブルを右マウス・ボタンでクリックし、「**プロパティー (Properties)**」をクリックします。
5. ウィンドウのタイトル・バーの下にある最初の行にフォルダーが表示されます。これは、**WebSphere Commerce** または **Advanced ターゲット・テーブル**のいずれかです。 (レポート・アプリケーションのステップが失敗した場合は、レポート・アプリケーションの資料を参照し、このステップのウェアハウス・ソースまたはウェアハウス・ターゲットを判別します。)
6. 「データウェアハウス・センター (Data Warehouse Center)」ウィンドウで、「**ウェアハウス・ソース (Warehouse Sources)**」と「**ウェアハウス・ターゲット (Warehouse Targets)**」の両方を展開し、「**WebSphere Commerce**」または「**Advanced ターゲット・テーブル (Advanced Target Tables)**」を探します。 (「プロセス・モデル (Process Model)」ウィンドウのテーブルの表示内容に応じて、これらの一方または両方が必要となります。)
7. 「**WebSphere Commerce**」または「**Advanced ターゲット・テーブル (Advanced Target Tables)**」を右マウス・ボタンでクリックし、「**プロパティー (Properties)**」をクリックします。
8. 「プロパティー (Properties)」ウィンドウで「**データベース**」タブをクリックします。
9. 「**データベース名**」および「**ユーザー ID**」フィールドに正しい名前が表示されていることを確認します。「**パスワード**」と「**パスワードの確認 (Verify password)**)」フィールドにパスワードを再入力し、「**OK**」をクリックします。
10. もう一度、ステップを実働モードにプロモートしてみます。

複製に関する問題

複製ステップが実働モードで、WCA の抽出プロセスを 1 回以上実行した後では、いずれの複製ステップも開発モードにデモートしないでください。複製ステップをデモートすると、複製セットアップ制御テーブルが壊れ、WCA データベースを再作成して、WCA の複製ステップをすべてリセットしなければならない場合があります。

抽出時の問題

以下の問題が、抽出処理時に発生する場合があります。

1 次キー・エラー

この問題は、WCA の抽出処理のサイクルで発生する可能性があります。ログに次のメッセージが記録されている場合は、IBM サポートに連絡してください。

```
DB21034E  The command was processed as an SQL statement because it was not
a valid Command Line Processor command.  During SQL processing it returned:
SQL0803N  One or more values in the STATEMENT_NAME statement,
STATEMENT_NAME statement, or foreign key update caused by a STATEMENT_NAME
statement are not valid because the primary key, unique constraint or
unique index identified by "2" constrains table "TABLE_NAME" from having
duplicate rows for those columns. SQLSTATE=23505
```

FACT_INTEREST テーブルにデータが挿入されない

顧客が買い物候補リストにアイテムを追加すると、FACT_INTEREST テーブルにデータが挿入されます。 WebSphere Commerce Analyzer は WebSphere Commerce で .jsp を使用して、**OrderItemUpdate**、**OrderItemAdd**、および **InterestItemAdd** コマンドの情報を USR_TRAFFIC ログの照会ストリングに記録します。

InterestItemAdd コマンドは、アイテムを買い物候補アイテム・リストに追加するために使用されます。 **OrderItemUpdate** および **OrderItemAdd** コマンドは、商品を買い物候補アイテム・リストからオーダー・リストに移動するときに使用されます。照会ストリングには、Store_ID、CatEntry_ID、Attr_Name、Attr_Value が含まる可能性があります。たとえば、照会ストリングには、赤色で表示されているストアの商品について次の情報が含まれることがあります。

```
Store_ID=35&CatEntry_ID=1000&Attr_Name=100&AttrValue="Red"
```

たとえば、照会ストリングには、2 つの属性を持つストアの商品について次の情報が含まれることがあります。

```
Store_ID=35&CatEntry_ID=1000&Attr_Name=100&AttrValue_1="Red"&AttrValue_2="Size 10"
```

テーブル・スペース・サイズの要件のトラブルシューティング

抽出プロセスで、次の DB2 エラーが発生する場合があります。

```
SQL0289N
Unable to allocate new pages in table space "tablespace name".
```

このエラーは、テーブル・スペースのサイズが小さすぎるか、ディスク・スペースが不足したために表示されます。

このエラーを訂正するには、累積フリー・ディスク・スペースを確認してください。十分なディスク・スペースがある場合は、テーブル・スペースのサイズを変更してください。テーブル・スペースのサイズを変更するには、以下の手順に従います。

1. ステップを失敗したテーブルの名前をウェアハウス・センターで見つけます。

2. DB2 コントロール・センターを使用して、テーブル・スペース名を判別します。
3. テーブル・スペースのサイズを増やします。

抽出時のエラーのトラブルシューティング

抽出プロセスの実行時にエラーが発生した場合は、次の手順に従ってエラーに関する情報を取得します。

1. データウェアハウス・センターで**「ウェアハウス (Warehouse)」→「進行中の作業 (Work in Progress)」**をクリックします。
2. 抽出プロセスで実行されたすべてのプロセスが「進行中の作業 (Work in Progress)」ウィンドウに表示されます。状況が「**失敗 (Failed)**」のプロセスを検索します。そのプロセスをクリックして選択します。
3. 右マウス・ボタンをクリックして、「**ログの表示 (Show Log)**」をクリックします。
4. 「ログ (Log)」ウィンドウの「メッセージ・タイプ (Message type)」列でエラー・メッセージを検索します。メッセージをクリックして選択します。
5. 右マウス・ボタン・クリックして、「**詳細表示 (Show Details)**」をクリックします。「ログ詳細 (Log Details)」ウィンドウが開き、エラー・メッセージに関する詳細情報が表示されます。

   エラー・メッセージに基づいて一連のアクションを決定する必要がある場合は、IBM DB2 資料のメッセージ・リファレンスを参照してください。

最初の複製と抽出の後の問題

最初の複製および抽出の後、**SET INTEGRITY** または **SET CONSTRAINTS** が失敗していないかどうかを確認します。外部キー、1 次キー、または固有キーに関する違反がある場合、これらのコマンドは失敗します。問題の行は*ロード例外 (Load Exception) テーブル* と呼ばれるミラー・テーブルに挿入されます。ロード例外 (Load Exception) テーブルを調べて、問題の行を探します。コマンドが失敗したかどうかを調べるには、以下のようにします。

1. 次のコマンドを入力し、ロード例外 (Load Exception) テーブルをリストします。

   ```
   list tables for schema wcaexcpt
   ```

   ロード例外 (Load Exception) テーブルの名前が表示されます。
2. 以下のように入力します。

   ```
   select count (*) from wcaexcpt.tablename
   ```

   tablename は ロード例外 (Load Exception) テーブル名です。

   数値が表示されます。数値が 0 の場合、テーブルにエラーはありません。数値が 0 より大きい場合、テーブルにエラーがあります。テーブルを開いて、問題の行の名前を **MSG** 列から取得し、エラーを訂正します。
3. それぞれのロード例外 (Load Exception) テーブルについてステップ 2 を繰り返します。

データマートの操作

データマートの抽出プロセスで障害が発生した場合、詳しくは「*WCA Datamart Reference*」を参照してください。

既存の WCA テーブルの変更

WCA スキーマで 1 つ以上の既存のテーブルを変更する場合は、関連する例外 (EXCEPTION) テーブルも更新する必要があります。 WCA は、実行時にこれらのテーブルを正しく更新するスクリプトを提供します。 create_load_exception_tables.sql スクリプトは %IWDA_DIR%¥bin¥db2¥*wcs_install_dir* ディレクトリーにあります。説明:

- *IWDA_DIR* は、WCA がインストールされているディレクトリーです。インストール時にこのディレクトリーの場所を設定します。
- *wcs_install_dir* は、インストールされているバージョンの WebSphere Commerce のディレクトリー名です。たとえば、55be_ext など。

このスクリプトを実行しないと、次のデータウェアハウス・センター・エラーが表示されます。

```
IWD3250E: IWD3250E Failed to run update script (2nd RC = 3250)
```

複製および抽出時の問題からの回復

WebSphere Commerce Analyzer サーバーの標準操作では、データは WebSphere Commerce データベースから複製され、WCA データマートに置かれます。ただし、これらのプロセスが失敗する場合があります。最も一般的な場合と、修正方法の指示への参照を以下に示します。

- WCA データマートのディスク・スペースが不足した。 102 ページの『データベースのスペースが不足した』を参照してください。
- WCA DB2 トランザクション・ログがいっぱいになった。 102 ページの『WCA DB2 トランザクション・ログがいっぱいになった』を参照してください。
- ネットワーク障害が発生した。 102 ページの『ネットワーク障害が発生した』を参照してください。
- Windows の障害が発生し、システムまたは DB2 が再始動された。 102 ページの『Microsoft Windows の障害が発生し、システムまたは DB2 が再始動された』を参照してください。
- ASNCAP をサービスとしてインストールして、何かしらのアクティビティーを行った後、プロセスが停止した。 103 ページの『ASNCAP プログラムが停止した』を参照してください。
- 最初の複製および抽出でステップが失敗した。 103 ページの『最初の複製および抽出でステップが失敗した』を参照してください。
- 最初の複製および抽出の後でステップが失敗した。 103 ページの『最初の複製および抽出の後でステップが失敗した』を参照してください。
- WebSphere Commerce Analyzer データマートで登録情報が更新されなかった。

データベースのスペースが不足した

データマートがスペース不足の場合は、データベース管理ストレージ (DMS) とシステム管理ストレージ (SMS) のどちらを使用しているかに応じて処置してください。

DMS を使用している場合:

DMS を使用していて、データマートのスペースが不足した場合は、**ALTER TABLESPACE** コマンドを使用して、フルになっているテーブル・スペースに 1 つ以上のコンテナーを追加します。急速に増大するデータを格納するには、非常に大容量のコンテナーを追加するか、複数のコンテナーを追加します。コンテナーは、Windows NT® のファイル、ロー・デバイス、論理ボリュームまたは区画のいずれかにすることができます。新しいコンテナーが追加された後、データはすべてのコンテナーに再平衡化されます。再平衡化中も、引き続きデータにアクセスできます。

SMS を使用している場合:

SMS を使用していて、データマートのスペースが不足した場合は、ハード・ディスクがフルです。この場合、次のタスクを実行する必要があります。

1. 既存のデータをアーカイブすることによって、データマートをバックアップします。
2. リダイレクトされた復元を使用して、より大容量のハード・ディスクにデータを復元します。

WCA DB2 トランザクション・ログがいっぱいになった

WCA DB2 トランザクション・ログがいっぱいになった場合は、DB2 コントロール・センターを使用して、DB2 トランザクション・ログのサイズを拡張します。以下のいずれかの手順を実行して、**LOGFILSIZ**、**LOGPRIMARY**、**LOGSECOND** パラメーターのサイズを確認します。

- コマンド行

  コマンド行で、「`DB2 GET DB CFG FOR database_name`」と入力します。
- グラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI)
  1. コントロール・センターでデータベース名を右マウス・ボタンでクリックします。
  2. 「**構成**」オプションを右マウス・ボタンでクリックします。
  3. 表示された「データベースの構成」ウィンドウで、Tab キーを押して「**ログ (Logs)**」に移動します。

ネットワーク障害が発生した

ネットワーク障害が発生した場合は、WebSphere Commerce データベースへのネットワーク接続を再び確立します。

Microsoft Windows の障害が発生し、システムまたは DB2 が再始動された

Windows の障害が発生し、システムまたは DB2 が再始動された場合は、次のステップを実行します。

1. WCA サーバー上のすべてのプロセスを停止します。
2. WCA サーバーをシャットダウンして再始動します。
3. WCA サーバー上のプロセスを再始動します。

ASNCAP プログラムが停止した

何かしらのアクティビティーの後で、**ASNCAP** プログラムが停止しました。この問題の説明と、考えられる解決策は以下のとおりです。

サービスとしての ASNCAP

ASNCAP がサービスとしてインストールされました。これは推奨されていません。代わりに、プロセスをコマンド行から実行します。「*WebSphere Commerce Analyzer インストールおよび構成ガイド*」の 『WebSphere Commerce サーバー上でのキャプチャー・プログラムのセットアップ』を参照してください。

タイム・スタンプが抽出時間のカットオフの範囲外にある

タイム・スタンプが抽出時間のカットオフの範囲外にあるため、新規のショッピング・データが処理されませんでした。欠落したデータを回復するには、以下のステップに従います。

1. `db2 connect to` *`database`* と入力します。 *database* はローカル・データマートの名前です。
2. 「`db2 update wca.parameters set param_value = (select varchar(min(lastsuccess)) from asn.ibmsnap_subs_set) where param_type= 'TIME_CUT_OFF_PREV'`」 と入力します。
3. WebSphere Commerce システムで ASNCAP を実行します。

最初の複製および抽出でステップが失敗した

最初の複製および抽出で複製または抽出のステップが失敗すると、エラーが「進行中の作業 (Work in Progress)」ウィンドウに表示されます。失敗したステップを再度開始するには、以下の手順に従います。

1. ネットワークが使用可能であることを確認します。
2. 「進行中の作業 (Work in Progress)」ウィンドウでエラーを選択します。
3. エラーを右マウス・ボタンでクリックし、表示されたメニューから「**実行 (Run Now)**」をクリックします。失敗したステップが再度開始されます。

最初の複製および抽出の後でステップが失敗した

最初の複製および抽出の後 で複製または抽出のステップが失敗した場合は、以下の手順に従って、WCA データマートで発生する可能性のあるデータの不整合を回避します。

1. データウェアハウス・センターの「進行中の作業 (Work in Progress)」ウィンドウを調べて、エラーが発生したステップを識別します。
2. 失敗したステップのログ情報を確認します。
3. 問題を識別し、適切な措置をとり、問題を訂正します。問題を修正できない場合は、IBM 技術サポート・チームに連絡してください。

注: ステップ 3 (103 ページ) で問題を修正できない場合は、問題が修正されるまで、データウェアハウス・センターでスケジュールされた日次の抽出をオフにしてください。ステップ 3 (103 ページ) で問題が修正されたら、複製および抽出を再びオンにするためにステップ 4 を完了してください。

4. 問題が訂正されたら、失敗したステップから抽出プロセスを手動で開始し、抽出順に未完了のステップをすべて完了します。
   a. 「進行中の作業 (Work in Progress)」ウィンドウでエラーを選択します。
   b. エラーを右マウス・ボタンでクリックし、表示されたメニューから「**実行 (Run Now)**」をクリックします。失敗したステップが再度開始されます。

その他の問題

本節では、可能性のある他のエラーから回復するための追加サポートについて説明します。

レポート内の DBCS または MBCS 文字が壊れている

以下は、この問題のトラブルシューティングで使用されるシナリオおよび処置です。

重要: 複数のシナリオが問題に関係している場合があるため、すべてのシナリオを読んでください。

シナリオ 1: WCA データマートに基づくレポート内の DBCS および MBCS 文字の破損

WCA は、WCA データマート内で複数の言語に適応するように設計されています。ただし、なんらかのデータを適用することで、データベース内の言語が 1 つだけであること、またこの言語がアプリケーションが実行されているロケールと同一か少なくとも互換性があることが期待される場合があります。 これはオペレーティング・システムのロケールである可能性があります。最もわかりやすい例としては、日本語の文字を含むデータベースに接続された Windows 上で en_US または English ロケールで実行されるアプリケーションがあります。アプリケーションが日本語のデータを認識しない可能性があります。認識したとしても、おそらく、アプリケーションには文字を表示するためのフォント・サポートがありません。この問題について詳しくは、「*DB2 Administration Guide for NLS Support*」と、該当するアプリケーションの資料を参照してください。

シナリオ 2: WebSphere Commerce サーバーが DBCS または SBCS オペレーティング・システムにインストールされている

次のシナリオでは、WCA データマート内の MBCS または DBCS 文字は破損しないはずです。

WebSphere Commerce サーバーに 1 つの言語のみが含まれ、その言語がオペレーティング・システムのロケールと一致しています。 WebSphere Commerce サーバーは WebSphere Commerce と同じ DBCS または SBCS オペレーティング・システムにインストールされているか、あるいは同じロケールを使用しています。詳しくは、105 ページの『WCA データマートの更新』を参照してください。

WCA データマートの更新

この時点で、データマート・インスタンス変数は正しく設定され、データベースは再始動されています。これによって、WCA データマート内の現行データは変更されません。データは壊れたままになります。データを元に戻すには、以下を行う必要があります。

1. 壊れたテーブルのある WCA テーブルを確認します。
2. WCA テーブルを移植するために使用する、対応する WebSphere Commerce テーブルを確認します。
3. DBCS/MBCS データを持つ、WCA テーブル内の行に対して更新を実行します。

   注: 行内のデータを変更する必要はありません。更新によって、WCA データマートが強制的に更新されます。
4. 次の WCA 抽出サイクルを待ちます。

注: この手順は、WebSphere Commerce テーブルへの更新によって WCA ステージング・テーブルに対する更新が起動されるという前提に基づいています。これで、WCA 抽出は、更新からの壊れていないストリングで、壊れたストリングを上書きします。

WebSphere Commerce Analyzer によって設定された環境変数

WebSphere Commerce Analyzer の使用中に問題が発生し、IBM サポートに連絡する場合は、以下の情報が必要になります。

WebSphere Commerce Analyzer インストール・プログラムは、以下の環境変数を設定します。

環境変数	値
IWDA_DIR	WCA のインストール先のプログラム・ディレクトリー。このディレクトリーはインストール時にユーザーによって設定されます。
IWDA_DATA	WCA 一時データが保管されるディレクトリー。このディレクトリーはインストール時にユーザーによって設定されます。

ニックネーム作成時の問題

データベースのニックネームの作成中に問題が発生し、次のようなエラー・メッセージが表示されることがあります。

```
SQL1822N  予期しないエラー・コード "0" をデータ・ソース <"DATASOURCE"> から受け
取りました。関連したテキストとトークンは "" です。SQLSTATE=560BD
```

この場合は、次のようにします。

1. sqllib¥cfg¥db2dj.ini で以下の変数が正しく設定されていることを検査します。
   - ORACLE_HOME: Oracle クライアント・ソフトウェアのインストール先への、完全修飾されたディレクトリー・パス。たとえば、`ORACLE_HOME=<"oracle_home_directory">` です。 Oracle ホーム・ディレクトリーが /usr/oracle/8.1.7 なら、 db2dj.ini ファイルのエントリーは ORACLE_HOME=/usr/oracle/8.1.7 になります。

注: 連合インスタンスの個々のユーザーが ORACLE_HOME 環境変数を設定する場合、連合インスタンスはこの設定を使用しません。連合インスタンスは db2dj.ini ファイルに設定された ORACLE_HOME の値しか使用しません。

- ORACLE_BASE: Oracle クライアントのディレクトリー・ツリーのルート。Oracle クライアント・ソフトウェアをインストールしたときに ORACLE_BASE 変数を設定した場合、連合サーバーに ORACLE_BASE 環境変数を設定します。たとえば、`ORACLE_BASE=<"oracle_root_directory">` です。
- ORA_NLS33: Oracle 9i 用の ORA_NLS 環境変数。システムで複数のバージョンの Oracle を使用している場合、ロケール特有のデータを、ORA_NLS 環境変数で指定されたディレクトリーに保管しなければなりません。 Oracle の各バージョンで ORA_NLS データ・ディレクトリーは異なります。たとえば、Oracle 9i データ・ソースにアクセスする Windows 連合サーバーの ORA_NLS 環境変数は、`ORA_NLS33=<"oracle_home_directory">/ocommon/nls/admin/data>` に設定します。
- TNS_ADMIN: tnsnames.ora ファイルの位置を判別します。
  - Windows では、Oracle クライアントは tnsnames.ora ファイルを /NETWORK/ADMIN で探します。 tnsnames.ora ファイルが /NETWORK/ADMIN ディレクトリーにない場合は、連合サーバーに TNS_ADMIN 環境変数を設定します。
  - UNIX では、クライアントは tnsnames.ora ファイルを /etc で探します。tnsnames.ora ファイルが /etc ディレクトリーにない場合は、 db2dj.ini ファイルに TNS_ADMIN 環境変数を設定します。たとえば、`TNS_ADMIN=<"tnsnames.ora_directory">` です。

2. `db2stop` コマンドと `db2start` コマンドを使って、DB2 インスタンスを開始および停止します。
3. ラッパー、サーバー・マッピング、ユーザー・マッピング、およびニックネームを作成します。

WCA システムのロケールの検出

ロケールを見つけるには、以下を行います。

1. WCA 所有者として WCA サーバーにログインします。
2. デスクトップで**「スタート」->「設定」->「コントロール パネル」**をクリックします。「コントロール パネル」ウィンドウが開きます。
3. 「**地域のオプション**」アイコンをダブルクリックします。「地域のオプション」ウィンドウが開きます。
4. 「**全般**」タブをクリックします。
5. 「**ロケール (国または地域)**」リスト・ボックスにロケールがリストされます。

NLS サポートとロケールの設定について詳しくは、該当するオペレーティング・システムの資料を参照してください。

WebSphere Commerce システムで予想される言語の検出

使用可能なロケールを調べるには WebSphere Commerce データベース内の LANGUAGE テーブルを見つけます。 `select language_id, localname from language` と入力して db2 照会を実行し、システムでサポートされる言語のリストを取得します。 WebSphere Commerce には 10 のロケールがすでに定義されていることに注意してください。ただし、これは、WebSphere Commerce サーバーのデータベースにその 10 のすべての言語のデータが存在しているという意味ではありません 。

NLS データが WebSphere Commerce データベース内の CATENTDESC テーブルであることがわかります。 `select distinct language_id from catentdesc` と入力して db2 照会を実行します。この照会は、現在取り込まれているすべての言語 ID を戻します。これらの language_id フィールドを language_id フィールドと比較することで、WebSphere Commerce システムで使用可能である可能性が最も高い言語のセットを判別することができます。

特記事項

本書において、日本では発表されていない IBM 製品 (機械およびプログラム)、プログラミングまたはサービスについて言及または説明する場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権（特許出願中のものを含む）を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。
IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態で提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。 IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム（本プログラムを含む）との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

© Copyright IBM Corp. 2000, 2003

IBM Corporation
J46A/G4
555 Bailey Avenue
San Jose, CA 95141-1003
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。 IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。また、IBM 以外の製品に関するパフォーマンスの正確性、互換性、またはその他の要求は確証できません。 IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があり、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

この製品には、Apache Software Foundation (www.apache.org) によって開発されたソフトウェアが組み込まれています。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

- AIX
- DB2 Universal Database
- iSeries
- IBM
- Intelligent Miner
- WebSphere

Microsoft、Windows、および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java™ および Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Pentium は、Intel Corporation の登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

用語集

［ア行］

イニシアチブ (initiative). 商品の購入など、特定の振る舞いを奨励するために使用される応用技法。

インプレッション (impression). Web ページ上のキャンペーン、イニシアチブ、および e-marketing スポットのコラボレーション (共同作業) を表します。これらはカスタマーに情報を提供し、カスタマーがコラボレーションに関連したリンクをクリックすることによりその情報を利用できるようにします。

ウェアハウス・センター・コントロール・データベース (Warehouse Center Control Database). ウェアハウス・センター・メタデータを保管するために必要な制御テーブルを含むウェアハウス・センター・データベース。

［カ行］

改訂 (revision). ユーザーが既存の WCA コンポーネント (たとえば、レポートやデータマート・テーブルなど) に変更を加えること。

拡張 (extension). ユーザーによる WCA コンポーネント (新規レポートや新規データマート・テーブルなど) への追加。

カスタマー・セッション・データ (customer session data). カスタマーがオンライン・ストアを訪問している間に、カスタマーから収集された情報。

カスタマイズ (customization). 個々の e-commerce ビジネス・モデルにより密接に適合するようにユーザーが WCA に対して行う追加または変更。

キャンペーン (campaign). 一組の定義済みのビジネス目標を達成するために実行される、一連の計画された作業。小売市場では、イニシアチブとはキャンペーン目標を達成するために使用される一般的な手法を指します。

広告 (ad (または advertisement)). 製品やサービスに関する認識を深める目的で発行または放送される付帯的マーケティングの 1 つ。 Web 上で最も一般的なタイプの広告はバナー広告です。

［サ行］

システム管理ストレージ (SMS) (System Managed Storage (SMS)). オペレーティング・システム (OS) がテーブル・スペースを管理する際に使用するデータ・ストレージのタイプ。テーブル・スペースはハード・ディスクのサイズにより制限されます。データは、テーブル・スペースのディレクトリー・コンテナー (ファイル・システム内のディレクトリー名) の下にランダムに保管されます。

商品探査 (Product Explorer). 商品探査は、ユーザーが商品の特性 (価格、色、タイプなど) の要件 (制約) をいくつか設定して、それに合致する商品を検索することを可能にするメタフォーです。

商品比較 (Product Comparison). 商品比較は、ユーザーが複数の商品を比較することを可能にするメタフォーです。

セールス・アシスタント (Sales Assistant). セールス・アシスタントは、商品の詳細に通じておらず、特性の要件が設定できないショッパー向けのメタフォー。

［タ行］

抽出 (extraction). データベースからデータをプルする (引き出す) こと。 WCA の場合は、WCA サーバーの一時テーブルから WCA データマートにデータを移動するプロセス。一時テーブル内のデータは、WebSphere Commerce データベースから複製されます。

抽出時間帯 (extraction time window). このソースに対して WCA 抽出操作が最後に実行された時刻と現在時刻との間の時間帯。 WebSphere Commerce 5.5 ソースの場合、これは WCA パラメーターの TIME_CUT_OFF と TIME_CUT_OFF_PREV によって示されます。

データベース管理ストレージ (DMS) (Database Managed Storage (DMS)). データベース管理者 (DBA) がテーブル・スペースの管理に使用するデータ・ストレージのタイプ。テーブル・スペースのサイズの指定とスペースの割り振りは、テーブルの作成時に行います。

データマート (datamart). 部門やチームの特定のニーズに応じて調整されたデータを含むデータウェアハウス

© Copyright IBM Corp. 2000, 2003

のサブセット。データマートは、OLAP ツールに含まれたデータなど、組織全体のウェアハウスのサブセットの場合もあります。

データ・マイニング (data mining). データウェアハウスから重要なビジネス情報を収集し、それを相関させて関連やパターン、傾向を明らかにするプロセス。

テーブル (table). 特定数の列といくつかの順序付けされていない行から成る、名前付きデータ・オブジェクト。

［ハ行］

配送業務 (fulfillment). オーダーの受領時に発生するプロセス。配送業務プロセスには一般に、オーダー管理、配送管理、リターン、状況追跡などのタスクが含まれます。

ビジネス・クエスチョン (business question). さまざまなキャンペーン、イニシアチブの成功、およびストアを利用するカスタマーについての特定の情報に関するビジネス・レポートで回答が得られる質問のこと。

ビュー (view). 1 つまたは複数のテーブルからのデータの代替表現。ビューには、ビューが定義されたテーブル (単数または複数) 内の列の全体または一部が含まれます。

複製 (replication). 一連の定義済みデータを複数の場所で保守するプロセス。複製では、ある場所に指定された変更点を別の場所へコピーし、両方の場所のデータを同期化する作業が行われます。 WCA の場合は、WebSphere Commerce データベースから WCA サーバーの一時テーブルにデータを移動するプロセスです。

［マ行］

マイニング・ベース (mining base). マイニング実行設定とそれに対応する結果に関するすべての情報が保管されるリポジトリー。

メタフォー (metaphor). 商品アドバイザーのコンポーネントの一部として提供されている WebSphere Commerce フィーチャー。これは、ショッパーが商品間をナビゲートするための 3 つの使用法のパラダイム (メタフォー) を提供します。すなわち、商品探査、セールス・アシスタント、製品比較です。商品探査メタフォーでは、ユーザーは商品の特性 (価格、色、タイプなど) の要件 (制約) をいくつか設定して、それに合致する商品を検索することができます。セールス・アシスタント・メタフォーは、商品の詳細に通じておらず、特性の要件が設定できないショッパー向けです。このメタフォーでは、一連の質問を出すことによって、顧客の求めている商品を推測します。商品比較メタフォーでは、ユーザーは複数の商品を比較することができます。メタフォーについて詳しくは、WebSphere Commerce の資料を参照してください。

［ヤ行］

ユーザー登録プロパティー・ファイル (User Registration properties file). ストアに応じた正しい言語と国をサポートするために必要な情報が含まれた WebSphere Commerce サーバー上のファイル。

［ラ行］

列 (column). リレーショナル・データベース管理システムにおける、属性の名前。特定のエンティティーの説明を形成する列値の集合を行と呼びます。列は、非リレーショナル・ファイル・システムのレコード内のフィールドと同等です。

レポート・アプリケーション (reporting application). ビジネスのカスタマーおよび販売トランザクションに関する情報を収集するプログラム。

E

ETL. 抽出 (Extract)、変換 (Transform)、およびロード (Load)。あるデータベースからデータをプルし、異なるタイプの別のデータベースに入れるときに実行される機能です。

O

ODBC 名 (ODBC name). データベースの Open Database Connectivity 名。

ODS. 操作データ・ストア。 ETL 処理用の作業域です。 WebSphere Commerce からのデータは、ODS (_r テーブル) に複製されます。

P

PMML. 予測モデル・マークアップ言語 (Predictive Model Markup Language)。企業が事前モデルを定義し、準拠するベンダーのアプリケーション間でモデルを共用できるようにする方法を提供する、Data Mining Group により定義された XML ベースの言語。

R

RFM. 新しさ (Recency)、頻度 (frequency)、金額 (monetary)。顧客が最後に購入を行った時期 (新しさ)、顧客の購買頻度 (頻度)、および顧客が消費する金額 (金額) を調べることにより、最良の顧客を判別するために使用される手法。

RFQ. 見積要求 (Request for quotation)。企業や公共機関が必要とする、示された商品やサービスを提供するように提供者を勧誘すること。

W

WebSphere Application Server. 企業のデータおよびトランザクション業務を e-business の世界に統合する、包括的な Java 2 Platform, Enterprise Edition (J2EE) 1.3 と Web サービス技術を基礎としたアプリケーション・サーバーです。豊かなアプリケーション展開環境によって、ダイナミックな e-business アプリケーションを作成、管理、展開し、大量のトランザクションを処理し、下流工程のビジネス・データとアプリケーションを Web へ拡張することができます。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アクセシビリティー 28
アンインストール
  アンインストール後のアクティビティー 78
  除去されるサブディレクトリー 77
  WCA 77
インストール
  インストール前の要件 5
  チェックリスト xii
  提供すべき情報 6
  トラブルシューティング 97
  WCA 13
ウェアハウス構成 97
ウェアハウス・ステップ
  実働モードへのプロモート 41
  トラブルシューティング 98
  プロモートの準備 40
ウェアハウス・センター
  コントロール・データベース、構成 38
  デフォルトのユーザー ID およびパスワード 84
  ログイン 84
ウェアハウス・センター - コントロール・データベース
  初期化 83
ウェアハウス・ソース、ホスト名の変更 85
ウェアハウス・ターゲット、ホスト名の変更 86
エラー
  1 次キー 99
  DB21034E 99
  EHN0229 97
エラー・メッセージ
  ウェアハウス・センター - コントロール・データベース構成時の 93
  ストア情報の変更中 95
  データマート作成中 89
  複製の構成中 90
  DWC07356E 97
  IWD0902E 90
  IWD0903E 90
エラー・メッセージ *(続き)*
  IWD0904E 90
  IWD0905E 90
  IWD1002E 92
  IWD1003E 92
  IWD1004E 92
  IWD1005E 92
  IWD1006E 92
  IWD1007E 92
  IWD2002E 89
  IWD2005E 89
  IWD2007E 90
  IWD2009E 93
  IWD2011E 95
  IWD2012E 95
  IWD2018E 96
  IWD2021E 95
  IWD2030W 95
  IWD2049W 96
  IWD2050W 96
  IWD2051W:SQL30081N 96
  IWD2172 93
  IWD2175 93
  IWD2178 94
  IWD7356E 94
  SQL1013N 97
  WebSphere Commerce への接続時 89

[カ行]

会計カレンダー要件 19
カスタム・ロード 21, 40, 87
カタログ
  作成 10
  選択 46
  編成 10
環境変数
  IWDA_DATA 105
  IWDA_DB2DIR 105
  IWDA_DIR 105
  IWDA_JREEXE 105
キーボード 28
キャプチャー・プログラム
  開始 71
  実行 69, 70
  停止 71, 72, 78
  iSeries 71
  iSeries プラットフォーム 72
  LOGRETAIN 69
  WebSphere Commerce サーバー上のセットアップ 69
共存
  WCA の旧のバージョンとの 5
  WebSphere Commerce Analyzer V5.4 との 5
強調表示規則 ix
構成
  ウェアハウス 97
  ウェアハウス・センター - コントロール・データベース 38
  後のタスク 73
  作成されるデータベース 19
  タスク 28
  チェックリスト xii
  データ・マイニング環境 36
  データ・マイニング・スケジュール 36
  パラメーター・マネージャー 66, 67
  複製 34
  変更 66, 67
  WCA 19
    概要 19
    カスタム・ロードを選択 21
    高速ロードを選択 21
    初回後 66
構成後のタスク 73
構成前 19
構成マネージャー
  エラー 66
  ショートカット・キー 28
  使用 28
  説明 19
  タスク 28, 29
  ヘルプの表示 66
  log 66
  Windows プラットフォーム上での開始 27
構成マネージャーのショートカット・キー 28
高速ロード 40, 87
  構成パラメーター 21, 32, 39
コマンド
  InterestItemAdd 99
  OrderItemAdd 99
  OrderItemUpdate 99

[サ行]

作成
  カタログ 10
  WCA データマート 31
サブスクリプション情報 97

© Copyright IBM Corp. 2000, 2003

サポート Web サイト　xi
サンプリング・レート　73, 76
システム管理者、説明　2
システム管理ストレージ
　参照： SMS
実働モード　97, 98
処理オプション　97
資料、WCA　x
身体障害　28
スキーマ名、WebSphere Commerce テーブルの変更　86
スクリプト
　whouseprocs.bat　97
　whouseprocs.sh　97
スケジューリング、複製と抽出の　74
ステップのプロモート　40
ストア
　設定　45
　選択　45
　変更　45
選択
　カタログ　46
　言語　45
　ストア　45
　通貨　45
前提条件ソフトウェア　14
ソフトウェア
　必要な　6
　WCA とともにインストールされる　6

［タ行］

チェックリスト
　インストール　xii
　構成　xii
　構成後　73
　構成前　19
抽出
　実行　74
　スケジューリング　74
　定義　3
抽出スクリプト
　カスタム・ロード　21
　高速ロード　21
　ロード方法　21
抽出プロセス
　トラブルシューティング　99
　問題からの回復　101
重複キー　97
データウェアハウス・センター
　参照： ウェアハウス・センター
データベース管理ストレージ
　参照： DMS
データベース計画　6
データマート　101
　作成　31
データマート *(続き)*
　説明　1
データ・ストレージ・タイプ　21
データ・マイニング
　実行スケジュールのセットアップ　38
　スケジュールの構成　36
　停止　38
　閉じたループ　38
　非活動化　38
　モデル　38, 50
　activating　37
　configuring environment　36
閉じたループ　38
トラブルシューティング　100, 101, 102, 103
　インストール　97
　ウェアハウス構成　97
　構成マネージャーのヘルプ　66
　構成マネージャーのログ　66
　パスワード、テーブルの変更　98
　複製　98
　複製ステップ　97
　レポート内の DBCS または MBCS 文字が壊れている　104

［ナ行］

ネットワーク障害　102

［ハ行］

ハードウェア、必要な　5
パフォーマンスの考慮事項　5, 21
パラメーター　53, 54, 55, 56, 57, 58, 60, 61, 63, 81, 82
パラメーター・マネージャー　66, 67
ビジネス・アナリスト、説明　2
ビジネス・マネージャー、説明　2
ビジネス・レポート
　アクセス　1
複製
　オプション　97
　構成　34
　構成前　23
　コントロール・データベース　87
　実行　74
　スケジューリング　74
　ステップ　86, 97
　制御テーブル　34
　前提条件　69
　定義　3
　トラブルシューティング　98
　非連続　23
　問題からの回復　101
　連続　23
複製 *(続き)*
　options　23
複製制御テーブル　34
ブック、WebSphere Commerce　xi
プロセス・モデル　98
プロモート
　ウェアハウス・ステップの実働モードへの　41
ヘルプ、構成マネージャー　66
変更
　ウェアハウス・ソースおよびターゲット中のホスト名　85
　ストア　45
　WCA の構成　66
　WebSphere Commerce テーブルのスキーマ名　86

［マ行］

マイニング・モデル　38, 50
問題判別
　インストール　97
　ウェアハウス構成　97
　構成マネージャーのエラー　66
　抽出　103
　抽出プロセスの失敗　100
　データベースのスペース不足　102
　ネットワーク障害が発生　102
　パスワード、テーブルの変更　98
　複製　98, 103
　複製ステップのプロモート　97
　レポート内の DBCS または MBCS 文字が壊れている　104
　ASNCAP 停止　103
　DB2 トランザクション・ログ・フル　102
　Windows の障害　102

［ヤ行］

ユーザー・タイプ、WCA　2

［ラ行］

ライセンス情報　xii
レジストリー・キー　105
レポート・アプリケーション
　説明　4
レポート・フレームワーク　4
ロード例外テーブル　100
ログ、構成マネージャーの表示　66
ログイン、ウェアハウス・センターへの　84
ロケール、検索　106

A

ABANDONED_MINUTES 60
ABANDONED_ORD_STATUS 60
ASNCAP 103

C

CONTRACT_ACTIVE 63
CONTRACT_CANCELLED 63
CONTRACT_IN_PREPARATION 63

D

DB2
　トランザクション・ログ 102
　パスワードの制限 15
DB2 Universal Database
　サポート Web サイト xi
DB2 ウェアハウス・センター
　参照： ウェアハウス・センター
DBCS 104
DMS 102
　説明 21
　パフォーマンスの考慮事項 21
DMT_PROSPECT_ORD_STATUS 58
DMT_PURCHASER_ORD_STATUS 58
DWC07356E 97

E

ETL 21, 38

F

FACT_INTEREST テーブル 99
FE_EFFECTIVE_MINUTES 57
FE_EFFECTIVE_ORD_STATUS 56
FM_EFFECTIVE_MINUTES 57
FM_EFFECTIVE_ORD_STATUS 57

I

Intelligent Miner for Data
　インストール 14
　確率標本の取得 (Get Random Sample) 機能 73, 76
　サポート Web サイト xi
　データ・マイニング機能 2
　WCA の操作 4
InterestItemAdd コマンド 99

L

LOGRETAIN 69

M

MBCS 104

N

NON_PURGE_ORD_STATUS 54

O

ODS RUNSTATS 75
OrderItemAdd コマンド 99
OrderItemUpdate コマンド 99
ORDERS_AWAITING_PAYMENT 54
ORDER_STATUS_BILLED 53
ORDER_STATUS_CANCELLED 54
ORDER_STATUS_COLLECTED 54
ORDER_STATUS_ID_NOREV 53
ORDER_STATUS_ID_SUM_MEMBER 55
ORDER_STATUS_ID_SUM_TRADING 56
ORDER_STATUS_XFERRED 54

R

RFQRSP_OUTSTANDING_ORDERS 61
RFQ_RESPONSE_IN_PREPARATION 61
RFQ_WINNING_RESPONSES 61
RUNSTATS 75

S

SMS 102
　説明 21
　パフォーマンスの考慮事項 21
SQL1013N 97

U

USR_TRAFFIC ログ 99

W

WCA
　アンインストール 77
　インストール 13
　インストールおよび構成時に必要な情報 7
　インストール・プログラム 13
　概要 1
　契約条項 xii
WCA *(続き)*
　構成 19
　構成後のタスク 73
　サーバー 13
　資料 x
　前提条件ソフトウェア 14
　データベース計画 6
　データマート 1
　共に提供されているソフトウェア 1
　ビジネス・レポート 1
　必要なハードウェア 5
　必要なsoftware 6
　ユーザー・タイプ 2
　ロケール 106
　WCA の旧のバージョンとの共存 5
　WebSphere Commerce Analyzer V5.4 との共存 5
　WebSphere Commerce の操作 2
WCA Advanced
　データマート 101
WCA RUNSTATS 75
WCA データマート
　作成 31
WCAEXCEPT スキーマ 100
Web サイト、サポート xi
WebSphere Commerce
　インストールおよび構成時に必要な情報 6
　オンライン・ストア 1
　カタログの作成 10
　サーバーに対して必要な更新 9
　サーバーへの接続 29
　サポートされているデータベース・タイプ 9
　サポートされているプラットフォーム 9
　テーブル、スキーマ名の変更 86
　トランザクション・データベース・サーバー 3
　ブック xi
　要件 9
　予想される言語 106
　WCA の操作 2
　WebSphere Commerce Accelerator 1
WebSphere Commerce Accelerator 1
WebSphere Commerce Analyzer 構成マネージャー 19
WebSphere Commerce サーバーへの接続 29
whouseprocs.bat スクリプト 97

［特殊文字］

%IWDA_DIR%、定義 x

Printed in Japan

日本アイ･ビー･エム株式会社
〒106-8711　東京都港区六本木3-2-12